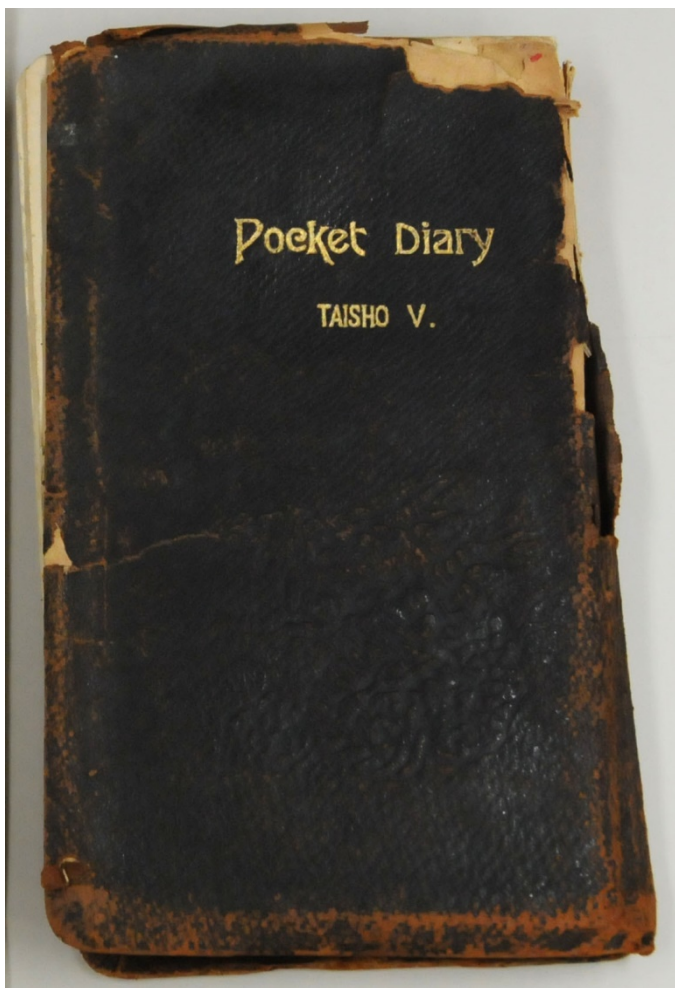




伊藤音次郎日記

1916(大正 5)年

文字データ作成: 一般財団法人 日本航空協会 2018(平成 30)年 6 月

* お気づきの点などございましたら、ご教示のほどお願い申し上げます。

一般財団法人日本航空協会

航空遺産継承基金事務局

〒105-0004

東京都港区新橋 1-18-1

電話 03-3502-1207

ファクス 03-3503-1375

電子メール isan@aero.or.jp

禁無断転載 © 一般財団法人日本航空協会

▲▼表紙2▲▼ 羽織寸法

身丈	二尺五寸五分
ゆき	一尺六寸五分
うしろ	七寸五分
前	四寸三分
ちゝ付	かたおり八寸
袖丈	一尺三寸五分
全巾	八寸五分
全口	七寸
まち巾	一寸八分
ゑり巾	一寸八分

▲▼表紙2の続き▲▼ 着物寸法

身丈	三尺四寸
ゆき	一尺六寸五分
うしろ	八寸
前	七寸
おくび巾	四寸一分
おとし	五寸五分
つまたけ	一尺六寸
袖たけ	一尺三寸五分
全巾	11寸五分
全付	一尺一寸
全口	七寸

▲▼Oページ▲▼

大正五年

▲▼1ページ▲▼ 一月

八月迄ニスベテノ借金ヲ返済スルコト
ソレ迄禁酒スルコト
フロートノ研究
塗料ノ研究
多葉ノ研究
安定ノ研究
發動機ノ研究

▲▼2ページ▲▼ 大正5(1916)年1月1日(土)

天気 曇小雨

消燈ト同時ニ起床 大口ニ昨日カラ云フテアルノニマダ起キナイノデ自分デ木ヲ切り
飛行機ニおそなるヲナス
今成田ヘ参詣スルツモリノ處膝ガ痛シダノト玉井藤君ガ來ルト云フノデ中止 お晝前
玉井君來 四時四十分ニテ歸ル 酒ヲ出シテ一年振ノ談話ヲナス
夜飛行機ヲツクリ八時床ニ入ル

▲▼3ページ▲▼ 大正5(1916)年1月2日(日)

天気 雨

朝一寸晴レソーニ見エタガ又降り出シタ。日記ヲツケ今朝ハお吉ニコシラエサセタ大坂雜
煮ヲ喰ツタ ウマカッタ
十時四十分發ニテ成田ニ参詣ス 大口、本郷ニ君同行
成田山新勝寺ハ予想ニ及バナイコト遠カッタ 梅林ヲ見ル 参詣ハ例ニヨツテ自分ハ自分
ノベストヲツクスカラ保護セラレタシトヨリ外ナカッタ 昨冬金ニ困ツタノハ一ハ操縦術ニ
全力ヲソヽイダ爲メ金ノ力ガツヒ押ツマル迄氣ヅカヅニ居タ。ツマリ努力ガ足りナカッタ
ノデアッタ
梅林カラ四方ヲ見下シタ時又汽車ノ中デモ常ニ風光ニ注意シナガラ發動機停止シタ
時ノ心掛トナス。田ト畑ノ境 森林ガ横ニ永ク連ナル處ナドハスベテガケニナツテ居ルコ
トニ注意シナケレバナラナイ
晝食ハ鳥鍋ニシニ時三十分ニ乗リオクレ四時十五分ニテ歸ル 頗ルノロイ汽車デ六時ニ
ヨイヤク帰宅シタ

▲▼4ページ▲▼ 大正5(1916)年1月3日(月)

天気 曇晴

浅間神社参拝 操縦法、並ニ経営法ヲ考フ
晝食後大口、本郷、薬屋二名ト千葉ヘ行ク。猪ノ花山ニ登ッテ見下スニ自分ガ此間飛ン
ダノハ丁度此山ノ上ヲ廻ッテ本所通りヲ右ニ見テ鉄道線路ニ出タコトガワカッタ
公園ヲ散歩シ自分ハ繪ノ具ト千字文ト牛肉ヲ求メテ千葉神社ニ行ク 見世物小屋ナ
ドカ、リテサスガ千葉ニハ正月ラシイ気分ガ充チテ居タ 本郷君ハ材木屋ニ行ク 四時
頃帰宅 薬屋二名ト牛肉ヲ喰フ 食後ハ十一時頃迄話シテ居タ

▲▼5ページ▲▼ 大正5(1916)年1月4日(火)

天気 晴

七時起床 好晴無風 始飛行ヲヤリタカッタガドーモ白戸ノ事ガ気ニカ、ッタノデ九時
二十分デ上京。河村サン行ク 二日ノ日白戸來 イヨ、分レルコトニ決心シタカラドコ
カヘ家ヲ持ツノダトノコト 晝食デ酒ヲ馳走ニナリ白戸ニ行ク 妻君ハ寢テ居タ 白戸ト
二人デ出白戸ガ宅ヲサガストテ葵橋カラ仲町、氷川町ノ方ヲグル、アルカサレタガツ
ヒニ見アタラス電車ニテ新橋ニ來

今朝ニ入り牛肉ヲ喰ヒナガラ今朝河村サンデ聞イタコトヲ又聞ク ソコヲ出テ鳥飼ニ行
ク 氏不在 正雄サン一人 御カミサンガ又酒ヲ出シテ呉レタ 豊サン帰ル。チューブガ
ソロワナイノデ、アス帰稲スル様云ヒツケル 自分ハ白戸ト銀座通りヲ散歩シ伊東屋デ
買物ヲナシ七時五十分發ニテ帰稲 九時着

▲▼6ページ▲▼ 大正5(1916)年1月5日(水)

天気 晴

昨夜來ノ風益々ツヨク終日吹キマクル

年賀状ノ追加 写真整理 新聞 晝食後佐原ヘ大會ニツイテ手紙ヲ出ス。インディアン
ノ水上設計

豊サン帰ル

大口挽物道具出來上リ、サカヅキヲケヅリ初メル

夕食後コーヒーヲ煎ジル

▲▼7ページ▲▼ 大正5(1916)年1月6日(木)

天気 晴

朝風ハナカッタガ後チ大分吹イタ 参拝シナガラ操縦法ト宙返リ飛行ニツヒテ工夫シ
タ お晝前カラ千葉ヘ繪葉書帳ヲ買ヒニ行キ散髪ヲナシ新昌亭ニテ晝食 タソガレ時帰
稲毛

夜繪葉書ヲ整理シ飛行界ヲ讀ム

▲▼8ページ▲▼ 大正5(1916)年1月7日(金)

天気 晴

七草デ絶好ノ飛行日和 ガソリンノ量ヲハカルベクお晝頃ヨリ初飛行ヲナス 旋回数回着陸直チニ飛揚 本千葉停車場上ヲ旋回 帰場着陸 スベデ二十三分 モー七分飛ブベク少憩後プラグナド取替ヘル 最後ハ馬鹿ニ力ガ出テ居ル様ダッタ 小円ニ旋回又旋回 或ハ高ク或ハ六尺位ノ低空旋回モヤッタ 十二分飛ンダ 合計三十五分 ガソリンタンク直径七寸九分一パイ入レタノガ三寸六分使用シタ 時々ミッススルガ別ニ何ントモナイ様ダ 二時頃晝食後切抜整理 夜ハ例ニヨッテ右ノ目ガ痛ンダノデ早ク床ニ入り目薬ヲサス 此前小旋回ヲノベツヤルト頭ガ変ニナッタガ今日ハ益々元氣ガ出タ 多分酒ヲヤメタセイデアロー

▲▼9ページ▲▼ 大正5(1916)年1月8日(土)

天気 晴

今日ハ陸軍初メデアル ソシテ例ニヨリ二重橋前デ觀兵式ヲ行ワセラレル 朝白戸カラインディアンノ設計ニ三日帰ヘテ呉レトノコト。ソノツモリヲシテ居タガ時間ガタツニツレソヨトノ風モナクナッタノデシカモ今日ハ大變日ガ好イトノコトヲ聞イテ居タノデ東京ヘ飛ンデ行クベク決心シタ。ソシテガソリンヲシラベサセルト足リナイ お吉ノ方ノヲ貰デモ僅カニ五合バカリシカナカッタノデヤムヲ得ズ花チヤンニ金ヲ借り自轉車デ千葉ヘニガロン買ヒニヤッタ 其内ニ準備ヲトノエマグネト、プラグ、ガソリンパイプ、スイッチ、カーブレーター、ワイヤーヲ調ベ引出スモお晝モ過ギタノデ一寸メシラカキコミ寒氣ヲオボエタ時ノ用意ニ酒ヲ五勺バカリポケットニ入レル 時計ハ丁度十二時ノ處ヘ居キ、出發 岸ヨリ發シケイカイ上ヲ右回シテ東京ニ向フ 津田沼ヲ五分バカリデ通

(391ページへ続く)

▲▼10ページ▲▼ 大正5(1916)年1月9日(日)

天気 曇リ

朝食十時 ソレカラインディアンノ設計ニカゝル 設計ト云ツテモモー出來テ居ルノデ、材料ヲシラベ木ヤ金物等ヲ皆書キ出シテ終ツタ處ヘ都築サンガ來タ 奈良原ノノームヲタレガ東京ノ人ガ引取ツタノダガ、仕様ガナイノデ使カツテ呉レト頼マレタカラヤツテ

見テハドーダトノ話シデアッタ 白戸ハ發動機ヲ完全ニ直シテ外二千円出シテ呉レレバヤ
ッテ見様ト答ヘタ。夕食ヲ共ニシ夜都築氏帰ル 後チ活動ヲ見十一時床ニツク
夜雨降ル

大坂へ手紙出ス 白戸新聞ヲ送ル

▲▼11ページ▲▼ 大正5(1916)年1月10日(月)

天気 晴曇

朝食例ニヨッテ十時。スグ仕度シテ北海道ノ方ヲ白戸ニ頼ンデ加藤ニ行キプロペラヲ見
テ河村サンニ帰ル 伊藤ト云フ人ガ居ナクナッタカライツ辻稲毛ニ居テモ金ガカヽッテイ
ケマイカラ帰ッテ來イトシキリニ進メラレタ

後チ鳥飼ニ行キ正雄君ト友野へ同道 製作中ノ發動機ヲ見テ帰宅 鳥飼ヨリ電話アリ。
朝日カラ写真ヲ貸シテ呉レトノコトデ自分鳥飼へ持テ行キ五時發ニテ稲毛ニ帰リ夕食
ヲナス 祝電ヤ手紙が大分來テ居タ 昨日ハ新聞屋が大分來タ由
松木君カラ祝ヒノハガキガ來タ。スグ電話デ話シタ 実ニ八年振りデアッタ

▲▼12ページ▲▼ 大正5(1916)年1月11日(火)

天気 晴

アタヽカイ無風ノ日デアッタ

午後千葉へ行ク予定ノ處鳥飼氏來。晝食中青山着陸ノ話シ出ズ 其時ハサンセイシタ
ガ、後チ一二日ノ考ヘヲ乞フ

玉井氏發動機試運轉中クランクシャフト折レル。実ニ氣ノ毒デアッタ モー少シアノ人
ガ自分等ノ言ヲ用ヒテ呉レルナラ自分ノ機デ練習サセテ上ゲテモヨイノダガセメテ同
乗デモサセテ上ゲヨト思ッタ

夜繪葉書ヲ整理ス

各方面へ禮状ヲ出ス。竹島、佐渡島、野島、其他

▲▼13ページ▲▼ 大正5(1916)年1月12日(水)

天気 曇リ

北風デ寒カッタ 朝食後千葉へ大口ト行ク 散髪ヲナシ晝食ヲシテ自分ハ帰ル 大口ハ
新聞社ニ行ク

帰宅後ヨリ夜ニカケ写真整理ヲナス

▲▼14ページ▲▼ 大正5(1916)年1月13日(木)

天気 晴

写真ブック整理。午後友野氏來。飛行機ヲ賣ラナイカトノコトニ五千円デ内五百円友野ノ口銭トシ手取現金四千五百円ナル賣ルト云ツテ居イタ 一週間以内ニ返事スルコトニシテ貰フ

夕方東京へ行クツモリヲシテ居ル處へ白戸來 松本ノ相談ヲナス ヤッタラヨカロートノコト。明日羽田ノ方へ行クカラ一所ニ行カウトノコトデツヒニ行ク
小説ガアッタノデ讀ム内三時ノ時計ガナツテ驚イテヨス

▲▼15ページ▲▼ 大正5(1916)年1月14日(金)

天気 晴

今朝少シ眠ロートシタガドーシテモ眠レナカッタ 十時起床 清水へ電話ヲカケル 後濱氏ト野島、宅へ手紙

晝食並朝食後白戸ト二人デ出懸ケル 羽田穴守サンカラ川崎大師 コゝデ白戸ガ御クジヲ引イテ呉レタガ吉デトニカク春ニテカラ活動シタ方ガヨサソーデアッタ

ソレカラ鶴見ノ總持寺ヲ見花月園ヲマワツテ歸リニ大森ニテ食方々砂風呂ニ行ク。ヨセバヨイノニ白戸ガ藝者ヲ上ゲテ一寸五円バカリ使ツタ 砂風呂ト云フカラ砂ガ敷イテアツテ、ムシ風呂ニデモナツテ居ルノダト思フトアタタガイ砂利ノ上ニ蒲團ガ敷イテアツタ ナンノコトハナイ 朝鮮ノオンドロ其マゝダ。終日眠クテ頭ガ痛カッタ

加藤ニヨリプロペラヲ貰ヒ終列車ニテ歸ル

豊サン練習シタ由

湯ニ入り床ニツク 草道君今日來タトノコト 寢テ居タ

▲▼16ページ▲▼ 大正5(1916)年1月15日(土)

天気 曇リ

浅間神社参拝 操縦法 散歩

プロペラノピッチヲシラベル

正午加藤ト戸延來 一パイノマセル。ガソリン來ラズ

豊サンヲ津田沼ヘヤル 昨日東京迄行ツタコト行ツタガ持ツテ來ナカッタトノコト。仕方ガナイノデ少シ残ツテ居タガソリンデ、五時頃少イサクニ回マワツテ波状ヲナシ無事着陸。新ラシイプロペラヲツケタ處ステキニ力が出タノミナラズ、少シモ震動ガナクナツテ
氣持ガヨカッタ 七時三十七分ニテ二人歸ル。夜フノ又デ塗料試験ヲナス

▲▼17ページ▲▼ 大正5(1916)年1月16日(日)

天気 晴

参拝 散歩 操縦法 宙返り法

日記 新聞 雑誌

午後額縁ヲ作ル

夜玉井君來 草道君ノ氣焰ヲ聞ク

▲▼18ページ▲▼ 大正5(1916)年1月17日(月)

天気 晴風強シ

参拝 散歩 操縦法 宙返り法

額ブチヲ作ロート思ツタガ、ニカワガナカッタノデ中止

1914飛行機表ヲ作ル 夜モ

朝山縣東京ヘヤル

大坂ヨリ写真來ル

▲▼19ページ▲▼ 大正5(1916)年1月18日(火)

天気 晴

今朝ハ散歩中馬鹿ニ金ノ事ガ氣ニナリ出シタ ソシテ大會ニツヒテ木更津ヲ一ツ町長ニ手紙ヲ出シテ見様ト思ツタ。大口ニ駅長ニ様子ヲ聞キニヤル 町長モヨイガ木更津駅長モ中々顔ノ広イ人ダト云フコトヲ聞イテ來タ

友野君ヨリ手紙來 有望ダカラ見ニ行クトノコト 時日ヲシラセテ貰ヒタイトノコトニイツデモヨイト云ツテヤル。午後豊サン歸ル 草道、東京ニ行ク
飛行機表出來上ル。後チ切抜整理

▲▼20ページ▲▼ 大正5(1916)年1月19日(水)

天気 晴

朝風アリ 山形東京ヘガソリン取リニヤル

今日ノ風デ飛ベルガ飛ベナイカト種々工夫シテ見タ

夕方前山形、草賀二人歸ル

自分ハ額縁ト白戸ノ便所ノ引手ヲツクル

大口車輪ノ取付

晝前セイコウヲシユクシ、シヨウライノハッテンヲノゾム、カワトシタ電報ガ來タ 發信局ヲ見ルトテウシガ明キリシテ他ガ分カラナシ ハテ、タレダロート色々考ヘタガドーシテモ、ワカラナカッタガ大口ガ見テ河辺ジヤナイカトノコトニソーソソレデハ長春ニ居ルノ

ダナト分カッタ

▲▼21ページ▲▼ 大正5(1916)年1月20日(木)

天気 晴

友野ガ來ルカト思ツタガツヒニ來ナカッタ

千葉ノ消防出初式ヲ見ニ行クツモリデ機ヲ引出ス 十一時頃ヤル 北方デアッタガド
ーモユラレルコトハゲシク上ガツタカト思フト下ガル 実ニイソガシカッタガマヅ用心ノ甲
斐アツテ無事着陸 マモナク風ハモー烈ニ吹キ出シタ

午後東京ニ行ク。川村氏ニテ夕食後白戸ニ行キ明日ノ打合セヲナシ川村氏ニ歸リテ泊
ル

飛行機ノ賣レル様御母サンニ御参リヲタノム

▲▼22ページ▲▼ 大正5(1916)年1月21日(金)

天気 晴

六時半起床 朝食 スグ新橋ニ行ク 十分バカリシテ白戸來 スグ乗車。車中切抜ヲ讀
ム 九時半田浦着 船越二日日新聞ノ丹波氏ヲ尋ネ同道シテ追濱ニ行ク 氏ノ照會ニ
テ金子少佐ニ會フ 少佐イソガシク井上大尉ニ話ヲ聞ク 後チ塚田一等兵曹ニ案内セ
ラレイロハニ號スベテヲ見ル。後チ飛行将校ノスベテハ横浜ノ殉難将校ノ追悼會ニ行ク

山本中尉一人当直シテ居タ 一時間バカリ又中尉ト話シテ帰途船越ニテヤット晝食ニ
アリツヒタ 時四時半

六時五十八分ニ乗ルツモリデ出タ處丁度列車ノ出ル處デアッタ 七時半丹波氏ト共ニ
歸ル

行キハ練習飛行ニ迎ヘラレ歸リハサーチライトニ送ラレタ

白戸ニ泊ル

▲▼23ページ▲▼ 大正5(1916)年1月22日(土)

天気 晴風

十二時朝食 フロート設計。後チ浅野ニ行キ海軍ヘ納メテ居ル板ヲ見ル シナトカ云ウ
木ノヨシ 重量ハ一平方尺七十二三匁 重量ハヨシトシテ三六モノナラ尺物十五錢ノガ
十三尺モノニナルト四倍ノ六十錢ニナルノデ板ダケ九十三円余カヽルコトニナルノデ中
止 三六デ間ニ合セルベク帰宅後再ビ製圖

夕食後帰途ニツク 九時ニテ帰稻

国民飛行誌出ル 自分ノ肖像ガ出テ居タ 雑誌ニ出サレルノモ初メテ 大坂ヘ送ツテヤ

ルベク二冊買フ

▲▼24ページ▲▼ 大正5(1916)年1月23日(日)

天気 晴強風

参拝 散歩 朝食、新聞 手紙 日記、写真ノ焼増ヲナス
晝食後大口ト千葉ニ行ク 自分散髪 大口樫注文ニ行ク
夜写真ブックノ晝ヲカク

▲▼25ページ▲▼ 大正5(1916)年1月24日(月)

天気 曇少雨

今日朝白戸ヨリ手紙來 小林氏三四月頃飛行シテヨイカラ契約シテ呉レトテ上京
セラレタトノコト 自分東京ニ行キ支那人ノ方ヲ聞イテ何ントカキメルコトニスルベク大
口ニハカル 大口モ一所ニ行クト云フノデ仕方ガナイカラ、兎ニ角夕方汐ノ上ゲル迄若
シ支那人ガ來ルカモ知レナイノデ待ち、上京ス 河村氏ニ行キ大口ハスグ友野ニヤル
十時ニナツテモ帰ラナイノデ電話ヲカケルトマダ居ルトノコトニスグ帰ル様ニツタヘテ貰フ
十一時過ギヤット帰ッテ來タ オシヤベリニハ実ニヨマル。兎ニ角明朝支那人ニ友野へ來ル
様電報ヲ打ッタトノコト

▲▼26ページ▲▼ 大正5(1916)年1月25日(火)

天気 晴

朝食後鳥飼氏ニ行キカケル處へ友野カラ電話アリ。スグ大口ヲヤル 自分ハ鳥飼氏ニヨ
リ白戸ニ行キ小林ノ大口ノ返事ヲ待ツ 大口ヨリ電話アリ 二月デナケレバ極ラナイ
カラ契約シテ呉レトノコト 兎ニ角今日飛行ヲ見セテ貰ヘルカトノコトニ承知スル。スグ小
林ニ電話ヲカケ白戸ニ來テ貰フコトニスル。其時十一時モ過ギタノデ飛行ノ間ニ合ワナ
クナルノデ契約ハ三百五十円 費用向フ持五十円及三百円手金ノコトニテ白戸ニ頼ン
デ河村氏ニ行キ大口ト共ニ晝食ヲ馳走ニナリテ十二時四十分乗リオクレ一時四十分ニ
スル 両国ニテ支那人ト河村氏トモ一所ニナリ、三時稲毛着 仕度スル

機ヲ引出シ滑走少ナクスグ飛揚セシニ發動機ノ音響非常ニ悪ルク下ゲル。ソレヨリプラ
グ等ヲシラベ一部分取替ヘテ回轉スルニ直ラズ。山縣ガフト、カムロットノブラケットガブ
ラサガツテ居ルノニ氣ガツイタ 見ルトナットガ一ツナクナツテ居タノデ一番ノシリンド
ガー排氣サクシヨ共ニシナクナッタコトガ分カツタ 其内汐ガ上ゲテ來タノデヤメルコ
トニシタ。

吉永君ハヨマルハト云ツテ居タガツヒニ今夜泊ルコトニシタ 河村氏五時半ニテ帰ル

余見送ル。

夜朱晴波君ニ馳走ニナル 大口玉井山縣草賀共ニ
広島ノカヅ子ト五二郎ヨリ手紙ガ來テ居タ

◆◆27ページ◆◆ 大正5(1916)年1月26日(水)

天気 晴風少ナシ

午前参拝朝食後山形トスプリング入替ヘヨナス カナリ、ヘツテ居タ 大口ナットワツクル。出來上ルヤ引出シテ試運轉 約一分間ヨシ。仕度ヲナシ飛揚ニカハル 沖ニ向ツテ少シ上ガルト又ブル、ヤリ出シタ スグ着陸 皆モ來テシラベタガベツニドーモナイカ、發動機取付ノナットガ皆ユルンデ居タ ソレヲスツカリベテ、コードヲユルメ試験 一分半スコブルヨシ

コンドハ用心シナガラ北ニ向ツテ飛揚 場上ヲ二三週百米突位ノ高度ニテ低空モ一回ヤツテ無事着陸 カハステキニ出テ居タ

ツギニ吉永君ヲ同乗サセ一週。次ギニ玉井君同乗 小田三回後ノ一回ハ着陸シソコネテ、仕方ナシノ飛行 無事着陸。朱モ非常ニ喜ンデ吉永君ガ貞(ママ)察自由ノ由ヲツゲテ帰ヘツタ

機ヲ格納庫ニ入レタ處ヘ川村氏來。兎ニ角晝食ヲトル 時スデニ二時半。食後タバチニ引出シ、飛揚 旋回三週ニウツラントスル時又々ブル、ヤリ出シタ 高サガアッタノデ貝拾ヒヲサケツ、無事着陸。カムロットブラケットノ、シヤフトガ一寸バカリヌケ出シテ居タ 昨日下午ガッタ時ピンガ折レタモノト見エル 兎ニ角スベテノ原因ハ機取付ナットガユルンデ居タニチガヒナカッタ 尚タガネデナットヲベルコトハ大ニヨクナイ。多分振動ノ爲メタガネノアトカラナットガ割レタモノニ相違ナカッタ。

河村氏同乗 機上ヨリ写真ヲ取ツテ貰フツモリノ處失敗シタ。飛行中ノハ這入ツタ由

◆◆28ページ◆◆ 大正5(1916)年1月27日(木)

イツモノ通ニ起床 参拝 散歩。店ニ居テ空ヲ見ルト寒ニスデキナ好天氣ナノデ急ニ遠足ヲ思ヒ立チ大口、山形、草賀ト四人デ印旛沼三行クコトニナツタ。皆ワラジヲハイテ、ニギリメシヲ腰ニシバリツケ十時出發 一時間デ六方ノ原ニ達シタガ原ヲ通りヌケルノ二二時間ヲツヒヤシ畔田ヨリ臼井田込ハ森ダノ田ノ畔ナドデ大分ナヤマサレニ時漸ク成田街道ノ沼畔ニ出デ茶店ニテ晝食 三十分休息後佐倉ニ出テ四時佐倉ステーションニ着 四時五十分ニテ稲毛ニ帰ル。白戸ヨリ小林君トノ結果シラセ來ラズ ハガキヲ出ス

◆◆29ページ◆◆ 大正5(1916)年1月28日(金)

天気 晴

参拝 操縦法例ノ如ク 朝食、手紙(六村カヅ、五次郎、久七郎、白戸)新聞、後子水上ノ製圖ヲ初メル處へ白戸來
太郎衛門材料ヲ持ッテ來ル 午後機体ノ現圖ヲ引ク 即チ起工式
夜ブレーンノ圖ヲ畫ク

▲▼30ページ▲▼ 大正5(1916)年1月29日(土)

天気 晴

参拝 散歩 朝食 新聞 志賀氏へ手紙
現圖ヲ引キ機体後部ノソケット。豊サン同ソケット
東京ヨリ一學生飛行機ヲ見ニ來ル 夕方帰ル
夕方白戸來
夜雑談 九時就床

▲▼31ページ▲▼ 大正5(1916)年1月30日(日)

天気 晴

参拝 散歩 海気館デ白戸ヲ起シ朝食 新聞
機体各部ノ金物製圖 豊サンニ製作サセル
大口朝千葉ニ行ク 午後コマ製作
夜雑談 白戸モ來
河村、石垣發信
石垣受信

▲▼32ページ▲▼ 大正5(1916)年1月31日(月)

天気 晴

好晴 無風 参拝 散歩。大工二人ニ仕事ヲ命ジ朝食後白戸ヲ起シニ行ク 新聞
午後機体ノメンスパーハギ合セヲナス
白戸フロートノ現圖ヲ引テ大工ト曲木ヲナス
夜吉岡將軍カラ新聞雜誌論ヨリ人生論トナリ雑談ニ夜ヲフカス
白戸夕方東京へ買物ニ帰ル

▲▼35ページ▲▼ 大正5(1916)年2月1日(火)

天気 曇少雨

参拝 散歩 自分大口メンスパー製作

大工一人フロート曲木

豊サン草賀金物

夜写真整理

十二月三十一日迄ノ分白戸支拂シテ呉レル 夕方帰稻セシナリ

▲▼36ページ▲▼ 大正5(1916)年2月2日(水)

天気 曇

参拝 朝食

メンスパーワツクル 夕方釘ナクナリ金物一寸ヤル

夜雑談 床二入りテ、モーターヨリ注意事項ヲ拔書キス

▲▼37ページ▲▼ 大正5(1916)年2月3日(木)

天気 晴

参拝 朝食 今日ハ終日金物ヲ作ル 山形午後東京ヘヤル 買物ノ爲メ

ナイルス君鳴尾ヨリ東京ヘ一飛ビニ飛行スル由

夜今日亀沢カラ貰ツタカステーラノ箱ニ畫ヲ畫キ手箱ニナス。其他二三枚繪葉書ヲツクル 玉井氏遊ビニ來テ居タ。

▲▼38ページ▲▼ 大正5(1916)年2月4日(金)

天気 晴風

夕方山形帰ル。三時白戸東京ニ行ク 馬車明日行クコトニナリ電報ヲ打ツ

今日少シ早仕舞ニシテ大工モ帰シテニパイノム

河村氏明日來ルトノコト 風ガナケレバヨイガ

夜又吹キ出シタ

▲▼39ページ▲▼ 大正5(1916)年2月5日(土)

天気 晴後曇リ

参拝 散歩 シテ居ル内ニ鳥飼、高橋両氏來 高度計ヲ持ツテ來テ呉レタガドーモ今日ハ

昨日程ハナイガ風ガ山カラ吹イテ居タ。スミスノ気流ガ浪ツテ居ルト云フ日ハ今日ノ様

ナ日デアロー

正午頃機ヲ引出シ二三回旋シテ見タガ上ガッタリ下ガッタリ傾カッタリ中々急ガシクテ小サナ高度計ノ目ヲ見ルコトハ出来ナカッタ。後モ一度一週シタガドーモヨクナイノデ中止シタ

鳥飼高橋両氏ハ鉄砲ヲ打ッテアルイテ、カモモ一羽取ッテ來タ 夕食後終列車ニテ帰ル河村氏來ラズ

▲▼40ページ▲▼ 大正5(1916)年2月6日(日)

天気 雨

久シ振リデ雨ガ降り出シタ 氣持ガヨカッタ
メンスパーヲ作ル

夜花台ヲツクル 十一時終リ花 十二時床

夜七時頃海氣館カラ呼びニ來タノデ行ク 白戸ノ外ニ二人ガ居タ 一人ハ此間カラ話シノ林田君ガ旅順カラ來タノデ明後日カラ來ルカトノコトデアッタ 一人ハ其伯父様デアッタ 其人ハ赤羽デ御用商人ヲシテ居ル人ラシカッタ
トメルノニ明日用ガアルトカデ九時五分デ帰ッタ

▲▼41ページ▲▼ 大正5(1916)年2月7日(月)

天気 雪後雨

少シ寝過ギテ目ヲサマスト戸ノスキガ明ルイ 便所ニ行クト雪ガ降ッテモ少シツモツテ居タ 豊サンヲ起シテ格納庫ヘカイモノヲシニ行ク 午後カラ雪雨ニナッタ

午後海月亭ヘ行キ林田君ノ宿ニキメテ居ク。後間モナクヤッテ來タ
夜早寝スル

▲▼42ページ▲▼ 大正5(1916)年2月8日(火)

天気 曇リ

朝床ノ中デヨーヤク多葉ノ翼ノ排(ママ)列ヲ考ヘツイタ 一ツ大飛行機ヲ設計シテ見様。近頃シキリニ將來ヤ民間飛行界ノ事ガ頭ノ中ヲ往來シテ仕様ガナイ ナイルスノ大飛行ニ対シテモ甚ダ残念ナ様ナ氣ガシテナラナイ セメテ所沢迄デモ飛ンデヤロート思ッテ居ルガタンクヲ作ラネバナラヌシガソリンモ買ワナケレバナラナイ 其金ガナイ 白戸ニハ十二月分ヲ上總屋拂ニテ貰ッタカラソレ以上今一寸スグハ取レナイ。然シ所沢迄飛ンデモナイルスノ東京大坂間ニ対シテハタシテドレダケ迄ニ世間ハ見ルカシラ。協会ナドモ何ント思フカシラ。ドーモ馬鹿々々敷様ダ。ソレヨリモ余命スクナイ發動機ダカラ先ヅ借金ヲスマス迄ハアセラナイ方ガヨサソーダ 借金サエスマセバ又新ラシイノデ東

京大阪間ヲヤル方ガ、反ツテヨイダローシカリソーショーソレ迄ハ自分ハ自分ノナスベキ多クノ仕事ヲナサナケレバナラナイ。
晝仕事 夜林田君ノ處へ遊びニ行ク 色々話シヲシテ見タ 中々熱心ダガヤ、熱中シスギテ居ル様ダ ソシテ少シプライドナトコロガアル。シカシ言葉ハ頗ル丁寧デアル。帰宿後床ノ中ニテ藥學ト化学ヲ見ル

▲▼43ページ▲▼ 大正5(1916)年2月9日(水)

天気 晴レ後風

床ノ中デ大飛行機ノ安定ヲ考ヘル ウマイ考ヘモ出ナイ フロート大分形ニナツテ來タズイ分丈夫ナモノダガ中々重イ
お晝ヤスンデ居ル時オギヤー、ト小供ノ泣声ガシタト思フト店ノ姉ガ子ヲ産ンダノダトノコト 女ノ由
夜海氣館ニ行ク 林田君居合セ色々話ノ中僕ノ飛行機ヲイクラナラ賣ツテ呉レルトノコトニ、余ガ考ヘテ居ル内ニ白戸ガ三千五百円ナラ好イデショート云ツテ仕舞ツタ。僕ハアマリ好マナイ口振リニシテ居イタ
今夜スグ手紙ヲ出ストカ云ツテ居タ

▲▼44ページ▲▼ 大正5(1916)年2月10日(木)

天気 晴レ風強シ

参拝 散歩 大飛行機ニツイテ考ヘル
草賀午後帰稻 白戸夕方帰京
自分午後ヨリ夜ハ製圖
午前志賀氏ヨリ手紙來 頗ル丁寧デアッタ。余リ無沙汰ヲシテ居タノデ少々氣ヅカツテ居タノデアッタガ嬉シカッタ

▲▼45ページ▲▼ 大正5(1916)年2月11日(金)

天気 晴レ

参拝 大飛行機考察
白戸不在 フロート、プレーン製作
午後東京ノ學生來 坂本今朝ニコ、飛行ニ於テ墜落破壊セリト。婦人同乗ハナシ居ラザリシ由
夕方紀元節ニ付早仕舞ニナス 棒押、棒捻、相撲等 夜ニ入リテ入浴後チ大工ナドト共ニ夕食。

就床後大飛行機ノ設計ヲナス
夜白戸來ル 午後風ナク絶好ノ飛行日和トナル

▲▼46ページ▲▼ 大正5(1916)年2月12日(土)

天気 晴

風ナク午後吹ク

参拝 大飛行機ノ工夫

ブレーン、フロート共ニ出来上ル

夕食後白戸ニ行キ明日ノ買物其他打合せヲナス

▲▼47ページ▲▼ 大正5(1916)年2月13日(日)

天気 晴

朝ノ風ハ午後ナイダ

大工一人午後帰ヘス 山縣東京へ買物ニ行ク 終列車ニテ帰ル

夕方白戸ガ進メルノデ機ヲ引出ス 日スデニ落ちタ 白戸搭乗二三周着陸 林田同乗

一週 ツギニ草賀同乗 大キク二週着陸終リ

久シクヤラナイノト、ドーモ機尾ノ上ルノガ、イヤト見エテ飛ビニクソーデアッタ

夜千葉へ散髪ニ行ク 十一時帰ル

▲▼48ページ▲▼ 大正5(1916)年2月14日(月)

天気 晴

無風快晴。気味ノ悪イ様ナ日デアッタ ハタセルカナ夕方暗雲ミナギルト見ル間ニ風吹キミズレマジリノ雨ガ降ッタガホンノ少シデアッタ

夜釣棚ヲツクル

玉井君東京ヨリ帰ル 朱晴波ヨリトテ飛行大家ノ書ヲ持ッテ來テ呉レタ。中々立派デアッタ 朱君昨日ノ新聞デ彼レノ首ニ袁ガ五千元ノ費ヲカケテ居ルトノコトデアッタ 初メテ自分ニ信用スル氣ニナッタ
大口ト白戸午後東京へ帰ル

▲▼49ページ▲▼ 大正5(1916)年2月15日(火)

天気 晴

参拝 機ヲ考察

プレーンノツギ合せ、機体ノ組立、ウルシ塗りノ、ムロヲ作ルベク海気館ノ鳥小屋ヲ利用ス

正午加瀬善郎トカ云フ千葉デ一番古イ刑事ガ革命ノ飛行機買入レニ付キ聞キニ來タ今朝吉永君カラスベテ、ヒミツシテ呉レト手紙デアッタガ聞カレ、バウソハ云エナイシ困ツタモノダ

夜白戸帰稻セシモウルシハケヲハスレ終列車ニテ又帰ル
就床後国民飛行ヲ讀ム 一時半眠ル

▲▼50ページ▲▼ 大正5(1916)年2月16日(水)

天気 晴レ風

正午白戸帰稻ス

梅田若主人鈴木ト云人ヲ連レテ來タ 元ヨリ梅田ノ助手トノコト 其前ハ下駄ノ爪皮賣リデ此ノ家ニモ宿ツタコトガ度々アル由 チリメン屋ノ飛行機ニ爪皮屋ノ助手 アマリ不思議モナサソダ

東京カラ岡本ト云フ學生ガ來タ 明日カラ來ル由

吉永君カラ又手紙デ云ツテ來タ

夜プレーン張り夜業

▲▼51ページ▲▼ 大正5(1916)年2月17日(木)

天気 晴レ風後チナグ

今日ハ御参リヲ失敬シタ

機体組立プレーン張夜業ニ及ブ

千葉ノ萬朝支局ヨリ又革命ノコトヲ聞キニ來タ 來タコト來タガ賣買問題ハナイト云ツ

テ居イタ 自分モ賣ラナイト云ツタ

夜友野君來 袁探ガコトニヨルト飛行機ヲ破壊ニ來ルカモ知レナイト注意ニ來タ 九時半頃迄話シテ帰ヘツタ

▲▼52ページ▲▼ 大正5(1916)年2月18日(金)

天気 曇少晴レ風ナシ

後部機体組立 翼全部完成。足ノ現圖

午後白戸ノ妻君來 牛肉ヲ貰フ

夜大飛行機設計 中々思フ様ニ行カナイ

ホシノ少シ坐乗席ヲツクッタダケ

夜駐在ノ巡查來 昨日來タ記者ガ明日ノ房総ニ書イタノデ本署カラ聞キ合セガアッタ
トテ又例ノコトヲ聞キニ來タ 大ロガ見ニ來タガ買賣ノコトハ何ニモナカッタト云ツタノ
デ先キニ、ケン兵ヤ、刑事ニ事実ヲハナシテアルカラ、土地ノ巡查ニアンナコト云フテト思
ツタガソバニ大勢居タノデ自分モロヲ合セテ居イタ
入浴後眠ル
今エヤーシートヲ考ヘツイタ

▲▼53ページ▲▼ 大正5(1916)年2月19日(土)

天気 晴風

参拝 白戸ノ妻君昨夜泊ル 夕方白戸ト一所ニ帰京
機体組立、塗料塗り
夜切抜

▲▼54ページ▲▼ 大正5(1916)年2月20日(日)

天気 晴レ風

アマリ風ガツヨイノデドーカト思ツタガ塗料ヲヌツテシマッタ 機体出來上ル
昨夜イネ子ヲトナリデ寢サセタノデ今朝夜中頃痛ミ出シタト見エ、シキリニウナリナ
ガラ母チヤン、、、ト呼ンデ居ルノニ、返事ヲシナノデ花チヤン、、、ト僕ガ三度バカ
リ呼ンデヤッタ ソレデモ起キナイノデ、大ロヲ呼ンダ 其内花ガ目ヲ醒マシタ。ガ、起
キモシナイデ大ロヲ起シテ、クスリモ大ロガノマセタリシテ居タ 実ニアキレタ女デアル
今夜寢ル時モ大ロニ世話ヲサセテ自分ハ知ラヌ顔ノ半兵衛デ居タ 理由ハイネ子ガ自
分ノ云フコトヲ聞カナイカラダト 馬鹿モノガ

▲▼55ページ▲▼ 大正5(1916)年2月21日(月)

天気 曇リ風

参拝 エンジン取付プレーンニ穴明ケ其他
イネ子入院サセルコトニナル 白戸ヨリ五円大ロ渡シ 之レニテ四回合計廿円。今日ハ
皆病院へ行ツテ夜モ帰ツテ來ナカッタ。夜製圖。

▲▼56ページ▲▼ 大正5(1916)年2月22日(火)

天気 雪後曇

昨夜カラ降リツゞイタ雪ハ今朝五寸余ニ及ンデ、キレイナコト、キレイナコト。格納庫ノ

屋根ノ雪ヲカキ落サセ自分モ一寸手ツダヒ、後スケッチ二枚
自分ハ翼ノツギ合セ。白戸機体ノ板ハリ 大口足
大口夜又病院ニ行ク

▲▼57ページ▲▼ 大正5(1916)年2月23日(水)

天気 曇後雨

参拝。プレーン組立、恵美號分解
御晝前ヨリ雨 夜ハゲシ 大口病院ニ行
午後頭痛ガシテ困ル 早く床ニツク ナオル

▲▼58ページ▲▼ 大正5(1916)年2月24日(木)

天気 雨後曇

フロートノ金物 自分カバー張り 白戸ツヒニ帰ラズ
夜ハガキ二枚バカリ書ク
ナイルス八日市ニテ翦風號デ宙返ル 初メ二百呎ハガリ垂直降下ヲナシ後チ上昇シテ
宙返リシ由 用意周當(ママ)ニシテ、オロソカナラズ 彼レノ成功スル所以ナリト大ニ感
ズ 山形ニモ其心ガケノ必要ナルヲ教ユ

▲▼59ページ▲▼ 大正5(1916)年2月25日(金)

天気 曇少晴 風ナシ

参拝

フロート金物取付 自分カバー
夜海気館ニテマグネト分解 助手一同集マル
十一時帰宅 就床
イネ子相変ラズナリト
玉井君滑走練習ヲナス 二回ジャンプ

▲▼60ページ▲▼ 大正5(1916)年2月26日(土)

天気 曇後雨 風アリ

参拝 オイル。パイプシート等ツツクル
フロート取付終ル 格納庫高サタラズ下ヲ掘ル
夜夕食前鳥飼氏ヨリハナシアルスグキタレノ電報アリ行クベク白戸ニ相談ス 白戸用事

アルカラ自分ガ行ッテヤルトノコトニ多忙ノ時ニツキ依頼ス
夜早寝ヲナス

千葉デ一回無料飛行ヲナシ格納庫ヲ作ラセ稲毛飛行場ヲ確實ニシテヤロート思ツタ

◆◆61ページ◆◆ 大正5(1916)年2月27日(日)

天気 晴

参拝 大口遅ク帰ル イネ子今朝二時頃死ンダトノコト 正午棺ニ納メテ連レテ帰ル
実ニカワイソーナコトヲシタ 然シ小供モ親モ返ッテ仕合セカモシレナイ。セメテ今夜ハ
御通夜ト思タノニ八時頃上總屋ノ墓地ニ埋タ 自分モ送ッテヤル。二円五十銭贈ル
白戸一円

今朝鳥飼氏來。東京毎日ガ代々木デヤリタイトノコト 五百円ノ内記者ニ、百円ヤラ
ナケレバナライカラ君ニ四百円ハ渡ストノコト ソレデハ鳥飼氏ノ取分ガナイノデ五
十円御礼スルカラ手取三百五十円貰ヘバヨロシイト云ツタ 日ハ來月中旬ニタノンダ
機体ヲ取テ重心點ヲハカル 予定ヨリ六分前ニナッテ居タ

◆◆62ページ◆◆ 大正5(1916)年2月28日(月)

天気 曇後雨

今日ハイソガシク参拝セズ 機体ノ取付テールノ取付 操縦線ヲ張り明日ハ試運轉トナ
ル

夜海気館ニテ夕食 機ノ計算ヲシナオシテ居ル ドーシテモ飛バナイ様ナコトハナサソー
ダ。九時頃帰宅 床ニ入ル

◆◆63ページ◆◆ 大正5(1916)年2月29日(火)

天気 雨風ツヨシ

六時頃起キルツモリノ處サカンニ雨ノ音ガスルノデ七時過ぎ起床 タンバック止メ其他
各部ノ準備ト、ノフロート取付ノボールトヲ取替ヘントセシニ坐金弱ク爲メニ一純増シ
ボールト一本加ヘルノニトードータ方迄カゝル。午後天候儉(ママ)悪トナル

◆◆66ページ◆◆ 大正5(1916)年3月1日(水)

天気 晴

スベテノ準備ヲト、ノエ午後引出シタト云フヨリカツギ出シテウカセテ見タ 其分浮体
ノツキ工合ハ大分ヨカッタガハシリ出スト前ニツツコンデシマウ 丁度高田ノ様ナ状態ニナ

ルノデ、襷シラベテ見ルトテールニ三度バカリ角度ガツイテ居タ 重心點ハハヅカニ貳寸八分ヨリ前ニ行テ居ナイカラ夜相談ノ上兎ニ角テールノ角度ヲナクシテヤルコトニシテソレデイケナケレバ重心點ヲ下ゲルコトニシタ

◆◆67ページ◆◆ 大正5(1916)年3月2日(木)

天気 晴

朝早く起キテールノ角度ヲ無クシテヤツタガマダ少シオートガ前ガ上ガラナイノデ、浮力ノ中心ト重心トヲ一致サセタ 午後汐ハ上ゲタガ風ツヨクツヒニ中止ス 店ノ姉ガ入院シタ 素人ガカツイデ行タノデ大分コタエタトノコト

◆◆68ページ◆◆ 大正5(1916)年3月3日(金)

天気 晴

今日ハ白戸ガ起コシニキタ時ニ六山形ハモー起キテ居タ 自分モシバラクシテカラ起キタ。機ヲカツギ出シテスタートシヨートスルト廻ルコト廻ルガスグトマツテシマウ シバラクスロ―デ廻シテ―パイ出スト又トマル 色シナ説ガ出タガ自分ガガソリンパイプニ何ニカツマツテ居ルノダト云ツタ。自分ガソージシタ時ナニモナカツタガ後豊サンガ掃除シタ特別ノ白イローノ様ナモノガ出タ後チヨク廻ツタ。午後上汐後スタートシタ スグ浮キソーニナツタ。白戸ハ陸上式ニ下ゲ上ゲテメチャ、ニトニカク隔(ママ)水シタ 右ニ急カーブシナガラ機ノ高サ位ニ上ガリ左リ廻轉ニウツリ一週シテノバシナガラ降りタ フロートノ角度ガ馬鹿ニ多カツタク見エタ ハタシテフロートノ後部ハ丁度戸板ヲ垂直ニ水ノ中ヘツキコンダ様ナ降り方デアツタ シカシ無事ニ帰ツタノデ非常ニ嬉シカツタ 心配シタ足モ中々丈夫デアツタ。

川嶋ガ此飛行機ヲ飛バナイト云ツタノデ岡本ト餅菓子二十銭ノカケヲシタトノコトニ岡本ガソレヲ取リニ行ツタ ソシテ見事ニ取ツテ來テ皆デ喰ツタ。

夕方祝宴ヲ張ル

◆◆69ページ◆◆ 大正5(1916)年3月4日(土)

天気 晴風出ヅ少雨

参拝 朝ユツクリ寝タ。エンジンヲハヅシ、フロートヲ取り修理ヲナス

午後鳥飼、友野両氏來。東京毎日飛行會ノ件 社三百円ヨリ金ガナイトノコト 然シ十五日頃迄ニ最(ママ)非ヤリタイト云ツテ居ルトノ由 多分ダメダロー

村田ガ自動車ノ古エンジンヲ附ケル爲メニ鳥飼氏ノ古機体ヲ二百二十円デ買ツテ稲毛デ練習ヲ初メルカラ大口君ニ格納庫ヲ頼ンデ呉レト依頼サレタ由 鳥飼氏モ大貰(ママ)

ケヲシタモノダ 早速ニサイクルデ豊サンノ練習機ヲ作ルカラ設計シテ見テ呉レトノコトデアッタ

夕方正夫サン自動車デ來ル 別ノ大自動車ノ試運転ノ處途中デベヤリンクヲヤケツカセタリピントシヲ破タリ、大困難ヲシテ一本ノシリンドーデヤッテ來タトノコトデ又夕方修理ヲヤル内ガソリンニ火ガウツリ火災ヲヤリツヒニ中止シテトマル

昨日大野徳太郎氏ヨリ余ノ後援會ヲツクルトテ何ヤラ送ッテ來タガ中々ヨイ考ヘモノダ

▲▼70ページ▲▼ 大正5(1916)年3月5日(日)

天気 晴

正夫サンハ九時頃修理ヲ終ッテ二本ノシリンドーデ帰ル

フロートヲ仕上ゲ川上サンニ持タセテヤリ、道具方(ママ)付ヲナシ、大ロニエンジンノ台ヲツクラセル

午後宗里君來 久シ振リナリ。昨日鳥飼氏ヨリ一寸練習ヲサセテ貰ヒタイトノ話アリタレバ其事ナルベシト思フ。ハタシテ其話シナリキ。一日五円ヅゝトシテ二十回分百円ヲ前納スルカオシガソリン、破壊料等自分デスルカラトノコトニ余人デモナシ、又年モ取ツテ居ルコトデアルカラ間違テアルマイシ、久シク苦心セラレタ人デモアリスルノデ、御心次第デヨイカラト答ヘタ ソシテ大會ノ爲メニ何時出カケルカモシレナイカラソレハアラカジメ承知シテモライタイト話シテ居ク

夜千葉へ見舞ニ行クノヲ中止シテ、大坂ノ返事ヤ豊サンノ設計等ヲ見ル

▲▼71ページ▲▼ 大正5(1916)年3月6日(月)

天気 晴

エンジン分解 夕方白戸來 十円貰フ 豊サン五円

夜八時ノ汽車ニテ千葉ニ大口ト行ク。店ノ姉ノ見舞 話ニ聞イタヨリヨサソーデアッタガ小ハナガ動イテ居タ 一時帰宅 就床
午前中大坂ノ宅ト大野氏ノ返事ヲ出ス

▲▼72ページ▲▼ 大正5(1916)年3月7日(火)

天気 晴風後ナグ

参拝 エンジン、スケッチ、午後フロート取付

エンジン掃除

夜早ク床ニ入ル。店ノ姉五時半死ンダトノコト

夜帰ル。余ハソレヲ夢ニ見ル

玉井氏滑走ヲナス 今日ハ中々ウマカッタ

▲▼73ページ▲▼ 大正5(1916)年3月8日(水)

天気 晴少風アリ

八時起床 白戸ニ行キ後チエンジン組立ヲナス

大口休ミ

四時頃葬ヲ出ス。エンジン取付ケ

夜日記

▲▼74ページ▲▼ 大正5(1916)年3月9日(木)

天気 晴

五時頃便所ニ行ク 六時豊サンヲ起シ六時半起床

エンジン附属ノ取付。八時頃滑走ヲ初メ風向ヒニ隔(マ)水 沖ニ行ク中左へ回ルダロー
ト思フ内着水シタ ヘンダト思テ居ル内ニウロ、シテ居タガ帰ヘツテ來タ。エンジンガヤケ
テカガナクナツテ降リタトノコト 前ヨリモハルカニヨケイヤケテ居タ 先ヅ朝食ヲナシ
白戸帰京 エンジン分解ノ爲メオロス。午後、模型ノエンジンニ鳥ノ羽根ヲツケテ、カザリ
ニシタ。玉井氏今日ハ大分滑走ヲヤッタ後、バンクシテ終ツタ。後藤君白戸ノ助手トシテ
梅田ヨリ來ル。山形、鳥飼氏ヨリ電報アリ帰京 夜帰り來ル

村田ノ飛行機ヲ急グノトタ方、恵美號飛行ノ件キマリ十二日ニ行クカラ予備飛行ヲ
見テ、契約シタイトノコト 何ンダカ心配ナ様ナドキ、スル様ナ氣ガスル

▲▼75ページ▲▼ 大正5(1916)年3月10日(金)

天気 曇リ

インディアン分解 恵美號組立

夕食後千葉へ散髪ニ行ク 大口後ヨリ來ル 十二時帰宅

▲▼76ページ▲▼ 大正5(1916)年3月11日(土)

天気 雪北風

風ガ後雪ニナツテタチマチツモリ御晝頃ニハ三寸バカリニナツタ。エンジン組立終リ機体ニ
取付ク 自分ハフライングボートノ設計ヲナス タ方エンジンヲ直シニ來タ職工ト一パイ
ノミナガラ色々ノ話ヲ聞ク 大分有益デアッタ。大口ヨリハルカニ仕事ノ事ハクワシイ。

コンド發動機ヲ作ル時ニタノムカモシレナイト云ツテ居イタ
タ方雪ヤム

▲▼77ページ▲▼ 大正5(1916)年3月12日(日)

天気 晴レ無風後チ風強シ

ガソリンパイプヤカーブレータヲ障(ママ)除シマグネトノカムノ開ヲ小サクシマワシテ見ル。スローカラ一パイニシヨースルトブル、ト停ル 二度目ニハタリト停ル ソレデマガネトノカムノ開キヲ元ノ通りニシタガ今度ハマルキリカ、ラナイノデシラベルトカムノバネガオレテ居タ爲メアースシテ居タノデソレヲ直シタラカ、ル様ニハナツタガヤハリ止ル 其内晝モ過ギ鳥飼氏ト己一君ト社ノ片岡トカ云フノト三人來タ 鳥飼氏ニシラベテ貰ツタガヤハリダメ。ツヒニハブル、トカッタカト思トスグ止ル。ソコデガソリンヲシラベルト玉井サンデ借リタガソリンガ日本石油ノ天然瓦斯デアッタノデ水分ヲ含ンデ居ルトノコトデ取替ヘルトスグ、スタートシタガヤハリ一人デ止ルノデماغネトノカムノスプリングヲツヨクシカーブレターヲハツシテ障(ママ)除シテ夜ニ入ル 鳥飼氏トマル。
四時頃ヨリ風ツヨク、白戸ノ飛行機組立タノデ夜岡本ト山形ト夜業ヲナス

▲▼78ページ▲▼ 大正5(1916)年3月13日(月)

天気 曇雨風朝少シアリ

朝早く起ク。鳥飼氏ماغネト、大口カーブレターヲ取付ケ廻シテ見ル。ヤハリブル、ト停ツテシマウコト二度 ツヒニماغネトヲ分解スルコトニ決シハツシテ貰フ 其間ニ白戸ノ試験ヲナス 機ヲシラベルト昨日練習ノツモリデ組マセタノデドコモマツイ處ダラケ。今ハヨセト云フノニ、發動機ノ調整モソロハヌ内ニ走り出シヤットノコトデ水ヲ一寸ハナレタカト思フトスグ落ツテツヒニケイカイノ、杭ノ處デماغ、トシテ止ツテシマッタ。グズ、トシテ居レバ山風デ沖ヘ流サレルノデ舟ヲ二艘出シテ、押シテ帰ル
九時朝食後ماغネト分解シタ處ズイ分キタナカッタガ二次線ガ切レテエボナイトガ壊レテ居タ 原因ガ分ッタノデヤット安心シタ 鳥飼氏東京ニテ直シテ來ル由
夜夕食ヲ海氣館ニテ白戸、梅田ノ若ト三人デナス

▲▼79ページ▲▼ 大正5(1916)年3月14日(火)

天気 曇時々雨

参拝 グレゴアオイルタンク障(ママ)除 水上試験ス プロペラブレードノ巾ツメ廻轉數出タルモ發動機時々キレテ調子ト、ノハズ一週飛行セシモシヅミ勝ナリキ
午後一度角度ヲ増ス。後又一本ノプロペラヲ径六寸ツメ、前ニ八百ヨリ回ラザリシモノ

千百三十回轉ス 然シ發動機ノ調子依然トシテ直ラズ、夕方マグネトヲハヅシ配電盤ニ通ズルカーボンポールヲ不圖シラベルニエボナイトヲ通シテ外ニスパークスルニ、ノームノ分ヲ試験セシニヤハリス。パークセシカバ茲ニウタガヒヲ生ジ、プラグヲツナギポールヲアースセシメテ試験セシニ、プラグニ火ハヤリ飛ビタリ サレバ此アースガマグネトニ安全器ナキ爲メ、エボナイトヲ通シテサシツカエナキ迄ニ作リアルモノカ エボナイトガ古クナリシ爲メ効力ヲ失シモノカニ途ナレ共多分前者ナラント自分ハ思フ。
夜フライングボートノ設計ヲナス

◆▼80ページ◆▼ 大正5(1916)年3月15日(水)

天気 曇リ雪北東ノ風強

参拝 朝食 日記 新聞ヲ讀ム内鳥飼氏來。マグネト組立取付ケ 晝前廻ス 少シモ發火セズ 再ビハヅシ晝食後分解組立試験セシモス。パーク小ニシテ、モノニナラズ 東京へ持ツテ帰ツテ直シテ貰フコトニス 東京迄運搬セズニ飛ンデ行ツテ貰ヒタイトノコト。天氣サエヨケレバ之レモレコードノ一ツトシテヨイト答フ

白戸ノ水上ニ二時頃初メル 發動機調整トノハズダメダト思フノニ走り出シタ ヤットノコトデ一寸水ヲハナレルト横様ニ押ヘ下サレタ 陸上ナラ壞レタニ違ヒナカッタガソレカラ沖ヘ出テ行ツテウロ、スル内ニ發動機ガ止ッタノデサー大サワギニナツテ、自分モ初メテノコトデ後ニ考ヘテ馬鹿々々敷程アワテ、居タ、ガヤットタノンダ検見川ノ船ガツイタノデ安心シタガ其程カラ雪ガ盛ニナテ暗クナル頃漸ク白戸モ飛行機モ上ガッタ。發明家ト自稱スル小松ト云フ人間ガ來デサワギノ最中ニ色シナ熱ヲ吹イテ帰ツタ

◆▼81ページ◆▼ 大正5(1916)年3月16日(木)

天気 曇晴雨風ナシ

参拝 古機ノ布張り 午後白戸プロペラヲ取替ヘ試験ス 一週飛行シテ着水。發動機マダ思ワシカラズ沈ミ勝ナリキ。多分マグネトニアラザルカ

今朝草賀ト林田トケンカラ初メ之レニテ玉井林田ノ謀事スベテ發露ス 夕方自分ノ處ヘ辨明ニ來ル。夜雑談 十時床ニ入ル

◆▼82ページ◆▼ 大正5(1916)年3月17日(金)

天気 晴風アリ

今朝二番デ來ルト云フノデ朝早く起キ、風ヲ氣ニシナガラ風ニツイテ飛ビ方ヲ研究ス。シカルニツヒニ來ラズ ウマク直ラナカッタト見エル

午後諏訪ノ濱氏來 諏訪湖ニテ白戸ノ水上ヲヤルコトニ決ス 松本ハ小林ガ金ヲツカヒ

込シダノデオジヤン

宗里君モ來。夜具フトンヲセオイ込シデ來タ。金ヲ百円出シタガ之レハ練習ヲ初メル迄待ツテ來(ママ)レトテ返シタ

▲▼83ページ▲▼ 大正5(1916)年3月18日(土)

天気 晴曇時々風

七時起床 参拝 日記 新聞切抜整理

今日鳥飼氏來ナケレバ行クツモリノ處午後來 早速取付試運轉 頗る好成績 少シモ切レナカッタ 明日來ル由 夕方帰ル 岡本ニガソリン取リニヤル
夕食後スグ眠ル

宗里君ヨリ百円最(ママ)非取ツテ居イテ呉レト云フノデ預ツテ居クコトニシタ。之レヲ使用シタモノカドーカニツイテハ随分考ヘタガシバラク待ツコトニシタ

▲▼84ページ▲▼ 大正5(1916)年3月19日(日)

天気 晴風アリ

七時起床 ヒツタリ風ガナカッタノデ大ニ嬉(ママ)ビ参拝

練習 朝食スル内風ガ出初メタ シカモ北風デ時間ノタツ程余計ニ吹初メタ。多分來ルマイト思フ内十一時頃ヤツテ來タ 店ノ親父ニキクト夕方ニハナクナルガトニカクダンダ
ンナギルトノコトニ、先ヅ鳥飼氏ノ機体ヲ東京ニ送り後チ少シナイダ様ナノデ晝食後機ヲ引出ス 風ヲ見ルト大分西ノ方ニ廻ッタノデ之レナラユレテモ壊ス様ナコトハアルマイ
トヤルコトニシタ。近所ノ小供等ガ伊藤エライゾヤレヨ、此位ノ風ニ飛ベナクテダメダ
ナドトハヤシテ居タ

用心シテ沖迄滑走シ風向ニ隔(ママ)陸一週 横風デアッタガ風向ニ直シテ着陸 ツヅイ
テ隔(ママ)陸 小イサク一週後穴川迄行キ帰ツテ着陸 上ハナントモナカッタ エレロシガ
七分位上ル風デアッタ 大シテユレモシナカッタ ヤレ、安心デアッタ

夜山形東京へ帰ル

▲▼85ページ▲▼ 大正5(1916)年3月20日(月)

天気 晴

白戸ノ水上組ム爲メ、参拝朝食後九時頃迄ハ自分ノヲ分解 夕方白戸ノモ出來上ル
浜氏來

四時過ぎ豊サンヨリ電報アリ 海軍墜落惨死ス

夜豊サン洋服取リニ來テ、話ス。帋ノ門金比羅ノ附近ノ少将邸ニノ屋上ニ落ちタトノコ

ト 何ンデモ片羽根モゲテグルハ、廻イナガラ落タト云フガドーモアノ羽根ガ取レソーニモナイ 多分トツ風ニアオラソレヲヨケオートシテ、スハラルダイブヲヤッタモノト思ワレタ。スミスガ鳥飼ノ表ヲ通ツテ宅ニ這入ッテ來タトノコト 今朝八時ニ遊ビニ來テクレト云ツテ居タガ洋服ヲ取りニ來タ村田ガ行クダロートノ話デアッタ

◆◆86ページ◆◆ 大正5(1916)年3月21日(火)

天気 曇リ

六時起床 飛行準備 寒イノデカ、リハ悪ルカッタガ、二回飛行シタ。調子ハヨカッタガ昇登(ママ)力ガ少ナイノデ朝食後機ヲ分解 エンジンノバルブワリヲスリ合セルコトニス機体モエンジンノ大キサダケニツメルコトニス エンジンシートヲ持ッテ白戸ト帰京 草賀モ帰ル 草賀即日帰稲。白戸宅ニテ入浴 晝食後鳥飼ニヨリ河村サンニ帰ル 夕方鳥飼ニ行ク。ヤマトノ記者デ中ニ這入ッタ男ガ來スグ帰ル 明朝多分契約出來ルトノコト 日比谷松本楼ニテ夕食。八時帰宅 十時頃 迄お母サント話シテ床ニ入ル

◆◆87ページ◆◆ 大正5(1916)年3月22日(水)

天気 雨

七時起床 朝食後お稲荷サンニ最中ヲ百上ゲテ後チ大口ノタノマレモノヲ買ヒニ行キ、碁ヲ打ツ 相変ワラズツヨクナラナイ。奈良原サンニモ行カズ浅草モ上野モ行カズ帰稲シタ。

鳥飼氏ノ話シデハ今朝社ヨリ主ナ人ガ來タリシテタ方契約スルトノコトデアッタガ僕ノ帰稲モ止メナカッタ處ヲ見ルト多分ダメトヨリ思ヘナカッタ

白戸ニ電話スルトルスデアッタ

御母サンハ例ニヨツテ小遣ニ困ッタラ少シ位イツデモト親切ニ云ワレタ。日連(ママ)ノ本ヲ讀ミナガラ帰稲

◆◆88ページ◆◆ 大正5(1916)年3月23日(木)

天気 曇風強

参拝 朝食後各方面ノ手紙ノ返事ヲ出ス 都築氏明日來ノハガキアリタリ

計算表式ヲ写ス

機体ノ巾セマクス

夕入浴後海月亭ハ林田ニ招カレテ行ク 旅順へ帰ルニツヒテ暇乞ヒヤラ札ヤラデアッタ 自分モ將來ニツヒニ二三注意シテ酒ヲ馳走ニナリ帰ル。

▲▼89ページ▲▼ 大正5(1916)年3月24日(金)

天気 晴風

参拝 散歩 朝食 新聞

風アリタレドモ春ラシク暖カナリキ

白戸來

朝写真ノ焼増 機体改造

夜東京ヨリ電報アリ 盛岡ノ禿氏來スグ帰レトノコト 白戸七時乗オクレ九時ニテ帰京
學生一人來 海気館ニトマル 學校ニ這入ツモリデ來タトノコト。冬期迄延期セシ付
見學ナラヨシト返シ居ク

▲▼90ページ▲▼ 大正5(1916)年3月25日(土)

天気 晴無風

白戸ノ機組立終日ヲ費ヤス

夕方白戸來

都筑、鳥飼發信

夜巖クツ王ヲ讀ム

▲▼91ページ▲▼ 大正5(1916)年3月26日(日)

天気 晴風後ナギ

今朝試運轉ノハヅナリシモ風ノ音シゲク、起キルノヲ見合ス

八時起床 日記 新聞、讀書

晝前梅田氏來 海気館ニテ晝食ヲ共ニス 予想ヨリモハルカニ立派ナノニ驚イタ シカモ
中々熱心デアッタ

夜大口ガ白戸ト僕ト共同デヤルナラ自分ハヨスト云ッタバカリニ問工(ママ)ヲナラベテ
居タ 自分ヲ思テ云ウノカト思ヘバ他人ニモソシナコトヤ川村サンデ僕ヲ見カギッタナド
ト、云ッテ居ルトカ ドーモ此小人ノヤシナイ難イニ困ル マーマーソッテシテ居クヨリ
外ナイ

▲▼92ページ▲▼ 大正5(1916)年3月27日(月)

天気 晴後風強

午前汐ニテ白戸ノ水上飛バス 發動機調子ヨク今迄ニ於ケル最モヨキ飛行ヲナス。明後

日新聞記者ヲ招ク由 十一時七分ニテ帰京 山縣モ共ニ
午後大口ト千毎ニ行クベク出カケル 先ヅ散髪ヲナシ大口行ク。三十日、共ニ聯隊長ニ
會ヒ知事ニ照會狀ヲ貰ヒ行ク方順序ナリトノコト。尚徳永サンニモ會ツタ方ヨカロト
ノコトニ明日行クコトニス
帰途頭宅ニ寄り支拂ヲナシ夕食ヲ喰ヒニ行ク ソコノ主人ハ頭ノ又頭ノ様ナモノニテ千
葉町ニ於ケル俠客ナリトカ 之レモ又後ノ爲ニナルベシ 九時ノ終列ニテ帰稻 入浴後
床ニ入ル

◆◆93ページ◆◆ 大正5(1916)年3月28日(火)

天気 晴曇

七時起床 参拜。朝食 新聞後白戸ノ機修理ヲナシ三時頃終ル 山縣お晝頃帰り來
ル。恵美號手入レヲナサシム
正一君客女連多ク連レ來リ最(ママ)非組立テモ見セテヤツテ呉レトノコトナリシモ仕
事急ガシク傳(ママ)ハル 客ハ海氣館ニ泊ル由
四時頃ヨリ徳永サンニ行ク 五時着 マダ帰ラヌトノコトニ七時頃伺フ事ニシタ 夕食ニ
行キ町ヲ散歩シ後又行ク。面會ヲ得要領ヲ話シ聯隊長ニ言葉ゾヘヲタノム 飛行會ヲ
ヤルカラ知事ニ照會シテヤツテ呉レトノコトヲ頼ンデヤルトノコト。ビールヲ馳走ニナリ
保命酒ヲ貰ヒ終列ニテ帰ル 大口自轉車ニテ先キニ帰ル 帰宅後保命酒ヲ皆シテノミ
入浴後日記

◆◆94ページ◆◆ 大正5(1916)年3月29日(水)

天気 曇後晴

バラ、雨ノ音ガシテ居タノデユツクリ寢テ居タガ上ガッタト云フノデ起キルト白戸ガ
來タ。記者連ガ四名ニ今度ノ事務員ト写真屋宮口梅田ト云フ顔ブレ
白戸ノ機ヲ引出シ自分ノヲ組立初メタ 丁度十時半
十一時半白戸ガ飛ブ迄ニ自分ノハ出來上ガッタ 白戸ハ二回飛行シタ ヒクカッタ。ソレ
カラ写真ヲ写シ晝食ニナリ、藝者モ上ガッタ。四時過ぎカラ自分ノヲ引出シタ 東北ノ
風ガ東南ニカワツタガヤハリ山風デアッタノデ沖ノ方カラ隔(ママ)陸 八字形ト波状ヲ
ナシテ着陸 次ギハ登戸迄行キ高ク上ゲテ頭上ヲ飛ビ旋回シテ着陸。報知ノ、国分ガ
乗セテ呉レト云フノデ二回バカリ回ツテ降り次ギニ白戸ガ操縦シテ千(ママ)覽、草賀、
海野ノ三人ガ飛ンダガ海野ノ時カラ發動機ハプツ、切レ初メタ 夜暗クナツテ終ツタ

◆◆95ページ◆◆ 大正5(1916)年3月30日(木)

天気 晴風ナシ

朝参拝 朝食前練習ヲヤラセル 豊滑走四五回 ジャンプ二回 宗里滑走五六回。發動機益々悪ルク丁度以前ノ通りニナッタ。ソコエ鳥飼氏來 柴田氏ト共ニマグネトヲハツシ直シニ持ッテ帰ッテ貰フ。柴田氏、來ル四日式十人バカリ人ヲ呼ブニツヒテ飛行機ヲ見セテヤッテ呉レトノコト 承諾

大口千葉へ約束ノ爲メヤル 五円預ケテヤル

自分帰京 河村氏三行キ、夕方ヨリ都築氏ヲ問ヒモーター、飛行界ノ五月號ノ記事ニ書イテ貰フコトニシ、千葉町失敗ノ時ハ何處カ地方へ好イ人ノ添書ヲ貰フコトヲ約シテ帰宅 十時

(97〜98ページはスキャン漏れ)

▲▼99ページ▲▼ 大正5(1916)年4月1日(土)

天気 雨

雨ノ音ニユツクリ起キ、マグネトヲ取付ケ、マワシテ見ルニ、ヤハリ時々プツ、ハヤルガハゲシクナイノデ明日デモヤッテ見テカラニシヨート、思テ居ルト午後鳥飼氏カラ電報ガ來タノデ、スツカリ直シテ貰フコトニ豊サンニ東京へ持タセテヤル
終日巖クツ王ヲ讀ミ終ル

▲▼100ページ▲▼ 大正5(1916)年4月2日(日)

天気 晴

十時四十分デ河村氏ガ來ルト云フノデ迎ヘニ行ツタ 待ツ間ニ案内所デ仁チヤンカラ、一朱銀ヲ一枚三十錢デ買ツタ 時間ト汽車ハ來タガ待ツ人ハ來ナカッタ

夕方豊サント宗里君ト河村氏ト三人デ來タ 宗里君ノ方ハ閣下ニ會ッテ添書ヲモライ、代議士ニ會ッテ話シヲシタ處私設鉄道ノ開設祝ニヤルトノコトデ早速先方カラ見ニ來ル様ニスルトノコト

マグネト取付サセル

夜九時床ニツク

▲▼101ページ▲▼ 大正5(1916)年4月3日(月)

天気 曇風ナシ後吹ク

河村氏ハ早起キデアッタ。自分ハ七時起床 参拝 後子機ノ試運轉ヲ豊サンニ命ジ千葉

へ箱ノ材料ヲ買ヒニ行ク 帰りハ汽車。

帰稻後試運轉ヲナス 一寸一度キレタガ好サソーナノデ飛揚シテ見タ 大分切レタ
次ギニ岡本ヲ同乗サセタガ馬鹿ニ切レタ。朝日ノ會員ガマダ來ナイノデ中止シ、來テカ
ラ、二回センカイシテ着陸 スグマグネトヲハヅシ豊サンニ東京へ持タセテヤル

白戸來十円箱代預ル

玉井君終日練習。玉井林田二人ヨリモ一番最後カラ初メタ川島ノ方ガ大分タチガヨ
イヤハリ、大キナコトヲ云フヤツハダメダ

▲▼102ページ▲▼ 大正5(1916)年4月4日(火)

天気 曇リ風

昨日ノ風ヤンデ静カナ晴レヤカナ空ニナツタガ余リ晴レ過ギタノデ、アヤブンデ居ルト、
千汐頃カラ吹キ出シタ。兎三角マグネトダケハ取付ケテ居ク。タ方追トートー風ギズ
發動機ダケ廻シテ見セル

スグマグネトヲハヅシ豊サンニ東京へ持タセテヤル

夜説明ヲ考ヘル

湯原見學生今日ヨリ上總屋ニ替ル

▲▼103ページ▲▼ 大正5(1916)年4月5日(水)

天気 曇リ

箱ノ製作ノ差(ママ)圖ナドスル内お晝頃、静岡ノ方カラ四人連レデ予備飛行ヲ見ニ來
タトノコト アヒニクマグネトヲ昨日モヨシテヤツタバカリナノデ一寸、挨拶ダケシテ居
キ約束ガアルノデ、大口ト千葉ニ行キ千毎ノ主筆寺島君ト同道デ聯隊ニ行ク 丁度徳
永サンモ居テ聯隊長ニ話シテ呉レタ後面會シタガツヒニ不得要領デアッタ。ガ寺島君ニ
タ食ヲ馳走スル爲メ洋食屋ニ行キ、七時ニテ帰稻。後チ終車ニテ、マグネト取りニ帰京
シタガ、時間ガオソイノデ、新宿デ宿ル

▲▼104ページ▲▼ 大正5(1916)年4月6日(木)

天気 晴

六時ニ飛出シテ鳥飼氏ニ行キマグネトヲ聞イテ見ルト、アーマチャーガモレルトノコトデ
直シニヤッタトノコト 河村氏ニテ朝食後鳥飼氏ト豊サント三人デ職人ノ宅へ行ツタガ
不在デアーマチャーダケ貰ツテ帰り應用手当シテ今ヤルツモリノ處、万一ヲ思テ延期
スルコトニシテ十一時ノデ帰稻。丁度來テ居タノデ、マグネトヲコトバ、ク分解シテアッ
タノデ二三日シナケレバ出來ナイト云フコトヲ報告スルト、ソレデハ飛行ハ見ナクテモヨ

イカラ來テ呉レロト云フノデ十一時ノ夜行デ行クコトニ話シ三時ニテ再ビ帰京 御母サ
ン二十五円旅費ヲ借り十一時ノ下リニテ出發シタ 同行宗里、太田、茂木、自分

◆▼105ページ◆▼ 大正5(1916)年4月7日(金)

天気 晴風ナシ後吹ク

静岡ニテ洗面 乗替テ六時半藤枝着。彼レ等ノ会社ト云フノニ行ク スグステーション
前ニアツテ、チイサナ輕鉄会社デアッタ 話シヲ聞クト、ドーモ稲毛ノ時ノト違ウ様子
デドーヤラ会社ノ不振ヲモリ返ス爲メノモノラシクアッタガ、兎ニ角現場ヲ見ニ行ク。
横巾十二間デ直線ハ五百米バカリハアッタ マワリハ松林デ大井川ノ新旧土堤ノ間ノ川
原ノナラシタヤツデ氣流ノ頗ル悪イ處ダ 現ニ見ル内ニ小セン風ガ三四ツアッタ。ガド
ーニカヤル事ニシタ

帰ツテ晝食後イヨ、ト金ノ話ニナツテ、一週間中三日迄ト云フノヲ四日間飛行スル事
ニシ金モ七百円トシテサテ半金ト契約ヲ会社力或ハ会社ノ重役スル事ヲ要求セシニ語ヲ
左右ニシテ、不信用ナ太田ニ契約サセルトノコトニ、茂木ガ夜ノ十一時過ギ迄奔走シテ
呉レタガツヒニ不調ニ終ツタ

十二時十分ノ列車デクタビレナガラ帰ル事ニシタ 旅費ヲ借りテ迄來テ不調ニ終ツタノ
デ、ナンダカキツネニツマサレタ様デシカモ宗里ノ前デ泣事モ云ヘズ何モ出來ナケレバ
イ、デスト帰リモ車中デビールナドヲ、ノマセルツラサ 実ニ樂ナモノデナイ。シカモ、コ
ンナコトハ帰ヘテ人ニ話モ出來ナイノデ場所ガナカッタコトニシタ

◆▼106ページ◆▼ 大正5(1916)年4月8日(土)

天気 晴風ナシ

六時二十分東京駅着 宗里君ニスグ田中へ静岡延期趣キ通知ヲタノミ鳥飼氏ニ行ニ朝
食後河村氏ニ電話ヲカケ置き、豊サンヲツレテ青山へ飛行機ヲ見ニ行ク。丁度之レカラ
組立ル處デアッタノデ、出來上ル迄居タ。晝食モヌキニシテ二時ノ開會カラ第一回ノ宙
返リヲ見タ。話シ程ニ思ワナカッタ 其内場内整理ノ爲メ追出サレタ 名刺ヲ出ソート
思タガ馬鹿シイノデ、モクシテ出タ ソシテ第二回ノヲ見タ。垂直ラセン下降ハウマイト
思ツタ。横轉デモスベテナイルスヨリ、キビンデアッタダケ素人受スル飛ビ方デアッタ
大口モ來タ。夕食ハ三人デ洋食ヲ喰ヒ帰宅 スグ寢ルツモリノ處鳥飼氏ニ呼バレニ行キ
八時過ギ帰宅 クタハ、ニナツテ床ニ入ル
大口一寸來 終列ニテ帰稻ス

◆▼107ページ◆▼ 大正5(1916)年4月9日(日)

一度便所ニ行キ床ニ入り又眠リカケタガ起サレテ起床 白戸ニ電話ヲカケタ 一兩日
中ニ來稻スル由。濱氏昨日來 松本ヲ廿八九日頃カラ一日ハ展覽ヲサセタイ由 其時
スハヤリタイトノコトデ白戸モ一寸今出サキガナイトノコトデアッタ
鳥飼氏ニ來(ママ)キマグネトヲ頼ミ宗里氏ニ電話ニテ田中ニ手紙出シタコトヲタシカメ
閣下ト代議士ニ話ヲスルコトヲ確ニ依頼シテ九時半御母サント共ニ來稻 晝食迄山ヲ
散歩シ食後沖へ貝堀リニ行ク。マデハ取レタガ、マダ小イサカッタ
ハマグリト、草花ヲ持ッテ六時十分デ帰ラル 夜五日以來ノ日記
眼ガ増々(ママ)悪イノデ目薬ヲサシテ九時半眠ル
お吉ガ月経ガナクナッタト云フニ驚イタガ十一月迄ニハ何ントカ出來ルダロート思ッガ
ソレ迄世間ガウルサイコトダロー

▲▼108ページ▲▼ 大正5(1916)年4月10日(月)

天気 晴強風後曇雨

六時起床 参拝 朝食後、花壇ヲツクル 晝迄カゝル 午後切抜整理
プレーン箱本日出來上ル
夜カルタヲ取り 十時床ニ入ル 自分負ケ

▲▼109ページ▲▼ 大正5(1916)年4月11日(火)

天気 曇風静

参拝 朝食後マグネトヲ取付ケヲナシ回シテ見ニヤハリヨクナイ 同ジコトデアッタガ午
後飛行シテ見ル 山風デアッタガ大シタコトハナイノニ機ハ上ガラナイノミナラズフ
ラハ、ハシテ随分困難デアッタ 無論速力ハ出テ居ナカッタ。發動機ヲシラベルトコンプ
レッションガマルデナクナッテ居タノデ分解スルコトニ決シタ。コレヨリ先キ白戸カラ電報
アリ アス岡谷へ積出スカラ貨車ヲ注文シテ居イテ呉レトノコト 注文ス 間モナク田中
ヨリスグ來テ呉レトノ電報アリ 四時四十分ニテマグネトヲ持チ帰京 鳥飼氏ニ會フ
氏ハ明日トチギヲ見ニ行ク由
自分夜田中ノ宿ニ行ク 不在 後チ電話ニテ明朝會フコトヲ約ス

▲▼110ページ▲▼ 大正5(1916)年4月12日(水)

天気 晴

七時起床 朝食後青山ニ行ク。約束時間ノ八時ニツク 岡山カラ坪田ガ來ル筈ノ處九
時ニ行クト云フ電報ノアツタナリ、ソレカライクラ手紙ヲ出シテモ電報ヲウツテモ返事
ガナイトノコト 兎ニ角今夜帰ルカラ契約ヲシテ呉レトノコトニ、夜契約ヲナシ、栃木ノ

方ノ日取ガ極リ次第返事ヲスルコトニシ其上ニテスグ契約金ト契約書ヲ送ッテ貰フコトニシタ 契約ハ金六百元デ出發前二百円、機体到着ト同時ニ二百円 飛行終リデ二百円トス 尚外ニ支配人トシテノ契約ヲシテ呉レトノコトデアッタガソレハ岡山ヘ行ッテカラノコトニシタ

後鳥飼氏ニ行ク 氏ハトチキニ出張 晝食後正雄君トマグネトノ試験ニ友野ヘ行ク 初メヨイガ後ダン、悪クナル。正夫君ガシラベタイカラ貸テ呉レトノコトニアツケテ其足デ都筑氏ヲ訪ヒ、アンドリユースデ見テ貰フ様ニカラッテ貰フコトニシタ 明朝持参スルコトニ約シテ帰途加藤ヘプロペラヲ注文シ白戸ノ事務所ヘ立寄り帰宅。

正夫サンニ右ノ由電話ヲカケル。分解シタ處アーマチャーニヌッテアッタモノガ流れ出シテ方々ニクツツイテ居タトノコト

▲▼111ページ▲▼ 大正5(1916)年4月13日(木)

天気 晴

起床 朝食後スグ鳥飼氏ヘマグネトヲ取リニ行ク スデニ氏ハ直ス爲メ、例ノ小口ヘ持ッテ行ツタアトデアッタノデヤムヲ得ズ都筑氏ニ電話デ其趣キ事(ママ)ハル。シバラク待ツ内鳥飼氏帰宅。エボナイト引直シツ、アル由 栃木ハ場所ハヨク六百元ノ處五百五十円迄引下ゲ、僕ノ手取四百五十円デ行ッテ呉レトノコトニ承諾ス。晝前ヨリ白戸ノ事務所ニ行ク。梅田氏ヤ島井君白戸ト談話ヤ囲碁ヲナス。夕方、山陽新報ノ代理人來ル。不思議ヤソレガ坪田デアッタノデソツト様子ヲ聞イテ見ルトドーモ田中ノ云フコトト様子ガ違イソーダ ソレニ昨田中ガ坪田カラ返事モ何ニモ來ナイ云ッテ居タノガスデニギ間デアッタ 坪田ハ田中ガ會ヒニ來テモ會ハナイノダト云ッテ居タ ソシテ最後ニ之レカラハ直接話ヲシナケレバ駄目デスト云ッテ居タカラ岡山ハ之レダメダト分カッタ。
夜買物ヲナシ終烈(ママ)ニテ帰稻

▲▼112ページ▲▼ 大正5(1916)年4月14日(金)

天気 晴

八時起床 朝食後日記。九時半河村氏來 エンジン組立終日

夜花

店ノ親父入院ス

鳥飼氏ヨリトチキ本日キマル趣キ打電アリタリ

▲▼113ページ▲▼ 大正5(1916)年4月15日(土)

天気 雨

七時起床 切抜整理中豊ドシニ河村家ヨリ事傳アリ 今日帰ッテ呉レトノコトニガテン
行カズ、千葉へ電話ヲカケニ行ク。雨シキリニテ困ル。助手ヲ、タノマレタノデ一寸話ヲシ
タイコトガアル由。帰途豊ドシニ會フ 帰稻後三時十五分ニテ帰京

佐久間氏ノ息ガナイタイ由。佐久間ノ老人來 夜話ヲ聞キ明後日天氣ナレバ來稻ヲ
約シテ終列車ニテ帰ル

鳥飼氏ヘモ行ク 栃木ノ契約金百五十円ヲ貰フ 河村氏ヘ十五円返済 五十円預ケ
マグネト修理中ナリシ

栃木手取四百円ヨリ取レヌカモシレヌトノコト ダン、ヘッテ來ルノハ心細イ 一タイ何
程デ契約シタノカ分ラナイ

▲▼114ページ▲▼ 大正5(1916)年4月16日(日)

天氣 曇風静

豊サンニマグネト取リニヤル 日記、新聞。

晝山形帰ル。マグネト取付エンジン出來上ル

夕方廻ス 二分間位ウマク行ッタノデヤット安心シタ スグ濱氏ト白戸、正夫君ニ打電
ス

濱氏ハ五月一日飛行承認

▲▼115ページ▲▼ 大正5(1916)年4月17日(月)

天氣 曇リ

正夫君來 同乗セシムベク機ヲ出ス 小ナレドモ山風アリ 注意シテ初メ單獨ニテ飛行。
大分上リニクヒ様ナ氣ガシタガ無事飛行 セマイ場内ニ着陸ノ練習ヲヤル 一寸思ハシ
クナカッタガ自信ハ出來タ

正夫君同乗シタガ上ラズ不思議トシラベテ見ルト、エンジンノ角度ガカワッテ居タノデ
之レヲ直ス。五六米突飛行スル内左へ廻サレ初メテ機ハフラ、ト下リ初メタ 右ヘフンデ
モ上ゲテモ一向カヒガナカッタ 其内左ノエレロンガ、ケイカイノ杭ニカッテ左ヘドシント
イッタ爲メ右ノ羽根ト車輪ヲ一個コワシタ
スグ分解修理 夜出來上ル

▲▼116ページ▲▼ 大正5(1916)年4月18日(火)

天氣 曇リ

午前中ニ駅迄運ンデシマッタガ貨車ハ荒テ八時ニ漸クツイタノデ明朝積込ムコトニシタ
今夜八分レニ林田玉井ヲ皆ヨンデーパイノムコトニシタ 数廻自身ニ呼びニ行ッタノニツヒ

三人共來ナカッタ。本郷一人來。随分失敬ナヤツ等デアッタ

今日お吉が見テ貰フトヤハリ妊娠シテ居タ スデニ二ヶ月ダトノコト ソースルト十二月ニ出產スルコトニナルガソレ迄ニ何ントカ出來ルデアロー

▲▼117ページ▲▼ 大正5(1916)年4月19日(水)

天気 晴風静夜ヨリ吹キ出ス

朝荷物ノ積込ミヲ終リソレ、旅費ヲ與ヘ九時廿二分ニテ出發サセル
並木カラ余ヲ迎ヘニ來ルノデ濃園ニ行キお花見ヲナス 新駅長モ來 十二時過ぎ歸リ仕度シテ一時五十分ニテ成田ニ參詣 四時十五分ニテ歸リ千葉ニ下車 病院ニ親父ヲ見舞ヒ七時廿八分ニテ帰稻 夕食後方付モノヲナシ十一時頃眠ル

▲▼118ページ▲▼ 大正5(1916)年4月20日(木)

天気 晴レ後チ曇リ

六時起床 参拝 朝食 仕度ヲナシ、プロペラニ金式田ヲツケテ奉納スル様お吉ニ命ジ七時五十分ニテ帰京 河村宅ニ行キ鳥飼ニ行ク 山縣草賀ヲ十一時二十分ニテ出發サセ、白戸ニ行キビールヲ馳走ニナリ、妻君ト共ニ三越ヘ河村サンノ祝ヲ買ヒニ行ク 初メテ見タガ中々立派ダ。帰宅後鳥飼氏ヘ電話ヲカケ二時三十分ニテ出發 五時過ぎ栃木着 草賀ガ迎ヘニ來テ居タ

晃陽館ニ入リスグ大口ト飛行場ヲ見ニ行ク ドーモ山ノ近イノニ困ツタ。広告ニ民間飛行家鳥飼繁三郎トシテアッタ 新聞ニモ自分ノ名ハ少シモナカッタ 妙ナコトモアルモノダ

夜眠クテタマラズアンマヲ取ツテ眠ル

▲▼119ページ▲▼ 大正5(1916)年4月21日(金)

天気 曇リ

六時起床 終日ドンヨリシテ居タ 一番デ鳥飼氏來 朝食後組立ニ行 自分ハ公園ノ山ニ登リテ飛行場ヲ見下シテ又凹凸ヲモヨクシラベ組立ヲ手ツダウ。今日予備飛行ヲヤツテ呉レトノコト 十時頃カラ丁度西風山ノ方カラ吹キ出シテ心配シテ随分幾度モ場所ヲシラベ風ニ對スル飛行法ヲモ考ヘ考ヘタガ丁度六時頃ピツタリ風ガナクナッタノデ樂ニ飛ブコトガ出來タ ソシテ着陸モ又無事ニタヤスク出來タ。ア、天祐ナルカナ 畑ハ青タト実ニキレイデアッタ

▲▼120ページ▲▼ 大正5(1916)年4月22日(土)

天気 曇後晴日アリ

雨が降タリヤンダリシテ居タガ其内上リソーニナッタノデ行ク 丁度十時頃デアッタ
風が大分出オ居タタ 飛ンデ呉レト云ワレルノデ心配シナガラ十二時十分前引出シタ
丁度横風デ上ガツテ追風デ上ゲナガラ廻ラナケレバナナイ。シカモ風ハ山カラ吹下シ
テ居ルノダカラ少ナカラズ心配シタガ、機ハ思タヨリグン、上ガッタ ソシテ依頼ヨリ
町ノ中央迄行キ帰場 々上一週ノ後着陸。随分ヒドクユラレタシ、初メテヒドク下セラ
レタ。プレーンヲ打ツ風ハ丁度ゲンコデモタ、ク様ニ感ジラレタ

晝食後四時頃場ニ行キスグ飛行 今朝程ニユレナカッタ。場ノ上ノ村ノ上ヲ三回バカリ廻
ツテ降リル 五時又飛行場上ヲ小イサクニ三回小田ヲ晝ギボールプランデ廻ルコトヲ
練習シテ無事着陸 大ニ天祐ヲ受ケタ 朝ハ人ガ少ナカッタガ午後大分出タ 評ハヨ
イトノコト マヅ一日ハ無事ニ終ツタ

◆◆121ページ◆◆ 大正5(1916)年4月23日(日)

天気 雨

朝カラシト、ト春雨降り大シタコトモナカリシモ中止ト決ス。大分人ガ來タ由
散髪ヲナシ夜ハ各方面ニ手紙ヲ出ス

白戸ヨリ打電アリ 場所ヤ、ヨシ、スミ次第コイトノコト。尚巖號上ラヌ由 コイツ又何
ントカ考ヘネバナラヌ

◆◆122ページ◆◆ 大正5(1916)年4月24日(月)

天気 晴

朝ヤハリ曇テ今ニモ降り出シソーデアッタガ八時過ギカラ晴レ出シデツヒニハ今年初メテ
ノ夏(マ)サニナッタ 來觀シタ女生徒ニ大分タオレタモノモアッタ

午前ハ町ノ上ヲ飛ビ午後二時頃發動機ガ又例ノ病氣ヲヤリ出シタノデー一寸二回バカ
リ廻ツテ降リタ。ソレカラマグネトヲハヅシ鳥飼氏ガ應急修理ヲシテ呉レタガ、ヤハリヨ
クナカッタ。五時過ギ最後ノ飛行ヲナシ低空ニテ両手ヲハナシテ觀衆ニ應ジ後着陸ノ
際少シ凹凸ヲサケル爲メ長クナッタノデ客ノ中ヘ飛ビ込ンダガ、幸ヒケガ人ハ一人モナ
カッタ タオレタ人ハアッタガスグ飛ビ降りテオコシテヤッタ ソレガ又馬鹿ニ皆ノ氣ニ入
ッタラシカッタガアタリマエノコトナノデアッタ。

夜昨年來ノ慰勞ノ目的デ皆ニパイノマセル 主催モ丁度來テ一所ニヤル。此次ギノ飛
行會ヲヤリタイト云フ人カラビールノオクリモノガアッタ 其人モ呼ブ。自分ハツヒ二分
カラナクナツテ寢デシマッタ。

濱氏ヨリ百円受取ル 白戸ヨリ手紙來

▲▼123ページ▲▼ 大正5(1916)年4月25日(火)

天気 曇リ後雨

七時荷物運搬ニヤル 鳥飼氏二番ニテ帰ル マグネト持ッテ行ッテ直シテ貰フ
貨物午後一時発車 山形一時五十分ニテ東京へマグネト取りト借金拂ニヤル
夜七時ニテ出発 雨降ル
高崎九時半

▲▼124ページ▲▼ 大正5(1916)年4月26日(水)

天気 曇リ風

三時カラ七時迄篠井ニテ待ち合セ九時松本着 二人下車 自分ハ岡谷へ十二時着ス
濱氏トノ契約書ヲ見ル 後チ白戸ノ飛行機ヲ見ニ行ク。プロペラヲ取替へ廻シテ見ル
余リ面白カラズ。夜計算シテ見ルトドーシテモ飛バナイ訳ハナイノダカヘンダ 初メテヤ
ツタ時ハ三度バカリ上ゲ舵ガヨクキイタガ四回目ニ引イタ時ハ水ノ方ヘ下ガッテ居タトノ
コト 多分気流ニ違ヒナサソダ
濱氏ヨリ手金トシテ五十円受取ル 白戸ガ借タイトノコトデアッタ
夜ビールヲ皆ニオゴリ十時就床

▲▼125ページ▲▼ 大正5(1916)年4月27日(木)

天気 曇後晴レ

五時半頃試験ノ爲メ行ク。追風デアッタガ帰リニ向ヒ風ニナッテモ遂ニ上ガラナカッタ
風ハ益々出タノデ中止シテ帰ル 九時山縣來。オイルヲ取替へ、十二時十五分発ニテ濱
氏ト三人ニテ松本來 スグ練兵場ヲ見浅間温泉ニ行ク。蔦ノ屋ニ入ル
三時頃小林濱氏トビールヲノム 予備飛ノアトヲ本飛行迄成ル可ク日ヲオイテ貰ヒタ
イトノコト

練兵場ノ都合上三十日予備飛行 一二日展覽 三日飛行ト取キメル。夜早クアンマヲ
取り眠ル

白戸ノ宅へ五十円送り白戸ニ五円與ヘル

▲▼126ページ▲▼ 大正5(1916)年4月28日(金)

天気 晴風ナシ

今日ハ十二時カラ三時頃迄少シ風ガアッタノミデ実ニステキナ飛行日和デアッタ
皆ニ機ノ手入レニヤリ自分ハ各方面ノ手紙ヲ書キ練兵場ヲ見ニ行キ後写真ヲ取ル。午

後急ニ格納庫ヲ立ルトノコトニ四時頃ヨリ練兵場ニツメキリ 夕方機來テテールダケ組
立 明朝予備飛行ノコトニ決ス
白戸ノ機分解シタル由

▲▼127ページ▲▼ 大正5(1916)年4月29日(土)

天気 曇風

五時起床 曇リタレドモ風ナシ スグ行キテ組立出來ル頃ヨリ風出デ益々ツヨクナリ飛
行出來ズ中止ニナル
各方面ニ手紙ヲ出ス

▲▼128ページ▲▼ 大正5(1916)年4月30日(日)

天気 曇風雨

朝來風雨ニテ飛行不可能

朝切抜ヲ整理シ午後格納庫へ巡查ノ説明ニ行キ後チ、写真ヲ整理ス。夜アンマ、蓄音機

▲▼131ページ▲▼ 大正5(1916)年5月1日(月)

天気 曇リ

雲低クケレドモ風ナシ 六時行キテ準備ヲナス 七時ニ有志者が來ルトノコト 待ツ内
北風ガソロ、出テ來タノデスグヤルコトニシタ。風向ヒニ機ヲオイテ一度發動機ヲ廻シ
テ見タ 其内大分風ガ強クナツテ來タノデドーシヨカト思ツタガ、エーヤロート我レ知
ラズロニ出タ。登リ坂デアッタノデ少シ滑走ヲ長クシテヤット浮イタガ中々上ガラナイ
アセツテ上ゲヲ引クト手ゴタエガナカッタ 其中前ノ林ノ上ニ來タガ殆ンドスレ、デアッ
タ 左廻轉ヲ小イサクシテ横ニ少シノ平ガアッタノデ、ソコニ降り様ト思ツタガドーセコ
ワスナラト云フ氣ニナツテ其儘ノバシタガ家ヤ電線ニカス、ナノニハ少ナカラズ氣ヲツカ
ツタガ追風ニナツテカラグン、上リ初メタノデヤット安心シタ。ユラレタノモ随分ユラレ
タ 二週シテ向風ニ無事着陸シタ 降ル時兵營ノ煙突ノワイヤート翼ハ少シシカハナレテ
居ナカッタ 皆モ嬉(ママ)ンダガ自分モ嬉シカッタ 市長ヤ署長モ嬉(ママ)ンデ呉レタ
機ハ開明座三連ンデ二三日展覽 五日飛行ニ決ス。此間写シタ写真ヲ、白鳥デ現象(マ
マ)シテ貰フ ヨク写ッテ居タ。

夜小林ト濱氏トニ御馳走ニナル 八時帰ル

▲▼132ページ▲▼ 大正5(1916)年5月2日(火)

天気 曇リ

六時起床 皆展覽會ニ出張 自分十時十五分ニ濱氏ト上諏訪ニ行ク。鷺ノ湯ニテ晝食ハカラズモ此前來タ室ト同ジ室デアッタ。濱氏ハ金ヲ取りニ行ク 百九十五円ダケ持ツテ來タガ五円タリナイ。ソコデ百九十円受取り白戸ノ十円ヲ入レテ式百円ノ割ニテ受取りヲ差出シ居ク アト百円ハ四日迄ニ必ズ呉レルトノコト ソレヨリ場所ヲ見ニ行ク 前ノ所ヨリ少シ向フノ川ト川ノ間ノ處デ下モ以前ヨリハカタカタ 之レト決定シテ二時四十分ニ乗りオクレ六時ニテ帰ル 九時半宿ニ着ク 丁度皆モ帰ッタ處デ共ニ夕食アンマ 終日ナポレオンヲ讀ム

◆▼133ページ◆▼ 大正5(1916)年5月3日(水)

天気 晴

朝各方面ニ手紙ヲシタメ宙返リ機ヲ設計ス 十時頃ヨリテク、開明坐ニ行ク 写真ハヨク出來テ居タ

入場者ハカナリアッタ 昨日ハ四十円バカリ上ガッタ由 今日ハ後ノ話ニ百十余円アリタル由 入場者ノ割合ニ金高ノ少ナイノハ寄附金ニヨルデアッタ

松本紀念館ヲ見市街ヲ散歩ス。夕方写真屋ノ主人ト公園ヲ散歩シ松本館ニテ夕食妓ヲ二名ヨビ九時ニ帰ルベク車ヲ呼ンデ居タガ写真屋ガイツ迄モ帰ラナイノデツヒ二十時ニ及ビ前後不覺ニナツテ遊廓ニ入ッタ

◆▼134ページ◆▼ 大正5(1916)年5月4日(木)

天気 快晴

七時起床 九時帰宿 モー皆出タアトデアッタ 入浴後濱氏來 百円受取ル。アンマヲ取ル

晝食ノ時皆帰ル 濱氏、藝者ヲオゴル 自分ビール、サカナヲオゴル 皆ニノマセル 濱氏ヨッパラツテ眠ル 藝者共ヲ、写真ニ入レル 後少時眠ル 写真ヲ現象(ママ)ニヤル 夕方大池、小林両氏來 一寸ビール才出ス 夜夕食後スグ床ニ入ル

◆▼135ページ◆▼ 大正5(1916)年5月5日(金)

天気 晴風ナシ

五時起床 空ヲ見ル アマリ晴レ過ギノ感アリ心配セシニ其事ナク午前中絶好ノ天祐振リ

八時半第一回 プツン、切レテ上リニクカタガ思切ツテ色々飛ンデヤッタ。着陸後

スグ分解スルト中ニ油ガ廻ッテ居タノデ、ソレヲスグイ、十一時第二回ヲヤル 一度ノ上ゲデブート上ガッタ 氣持ガヨカッタ 今度ハ市ノ南端迄行ッタ。之レニテ晝食ヤレ、飛行モ無事 濱、小林ハ初メ市長署長モ大嬉(ママ)ビデアッタ。各方面ニ手紙ヲ出ス

夜市有志者ノ招待会ニ松本館ニ行ク 署長検事判事新聞記者多数デアッタ 一場ノ挨拶ヲナシテ九時頃御先ニ帰宿 大口ト遊廓ニ行ク

◆▼136ページ◆▼ 大正5(1916)年5月6日(土)

天気 晴風強シ

宿カラ迎ヘガ來タノデ六時半帰宿 朝食後勘定ヲスマセ仕度ヲナシ十時十分ニテ大口ヲ先キニヤリ八時過ギ小林君ト各方面ニ禮廻リヲナシ十時写真屋ニ行キ三人デ晝食ニ行ク 妓ヲ三人バカリ呼ビツヒ二三時ノ汽車ニナルコトニナル 小林氏ヨリ眞綿ヲ贈ラル 五時半上諏訪着 風強ク組立出來ザリシ由 夜眞綿ヲ稲毛ニ送り各方面ニ手紙ヲ書ク

◆▼137ページ◆▼ 大正5(1916)年5月7日(日)

天気 雨風

風ハゲシク雨時ニツヨシ。タイムスヨリ二人來ル 九時頃帰ル。小包ト新聞ヲ送ル 十時頃ヨリ上諏訪明神へ参詣ニ皆ト行ク 雨シキリナリキ 明神ハ、大国主ノ命ノ第二ノ御子ナリトカ 御札ヲ頂キ社前ノ店ニテ晝食後帰ル 買切リニモカ、ワラス五人乗セテ呉レトテ、乗ッタハヨイガ、バラスノ敷イタ處迄來ルト馬ハ動カナクナッタノデ大口以下三人降り山縣ト草賀ハ馬車ヲ押シテヤツト帰ッテ來タ。午後、天候變化ナク床ニ入ル

留都(ママ)中松本ノかめゆとか云ふ女カラ電話ガカッテ帰ッたら四二八番へ知ラセテ貰ッテ呉レトノコト ホッテ居ク

夜十時頃又來タ 諏訪へ行クトノコトニヨス様云ッテ居イタガドーモ來ソーデアッタ。シカシドシナ女デアッタカ昨日晝間一寸來タ女ノ一人ダカラ自分デハドレガ何ノ女ダカ名ヲ聞カナイカラ一向ワカラナイ。ハイカラニ話シテ居タトカ一番早ク御坐敷へ行ッタモノダトカ云ッテ居タガサデドレデアッタカ、ワスレテシマッタ

穂高展覽會ノ返事ヲウナガスベクハガキヲ出ス

◆▼138ページ◆▼ 大正5(1916)年5月8日(月)

天気 晴風

晴レタトモ風強クツヒニ中止 クラクナル頃ヨリナグ 明朝ハヨサソーナリ

午前宙返リ機ノ設計ヲナサントセシモ思ワシカラズ中止 午後二時頃ヨリ下諏訪明神
ニ参拝 五時帰宿ス

夜アンマ

濱氏來訪以來夕方初メテ來ル

▲▼139ページ▲▼ 大正5(1916)年5月9日(火)

午前五時皆起床 行ク 自分六時起床 行キテ組立ヲナス 九時出來ルヤ試運轉ヲナ
シ九時二十分滑走ヲ初ム 發動機ハ調子ヨク五六十米突ニテフワリトウマクイッタノデ
ベタトバカリグン、上ゲ上諏訪町上ヲ一週シカードヲ散シナガラ停車場上ヨリ湖水ニ
出デ下スワニ向ヒ岡谷ニ行キカードヲマク 速力ガ馬鹿ニオソイ様ナ氣ガシタ

歸リハ反對ノ湖岸ヲ廻リテ帰場シタガ同ジョーナ田バカリデ何ノ設備モナイノデ着
陸場ヲサガスノニ困ツタ 一度降りソケネテ二度目ニ着陸。十九分ナリシト。速力ノオ
ソイト思ツタノハアマリ高カッタ爲メデアッタ 何ンデモ千米近ク上ガテ居タトノコト
自分ノレコードデアッタ。モ一一度ヤツテ呉レトノコトニ二三週五分間ニテ着陸 昨日ニ
引替ヘ今日ステキナ無風デアッタ 氣流モ高度モヘチマモアッタモノデハナカッタ
夜鶴明館ニテ歡迎會アリ 皆モ行ク

▲▼140ページ▲▼ 大正5(1916)年5月10日(水)

天気 晴

今日ハ九時頃カラ風強カッタ ア、天祐ヲ謝ス

十一時五十分デ岡谷ヘ來テ呉レトノ濱氏ノ電話ニテ行ク 車中南信日日社長ト會ス
外ニ上諏訪ヨリ藝者三名ト下諏訪ヨリ三名ニ會フ 之レガ予ニ対スルモノデアルコトハ後
ニワカッタ

濱氏停車場ニ向ヘラレ車ニテ松風停(ママ)ニ行キ高橋政義氏ニ會フ。五時迄馳走ニナル
中バヨリ白戸ガ世話ニナリタル京屋ノ主人來 外ニ一人ヤハリ絹糸商人來リ會シタレド
モ人格ナキモノノミナリキ 五時二十五分發ニテ帰宿

九時二十五分發ニテ大口稻毛ヘ帰ル 土産物ヲモタセテヤル。白鳥ヨリ手紙來 中ニ女
ノ手紙モアリタレドモ白鳥ノイタヅララシカッタ

▲▼141ページ▲▼ 大正5(1916)年5月11日(木)

天気 晴風アリ

朝濱氏二會フ 六ヶ月デニケ所ヤッテ呉レトノコト 後チヲ約シテ帰ル 晝食ヲ三人デ
関ニ行キ喰ヘルダケ喰フト云フノデ、オバーサン藝者ヲ一人タノミ四時頃迄喰ヒカツノ
ム。帰途写真屋ニ現象(ママ)ヲタノミ花ヲ引ク處へ濱氏來。湖畔ニ出デ朝ノ話ニウツル
決(ママ)果六百円ニテ運賃ダケ濱氏持ツコトニ決ス

余不在中松本ノ女カラ又電話ガ來タソーダ 白鳥ニ返事ガ來テ自分ノ方へ來ナイトカ
山縣ガ聞イタ由

▲▼142ページ▲▼ 大正5(1916)年5月12日(金)

天気 晴午後風強シ

濱氏二會ヒ今井外式三軒禮廻リヲナス

濱氏松本ヨリ北信ニ行ク 明夕帰ル由

写真屋二十時過ぎ迄遊び其内ニ、カメ勇ニ電話ヲカケル。馬鹿ニ元氣ノナイ マルデ病
人ノ様ナ声デアッタ。兎ニ角アマリ、ウラマナイ様ウマク云フツモリノヤツガドーモ中々
ロニ出ナイ トートー不得要領ヲヤッテシマッタ 帰宿後ソレノミ氣ニナリ、三時ノ列車
デ行ッテ見様カトモ思ツタガ各方面ヲ色々考ヘテソレモヨシテツヒニ白鳥君ニ過日、氏ノ
イタヅラト思違ヒヲシタ、佗ビ方々事傳ヲ依頼シテヤル

マグネトヲシラベタルニ又又被覆物ガ流れ出テ居タノデ豊サンニ東京ヘ持タシテヤル タ
食後スグ眠ル

▲▼143ページ▲▼ 大正5(1916)年5月13日(土)

天気 晴風ナシ

朝食後写真機ヲ持チ上諏訪明神へ参拝方々行ク 帰途東写真屋ニ寄り現象(ママ)ヲ
タノミ帰宿 手紙電話等ノ來否ヲタシカメ下諏訪社ニ参詣シめしを喰ふべく方々サガ
シタガツヒニナク社前ノ松葉屋ト云フニ入り、此間ノ、アヤメ君ヲ呼ブ 後チニ葉ト云
フノモ來リ木曾ブシヲ習ヒ五時二十八分ニテ帰ル
夕食後スグ眠ル

▲▼144ページ▲▼ 大正5(1916)年5月14日(日)

天気 晴

五時頃入浴後又眠ル

九時頃濱氏ヨリ電話アリ 十二時ニ帰ル由

大平君ト地藏寺ヲ見ニ行キ帰途信濃ニテ晝食後帰宿 丁度スグ濱氏來 大町、長野、
上田ノ三候保(ママ)地ニテ最初ハ大町ノ由 明日大町ニ行ク由

一時頃汽船ニテ濱氏ト花岡公園ニ行ク 中々眺メヨシ。五時頃雨シキリニ降りタレドモスグヤム 六時ノ汽船ニテ帰ル
夜写真屋へ行ク。吉ヨリ手紙來ル

▲▼145ページ▲▼ 大正5(1916)年5月15日(月)

天気 晴風ナシ

午前六時起床 七時朝食 濱氏ヲ訪ヒ甲府ノ話ヲナス。即チ黒沢君ニ様子ヲ聞イテ貰フ。マダ返事ナキ由 今日アタリ來ルトノコト 其返事次第ニテ甲府ニ出張スルコトニス八時三十八分ニテ濱氏ト松本ニ行ク。余ハスグ浅間ニ行ク。後チ、濱、小林両氏來。妓ヲ呼ビ御馳走ヲナス 五時頃、小林氏ノ尽力ニテ、亀勇ト外一人來。浅間ノ妓ヲ帰ス夕方亀勇ト二人デ山ヲ散歩ス 帰途色々ノ話ノ出カケタ處へ濱氏ト宿ノ娘等向ヒニ來リ共ニ帰リ夕食後濱氏諏訪ニ帰ル 小林君十時頃帰ル
亀勇泊ルコトニ決シ十一時頃床ニ入りタル二十二時頃電話アリ止ムヲ得ズ帰ル 明朝早く來ルコトヲ約シテ

▲▼146ページ▲▼ 大正5(1916)年5月16日(火)

天気 晴後雨

ビールヲノミ過ギテカ夜中幾度モ便所へ行ツタ 五時半頃ソツト女ハ這入ツテ來タ。昨夜帰ラナクテモヨカッタ位ダツタトコボシテ居タ。ソシテ昨夜中ハ眠レナカッタト共ニ寢タ。七時頃起床 入浴 朝食 十時十分デ帰ルカ十二時ニシヨカトツヒ二十二時ニシテシマツタ 濱氏昨夜氣(マ)車ニ間ニ合ズ、又帰ツテ來テ今朝七時ノ列車デ帰ツタトノコト。十二時丁度ニ宿ヲ出ルベク車ヲ云ツテ居タ。出カケル迄ニ泣イタリ笑ツタリ女ハ氣チガヒノ様ニ思ワレタ。昨夜ハ内へ帰ツテモカタ身ガ広カッタトカ、會ワレナイト思ツテ居タノデ千葉迄行クベク姉サンニオシエラレソレカラハ一生縣(ママ)命ニ家業ニ勉強スル様ニナツトカ色ンナコトヲ云ツテ居タ

イヨ、ト云フトナルト又泣キ出シテ困ツタ處へ小林氏ガ來タノデツヒニ、立ソコネテ又ビールヲノミ、小林氏ノ行クミヨシへ行キノミ直シ白鳥君モ呼ンデ二時ニソコヲ出タ 白鳥ト女ト二人デ見送リニ來タ 女ハイケナイト云ツテ居タノダガヤツパリ來タ
二十八分發 五時半上諏訪着

山縣今朝帰リタルコトハ電話ニテ知ル 濱氏明朝長野へ行ク由

▲▼147ページ▲▼ 大正5(1916)年5月17日(水)

天気 雨

午前中手紙ヲ書キ、新機ノ参考圖ヲ畫キ、午後小説ヲ讀ム
夜山縣草賀、活動ヲ見ニ行ク 余ハ、留都(ママ)ス

◆▼148ページ◆▼ 大正5(1916)年5月18日(木)

天気 雨

午前中二人ハ機ノ手入ニ行ク 自分ハ白戸、佐渡島、武田ニ手紙ヲ書キ切拔ヲ整理ス
午後二人ヲ湖畔ニテ写真ヲ写シ、写真屋へ持ッテ行ク。濱氏ヨリ繪葉書ヲ作ルカラ自
分ノ肖像(ママ)ヲ取ッテ居イテ呉レトノコトデアッタ由
夜大平來 囲碁ヲナシ大敗ス 十時床ニ入ル

◆▼149ページ◆▼ 大正5(1916)年5月29日(月)

天気 曇少晴

朝食後写真屋へ写真ヲ写シニ行ク 歸リテ濱氏ヲ待ツ 十二時過ぎ濱氏來。須坂ニテ
展覽廿二三、其後チ長野ニテ展覽飛行ノ由 長野ニテハ信毎ハ後援ヲナスモ主催セザル
由ニテ、スミスノ今日十分ヤソコヲ飛行デハドーノコーノト生意氣ヲ云ツタトノコト。
何ニカ一ツ驚カセテヤリタイモノダ
メタルハ二十五日頃出來ル由 大口十一時三乗ル様打電 お吉ヨリ手紙來 色々ナク
ダラナイコトヲ云ツテヨコシタ 大口十一時ニ立タナイトノコトニ、ソレデハ上野ヨリ長野
へ來ル様打電ス

◆▼150ページ◆▼ 大正5(1916)年5月20日(土)

天気 曇リ風ナシ

濱氏ノ電話ヲ待ツタガ中々カゝラナカッタ
皆ハ八時頃カラ積込ミニ行ツタガ之又貨車ガ廻ラズツヒニ二十四分デ自分ダケ立ッ
其以前ニ亀勇ニ電話ヲカケタ。僕ガ行ツタ其時カラ病氣デ寢テ居タトノコト
長野へ七時着 藤屋ニ入り十時ノ大口ヲ待合ス。十一時二人來 久シ振リデ四人ニナ
ッタ 貨車ハ二人 出發後六時半デ多分來タ筈トノコト 兎ニ角不トゞキナ運送屋デア
ッタ

十二時過ぎ眠ル

◆▼151ページ◆▼ 大正5(1916)年5月21日(日)

天気 曇晴風ナシ午後風アリ

五時起床 大口ニマツ聞キニヤル マダ早くテヨクワカラヌトノコトニ六時ニテ二人ダケ
吉田ニヤル 自分等ハ八時半ニテ行クコトニシ、調ベル 松本迄來テ居ルトノコト 今夜七
時デナケレバ吉田ニツカヌ由
三人ヲ吉田ニノコシ自分ハ車ニテ須坂ニ行ク 桐屋ニツイタガタレモ居ナカッタ 町ヲ見
タリ寢タリシテ夜ニ入ル 十一時半頃荷物ト共ニ皆來ル 小屋ニ入レ帰宿 夕食 十二
時半頃床ニツク
濱氏夕食頃長野ヨリ帰ル。今日金ヲ百デモ二百デモ差上ゲタイノダガ兎ニ角マカセテ
貰ヒタイトノコトニ、ソースルコトニシタガ実ハ自分ノフトコロモモ二円バカリシカナイノ
デ心細イコトオビタヽシイ

▲▼152ページ▲▼ 大正5(1916)年5月22日(月)

天気 晴レ雷雨アリ

氣ツカヒナ天氣ガ晴レタノデ六時ニ皆ヲ起シ自分七時起床 組立ヲナシ九時過ギ朝食
入場者少数ニシテ收入ハ廿八円余ナリシト
濱氏午後長野ヘ行キ夜帰ル

大町頗ル不安ノ模様ニテ松本ヘ電話ノ決(ママ)果本日中ニ決定ノ由。大町出來ザル時ハ
佐久ヲ運動スル由。佐久ヲ運動スルトスレバ濱氏ガ一寸手ガヌケルノデ甲府ヲ運動シテ
貰フコトニ依頼シタ

今ハ皆モクタバビレテ居ルノデ八時頃床ニツク

十一時半頃大キナ雨が降ッテ居タ 變ナ天氣ダ

鳥飼氏ヨリ話ノ方不調ノ知ラセアリ

▲▼153ページ▲▼ 大正5(1916)年5月23日(火)

天気 晴レ

手紙ヲ二三枚書キ九時頃座ニ行ク。今日ハ學生千余這入り大分景色ヨサソーデアッタ
ガ夜間迄開場シテ漸ク昨日ト合セテ百円ニ充タナカッタトノコト ソレデモ元々ニハ上
ガツタラシイ。アトハ寄附金ノ問題ダケデアル

大町ハイヨヽダメト決定シ小林君ハ目下佐久ヘ出張中 明タカ明後朝長野ヘ來ル由

▲▼154ページ▲▼ 大正5(1916)年5月24日(水)

天気 晴

八時頃ヨリ分解ニ行ク 九時頃自分モ行キテ一寸手傳ヒ晝前帰ル 濱氏ヨリ旅費トシ
テ五円受取ル。晝食後一時写真機ヲカタニテクニテ長野ニ向フ 千曲川畔ニテ撮影中

濱氏車ニテ來 共ニ着陸場トシテノ河原ヲ見ル 濱氏ヲ堤防ノ上ニテ写シテ分レル
吉田ノ大神宮ヨリ車ニテ大門町白木屋ニ入ル 途中吉田ニテ濃(マ)學校ノ生徒ヲシ
キガ二人往來ノ馬フシヲ、掃除シツ、アリシニハ感心セリ。着スルヤ今朝受取リタル田中
幾ノ返事ヲナシ外ニ吉、鳥飼、宗里、大坂、ハガキヲ出ス

◆◆155ページ◆◆ 大正5(1916)年5月25日(木)

天気 雨風

六時起床 スグ劇場ニ行キ組立ヲ手ツダヒ九時帰宿、朝食。濱氏來 雨盛ニナリタル
爲メ今日中止ニシタキ由ナリシモ學生團體引續キ來リシ爲メツヒニヤルコトニナル
今日モ金ハ呉レナカッタ。屋代ヘ飛ンデ行ツテ貰ヒタイトノ話シデアッタ。報酬ハト聞ク
ト此處ダケデ收入ガ足りナイノダトノコト。マ、損ヲサセテモ氣ノ毒ダカラヤルコトニシ
タガソレモ確定デハナカッタ

三時頃カラヤ、晴レタ。木戸番ガ一人デ切符ヲヤラズニウマイコトヲシテ居ルトノ評デ
アッタ

都筑、河村、ヘ手紙ヲ出ス 其外練生申込ミ者ニモ返事ヲナス

◆◆156ページ◆◆ 大正5(1916)年5月26日(金)

天気 晴レ静

終日風静ナリキ。朝食後濱氏ト場所ヲ見ニ行ク ドーモヨクナカッタ
晝食後劇場ニ行キ一回説明ヲ試ミタ

城山公園ヲ散歩シテ市街其他飛行経路ヲ定メタ

本日ハ入場者五千以上ニ登リ予定以上ノ收入アリタリ

十一時頃濱氏來 話アルトノコトニ共ニ茶 ■亭ニ入ル 廿八日延期ニシテ屋代、須坂、

長野ト飛行シテ呉レトノコト。ソーシナイト金ガ絶対ニ足ラナイ由 先ヅ、之レモ天意

ノアル處トマカセル 其変リ百円ヲ増ス由 一時帰宿 同半眠ル

ナホ、花、志賀、宅ヘ發信

◆◆157ページ◆◆ 大正5(1916)年5月27日(土)

天気 雨

今朝イヨ、ヤハリ明日ヤルコトニ決ス。晝過ギヨリ機ヲ運搬ス 丁度雨が降り出シタ。

自分場所ニ行キ濱氏ニ會フ。屋代ノ場所ヲ見テ來テ呉レトノコト 四時十五分デ行ク

丹波島ヨリハ余程上等デアッタ 六時五十五分ニテ帰ル

ガソリンノ無イノニ困ツタガ十一時頃ツヒニ青コーモリヲ買ツタ。濱氏ヤハリ須坂、長野、

屋代トヤツテ呉レトノコト ツヒニ二百円現金デアト二百円ヲ借用証書ニシテ小林ガ保証人デアッタ。現金六百五十円ダケ受取ル アトハ明日宿ニ泊リ合セタ小學生ノタメ講話ヲナス

十二時入浴 就床 アンマヲ取ル 一時半終ル

▲▼158ページ▲▼ 大正5(1916)年5月28日(日)

天気 晴風少シアリ

四時頃カラ空ヲナガメテ居タ 曇タ雲ガダシダント東ニ飛ンデ夜ハ明ケハナレ晴天トナツタ 風ヲ氣ツカッタガナサソーナノデ六時場ニ行ク 此處ニ來ルト少シアッタ 八時組立終ル ダン、強クナリソーナノデ、今朝買ツタガソリンヲ注入シタ。ソシテ九時十分前風ニ向ツテ隔(マ)陸 一週ノ後チ須坂ニ向ツタガ馬鹿ニ發動機ガキレルノデ須坂デハ約束ノ底(ママ)空モ出來ズ長野ニモ行カズ帰場 スグマグネトヲハツシタガナントモナイ。其間ニカーブレーターヲ見サセルト水ガ這入ッテ居タ。青コーモリノ筈ノガ天然瓦斯デアッタノダ ソレカラガソリンヲサガサセタガツヒニナク赤コーモリヲ使用ス。ソレデモヨク廻ッタノデ長野ノ市上ヲ二週シ帰リニ波状ヲナシ、傾シヤヲツテ見タ。

ドーモガソリンガ後ニ入レタカ入レナカッタカ氣ニナッタノデ一寸降リタ 其時右ノエレロソノスタンシヨング凸凹ニ引カッタガ大シタコトモナク、油ヲタシカメルトスグ飛ビコン度ハ一直線ニ屋代ヘ行ク 向ヒ風ナノデオソカッタ 風ハアッタガ少シモ困難デハナカッタガ篠井ヲ過ギテカラ大分變ニナリ飛行場ノ手前デ右ヘ傾ガツテ百米余モ下ゲテ居ル間ハ方向舵モ何ニモキカナカッタ 底(ママ)空デ場上ヲ一週シテ旗ヲ見ルトダラリシテ居ルノデ着陸

392頁へ

(393ページへ続く)

▲▼159ページ▲▼ 大正5(1916)年5月29日(月)

天気 晴風強シ

今日ハ終日風ガ吹イテ居タ ア、天祐アリシカナ 荷造リヲナシ、送ル物ヲ送り写真屋ト石油屋ニ行キ十一時宿ヲ出清城館ニ濱氏ヲ訪ヒ十二時三十分發ニテ稲荷山ニ行ク 展覽會場ヲ見ル 金五十円余收入アリタリ 此處デモ社員ガ百五十円バカリゴマカシタトノコト 大口ノ話シ ソーユエバ郡長カラ一度出ス云ツタ金ガツヒニ先方ノ要求違シテ居ルニモカ、ワラズ出ナカッタノハ不思議。學校長ト話中草賀ガ百姓ヲナグッタトテ其モノガ右ノ目ノ下ニ二ツバカリコブヲコサエテヤツテ來タ 之レデ大分手間取ツタ 濱氏タ方來 共ニ七時二十分ニテ出發ス。三人ハ明朝分解出發ノコト

出發前昨日電話ト電報ヲ呉レタノデ亀勇ニ電話ヲカケル 丁度御坐敷ニ行ツタバカリ
トテ亀松君ガ話シタ 金ノ勘定スルト寄レナイノデ通過ノコトヲ知ラセテ貰フ。十時停
車場へ來テ居タ 御坐敷カラヌケテ來タトバナ、ヲ呉レタ。上諏訪ニツクトスグモ一電
話ヲカケテヨシテ行クトノコトニナルベク止メル様云ツテ居ク

▲▼160ページ▲▼ 大正5(1916)年5月30日(火)

天気 晴風アリ

朝写真屋ニ行ク 帰宿 濱氏ヨリ電話アリ メタル三四日頃デナケレバ出來ナイトノコ
ト

アンマヲ取ル

午後伊東君遊ビニ來ル 二時過ギ帰ル

濱氏岡谷ヨリ電話アリ 伊那へ行ク爲メ會ヘヌカモ知レヌトノコト。三時八分ニテ帰京ニ
決ス 伊東君見送ツテ呉レタ

汽車ハスイテ居タノデユックリ眠レタ

十一時半新宿着。登坂ニ宿ル

▲▼161ページ▲▼ 大正5(1916)年5月31日(水)

天気 晴風強シ

今日スミス入京 三四五飛行ヲスル由

七時前河村ニ帰ル 朝食後鳥飼氏ヲ訪フ 不在 豊サン丁度今帰ツタバカリトノコト

共ニ白戸ノ事務所ニ行ク。マダ來ラズ。梅田ノ二十五馬力機ヲ見ニ行キ白戸ノ宅ニ行ク
宅ハ引越シテ芝田町一ノ十二。丁度今朝メシデアッタ。沼津成績ヨク、今尾ノ道交渉

ホゞ出來ニ日出發ナリト。山縣帰ル。イヤダト思ツタガ白戸夫妻ト川崎大師ニ参拝

晝食ヲオゴラセル。帰途都筑氏ヲ訪ヒ、マネジャーヲ一人頼ム。尚千覽氏ヲ訪フ 不在

妻君病床ニアリスグ帰ル 白戸ニテ夕食。九時河村ニ帰ル 今志賀氏來 自分ニ飛行機

ニ関スルモノデニツ自分デ研究シタ結果ヲ呉レタイトノコト 多謝々々。河村氏ノ碁ノ
相手ヲナシ十時過ギ床ニ入ル

▲▼164ページ▲▼ 大正5(1916)年6月1日(木)

天気 晴

朝鳥飼氏ニ行キ祝杯ヲ受ケ帰宅後御母サント豊川様へ御禮参リニ行キ帰ツテ山縣ヲ待
ツ

十時十分出發 稲毛ニ來ル

ソレ、土産モノノカワリニ金子ヲ與ヘ宗里、玉井両君トビールヲ共ニノム。

信州ニ於ケル各新聞其他関係者ニ禮状ヲ拾数通發信。写真ヲ整理シ、自分ダケノ切抜ヲ別ニ整理ス。夜早ク眠ル

お吉、宗里、山縣、金太郎等ヲ写真ニ写ス

▲▼165ページ▲▼ 大正5(1916)年6月2日(金)

天気 晴風静

五時過ぎ起床 日記朝食後写真ヲ二枚写ス

九時頃山縣ト千葉ノ写真屋ニ立寄り成田ノ不動尊ニ参拝 四時稲毛ニ帰ル。国民飛行ヲ讀ム

山縣東京へ帰ル

草賀脳神経衰弱ナリト終日寢テ居タ

▲▼166ページ▲▼ 大正5(1916)年6月3日(土)

天気 晴風アリ

午前中整理ヤラ發信ヤラヲナシ十一時七分發ニテ帰京 河村ニ行キ御母サント青山ニ例ノ家ニテスミスヲ見ル 五時頃帰ル 金杉橋ヨリ自分ハ加藤ニ行ク 談話数十分ノ後親子ヲ連レテ日比谷ノ松本楼ニ登リ夕食ヲ共ニシ八時頃鳥飼ニ寄ル 九州方面ヨリ有望ノ手紙來。今山縣矢野、利根両君ニ會ニ僕ニ面會シタキ由ナリシトノコト 明朝行クコトニ決ス

帰宅 河村氏ノ碁ノ合(ママ)手ヲ一寸ナシ十時半眠ル

▲▼167ページ▲▼ 大正5(1916)年6月2日(金)

天気 晴風ヤ、静

八時頃雜司ヶ谷ニ矢野氏ヲ訪フ 別ニ用モナカッタ 雑談ノ後十時半帰ル 晝食ビールヲ御馳走ニナル。食後山縣來 共ニ青山ニ行ク 電車内ニテ平塚君ニ會フ 共ニ行ク奈良原氏ノ近況ヲ聞クコトヲ得タリ 相変ラズ困難ナル由。一度尋ネ見シコトヲ決ス七八日展覽 十日飛行ノ由 山縣今夜九時四十分ニテ出發セシム。自分ハ河村宅ニテ夕食後七時五十分ニテ帰稻ス 廿五円旅費來ル 小額過ギタリ

▲▼168ページ▲▼ 大正5(1916)年6月5日(月)

天気 晴

浅間神社ニ参拝 準備ヲナシ、川島來 数刻雑談 十一時七分ニテ大口ト出發 川村氏ニ一寸ヨリスミスヲ見ニ行ク 例ノ二階ニテ二回共見ル 今日目ザマシイコトハヤラナカッタ 帰途玉井、友野両君ニ會フ ソレヨリ奈良原氏ヲ訪フ 久シ振リデ坐敷ニ通ル 丁重ニ挨拶サレタ 白戸ノコトモ相變ラズ心配シテ居ラレタ。自分設計ノ飛行機ヲ示サレタ 翼ノ塗り方ガカワツテ居タ 支那ノ飛行ノ話ガアッタ

六時過ギ出デテ加藤ニテプロペラヲ受取り鳥飼氏ニ行キ夕食ヲ馳走ニナル 自分ハ一寸川村ニ歸リ夜間飛行ヲ見ニ行ク 合ニク雲低ク僅カニ雲間ヨリ一回ループガヨク見エタノミデアッタ 実ニ奇麗ダ。スグ二人ヲヤトヒ大急ギデ上野ニ馳セツケ九時四十分ニ乗ル

◆▼169ページ◆▼ 大正5(1916)年6月6日(火)

天気 晴風アリ

二時小諸着 六時半岩村田着。朝食後一寸眠

十時濱氏長野ヨリ來。飛行ガアマリ大イノト展覽ガニヶ所ニナツテ居ルノトデ、之レヲ小ニセシム スナワチ訪問一ヶ所曰田着陸。午後濱氏曰田ニ場所ヲ見ニ行ク

各所ニ發信。後切抜整理

海野ヨリ自分ノ宿所ヲ稲毛ヘ聞キニ打電セルモノ廻送シ來リ 返事ヲ打電ス(津市松坂

屋ニ帯(マ)在)

明日濱氏ト曰田ノ場所見ニ行クコトニ決ス 何ンデモ小サスギテ濱氏ニハ極メラレナカッタトノコト

十時床ニ入リアンヲ取ル

ハツ、奈良原、河村、鳥飼、吉、宅 發信大坂、竹島

◆▼170ページ◆▼ 大正5(1916)年6月7日(水)

天気 晴風アリ

五時半起床 六時半ノ汽車ニテ曰田ノ河原ヲ見ニ行ク 山ノ影デ大石ルイ、トシテトテモ降リラレソーニモナカッタガヤツテ巾三十米 長サ七八十米位ノ比カクの石ノ少ナイ砂地ガアッタノデ絶対無風ノ場合ニハ着陸スルコトニシテ七時半ノ列車ニ乗リオクレ車ニテ帰途種馬所ノ飛行場ヲ見

十時二十分歸ル。濱氏ト今後ノ事ヲ議ス 濱氏松本ニ電話ヲナス 午後四時ニテ甲府ヘ出張シテ貰フ

午後機ノ組立ニ行キ夕方歸ル 夕方中山氏來 夕食ヲ共ニス

モービル注文ノ手紙ヲ鳥飼氏へ出ス

夜十時頃鳥飼氏ヨリ何處カ十八日飛行ノ契約成立ノ電アリタリ

◆▼171ページ◆▼ 大正5(1916)年6月8日(木)

天気 晴午後風出ズ

朝食後現場ノ設備ヲ社長ト共ニ取極メニ行ク 帰リテ展覽會場ニ行ク 景氣ヨシ 十一時ニテ小諸へガソリン買ヒニ行ク 赤貝アリ 明夕方迄ニ持参セシムルコトニシテ帰ル 三時半帰り展覽會場ニ寄り景氣ヲ見ル 學生二千 普通五百、招待券二百五十アリタリト

夜急ニ夜間開場ヲナスコトニ決シ十時迄行フ 約三百名アリタリト 大成功ト云フベシ 夜濱氏松本ヨリ電話アリ 一ヶ月千円問題ニ付答ヲウナガス。余ヤ、宜シキモ多少條件ヲツケラレタシトテヤ、極メル 後チ十時頃小林氏ヨリ電話アリ。明一番ニテ下伊那ニ行ク由。アンマヲ取ル 中山君來 自分ノコトヲ聞キタイトノコト

◆▼172ページ◆▼ 大正5(1916)年6月9日(金)

天気 晴午後風アリ

十時頃迄ハイツモヨサソーデアッタ

展覽會今日ヤ、不振デアッタガ、ソレデモ他所ニモ比較シテヨイ方デアッタ

朝中山君ニ言(マ)稿ヲ與へ一寸會場ニ行キ成田不動尊ガ有ルトノコトニソレニ参拝ス 午後三時頃ヨリ場ニ行キ終ルヤ、赤貝ヲ試験ス モービルBモ來ル。六時半頃ヨリ運搬ス

濱氏夕方帰り又上田へ行ク 百五十円受取りタル由

鳥飼氏ノ方ハ不在ニテ三百五十円ノ由

海野君ヨリ手紙ノ返事電報ニテ西ノ宮迄ト打電シテ來タガ手紙ガ來ナカッタ 夜アンマヲ取り十一時床ニ入ル

◆▼173ページ◆▼ 大正5(1916)年6月10日(土)

天気 晴午後風

四時半起床 仕度ヲシ皆ハ行ク 余ハ社ニ寄り、後社長ト共ニ種馬所所長ニ面會シ會場ニイク 組立ヲ手傳ヒ七時半出來上ル 九時半過ぎ第一回小諸ニ往復ス。少シ力ガ足リナカッタ 上リニクカッタ 小諸へ停車場上ヲ一週シテ帰ッタ。凹凸ガ多イダケ今迄飛ンダ中デ一番景色ハヨカッタ。種馬所上ハドーモ氣流ガヨクナカッタ 廿五分開 花

環ヲ貫フ 第二回ニハ引續キ主催ガ降りテクレルナトノコトニ、白田へ往復ス 少シ風出
デタレドモ僅カナリキ サレドモ操縦ハ頗ル困難デアッタ。白田デハ、ソレデモ降リル風ニ
見セテ二回低空ヲ廻ッタ 最後ノ一回ハアブカッタ 丁度稲毛デ初メテ廻サレタ時ト
同様デアッタ

帰場 メタルノ目錄ヲ貫ヒ後社員ヲ同乗滑走シテ終リ。主催者モ濱氏モ嬉(ママ)バレタ。
濱氏ト千円問題ヲ口約ス タ方上田ニ立ツ 明日タ小諸ニテ面會ヲ約ス
發信関、宅、兄、ツル、大野、岩崎、松谷、五二郎、藤井

▲▼174ページ▲▼ 大正5(1916)年6月11日(日)

天氣 曇後雨

午前各方面ノ禮廻リヲナシ宿ノ支拂ヲナシ車ニテ白田ニ行ク 展覽會振ワズ
夕方六時四十分ニテ帰途ニツク 岩村田ヨリ濱氏ト同行小諸ニ下車 濱氏八時五分ニ
テ松本へ行ク 埼玉終リ次第飯田ナルコトニス 飯田小林氏ヨリ廿日荷物着ノ様申し來
リタルモ不可能ニツキ濱氏ニ其ムネ述べテ。電報モ打ツ

夕食ニビールヲ一本取ツタガ中バ残ッタ ホントーニノメナクナッテ來タ

昨日九州都城ニテ中沢氏野島氏ノ機ニ墜落 二人即死 一名重傷 氏自身モ足ヲ折
ツタトノコト

▲▼175ページ▲▼ 大正5(1916)年6月12日(月)

一時四十分小諸發シテ七時上野着 河村ニテ入浴 朝食後鳥飼ニ行ク 九州カラ最
(ママ)非今月中ニ來テ呉レトノコトナリトテ明日出發ノ予定ダガ金ガヤスイノデ君ニ相
談シテカラニシタイノデ待ツテ居タトノコト 久留米外ニケ所 一日ヅ、連絡飛行デハ
百円ノ由 ソレハトニカクトシテ飯田ガアルカラ今月中ハダメ 來月デヨケレバトノコトニ
シテ埼玉終ツテカラ鳥飼氏ニ九州へ出張シテ貰フコトニス

加藤ニ行キ廿円支拂ヒ一円茶菓子料トシテ於ク

白戸ニ行ク 白戸昨日無事飛行セリト

鳥飼氏ト松本樓ニテ晝食後三時半ニテ帰稻。中沢、中山、神津、濱、小山黒天風、關
伽流山、へ發信

夜田中幾太郎ヨリ今月中何時ニテモ契約出來ルカトノ電アリ 六七月中契約済ミト
返ヲナス。イ、氣味デアッタ

▲▼176ページ▲▼ 大正5(1916)年6月13日(火)

天氣 晴

宗里君三十円支拂フ。午後成田山ニ参拝。

濱氏

關伽流山三三円同封シテ送ル

夜大口帰ル 新聞各方面へ送ル

▲▼177ページ▲▼ 大正5(1916)年6月14日(水)

天気 雨

朝朝日ノ安部君ヨリ至急ノ用事ガアルトノコトニ九時二十二分ニテ帰京ス。河村サンニテ聞ケバ小山君モ一所トノコトニ用事ハワカッタ 今モ二十分程前ニ來タトノコト。鳥飼氏ニ行キ帰宅 丁度小山君來 氏ノ宿ナルトナリノ吉川ニ行キ安部君モ來 伊勢山田ニテ飛行ノ事決ス スベテ自分持 五百円 外一ヶ所毎ニ四百円ツゞ。夜山田へ電話ノ後チ調印スルコトニス 鳥飼氏ニ行キ右ヲ話シ白戸ニ行キ夕方帰ル 雨シキリナリ 大口九時四十分ニテ出發 十一時半頃吉川ニ行キ調印ニ終ル 十二時半就床 お吉二十円渡ス

▲▼178ページ▲▼ 大正5(1916)年6月15日(木)

天気 雨、曇風強シ

五時五分前起床 氣ノ毒ニモ朝食ガ出來テ居タノデイタゞク 六時發ニテ八時十五分本庄着

予備飛行ヲヤツテ呉レトノコト 鳥飼氏ニ一パイクワサレノ觀。兎二角主催者ニ會ツテ早ク機体ヲ持ツテ來ルノハ發動機ヲシラベタイ爲メデソレガ爲メニハ展覽會ヲ一ヶ所犠牲ニシテ來タノダト偶然ニモロニ出タノデ予備飛行ハ中止ニナッタ 午後ハ風ガ強クナッタ 丁度天祐デアッタ プレーンヲ組初メタ 右ノプレーンノ通りヲ見ルトドーモ変ナノデサワツテ見ルト動ク ヨクヨク見ルト後ロノメインスパーガ三ツニ折レテ居ル 長野デヤッタトハスグワカッタガ之レデ岩村田デ變デ右ノエレロンノキカナカッタワケモワカッタア、アブナカッタコト 天ト神佛ニ感謝ス 七時歸リ入浴 夕食 アンマ 就床

▲▼179ページ▲▼ 大正5(1916)年6月16日(金)

天気 曇風強シ

終日吹キ通シテ居タ 各方面ニ手紙ヲ出シ河村サンエ豊川様ノ寄進ヲ依頼ス 金十円 夕方鳥飼氏ヨリ電話アリ スミス墜落負傷セリト ア、スミスデモ運命ニハ勝テナイソレニシテモ自分ガ岩村田デ何ントモナカッタニワ神ニ謝サネバナラヌ

今日ハ右命拾ヒノ祝トシテ夕食ヲ三人デ某旗亭ニテ洋食ヲ喰フ 九時帰宿
發信 森林測候所、濱、河村、お吉、宅、白戸ハツ、鶴代

▲▼180ページ▲▼ 大正5(1916)年6月17日(土)

天気 晴風アリ

朝早ク鳥飼氏來 四十円置イテ行ツタ 後百二十円ハ十九日山縣ニ取リニヤルコトニナ
ツテ居ル由 十一時二十分デ帰京 今夜九州へ出發ノ由
夕方飛行場ヲ見ニ行ク。場所ハヨカッタ 風が大分アツタガ此風デ飛ベルカドーカト自
問自答 シバラク研究シタ。出來ナイ事ハナカロート思ツタ 今日ヨリハヤ、静デアツタ
夜劇場ニ行キ、十時半皆ト一所ニ帰ル
ソバヲ取り後眠ル
河村氏へ呂ノ羽織ヲ注文スル

▲▼181ページ▲▼ 大正5(1916)年6月18日(日)

天気 雨

終日梅雨ラシイ雨ガ降タリ止ンダリシテ居タ
グレゴア宙返リ用小型飛行機ノ設計ヲナス。五十五哩走ル予定
今日ハ幾度モガソリンヲ聞合セタガツヒニ來ナカッタ。アス朝迄ニ來ナケレバタレカニ買ヒ
ニヤラナケレバナラナイ
飯田ノ日取り聞合セル 廿五六展覽 廿八日飛行
今日ハ豊川様ノ御供物ト御守ヲ初メトシ鳥飼氏ヨリ靴、吉ヨリ切抜帳ガ來タ小包デ
ーデアツタ

▲▼182ページ▲▼ 大正5(1916)年6月19日(月)

天気 晴風静

日本晴レ シカモ風終日静 アマリ天氣ガヨスギル様ナ氣ガシタ
今日ハ各方面カラ手紙ガ來タガ皆スミスノコトデ注意タタト來ルノデ少々氣味悪クナ
ツタ。吉、鶴代、みね姉、草賀、白戸ハツ等來信 草賀入院シナケレバナラナイトノコト
スグ入院スル様申ヤル
夜福田氏來 雑談ノ内ニ鳥飼氏ニ五百円出シタコトヲシヤベタ

▲▼183ページ▲▼ 大正5(1916)年6月20日(火)

天氣 晴後雨 風靜

心配シタ風モ大シタコトナク朝ハ日本晴レデアッタガ後曇ッタ。八時二十分第一回ノ飛行ハ發動機力足ラズ困難デアッタガ町ノ上ヲ一週シテ帰ッタ。十一分後モービル油ノ出ヲ少ナクシテ大変力ガ出タ。十一時過ギ場上ヲ數回旋回飛行ト手バナシヲナシ着陸。間モナク雨ガ降り出シタノデ午後ハ中止。スグ分解。夕方貨車ニ積込ンダ。

午後カラ夜ニカケ各方面ニ禮廻リヲナス。体北記者團ガ馬鹿ニコボシテ居タノデビール一打贈ル。眞綿ヲ返シニ持ッテ來タ。夜福田氏ト色々話ノ末契約書モ見セタ。自分モ手帳ヲ見セタ。氏モ大分立腹シテ居タガ柴田氏ニ其事ヲ話シスルコトハト一分見合セテ呉レト頼ンデ居ク。

夜大口帰稻ス

▲▼184ページ▲▼ 大正5(1916)年6月21日(水)

天氣 雨

曇タリ降タリ梅雨日和デアッタ。早朝昨夜貰ッタ眞綿ヲ稻毛ヘ送ル。白戸ハツ、小山、一二軒ハガキヲ書ク。

八時五十二分發ニテ出發。一時半篠井着。飛行機ハ輕井沢ニテ追ヌク。

シノノ井ニテ晝食。四時四十分發。同駅ニテ稻荷山小學校長ニ會フ。七時二十分松本着。自分ハ前ニテ下車。山縣辰野ヘヤル。南小林ニ行キ亀勇ヲ呼ブ。スグ來タ。名ヲシラセナカッタノデ、お坐敷ノツモリデバチナド持ッテ來タ。顔ヲ見テ驚イテ居タ。ソカラ白鳥、亀松ヲ呼ビ馳走ヲナス。亀松ヨリ亀勇ヲドートカコートカ色々ナコトヲ云ッテ居タ。自分ノ意ノアル處ヲヨク云ヒキカセタツモリ。

十時過ギヨリ浅間ニ行ク。亀勇來ル筈ノ處來テハヤクナッタトカ電話ヲカケテ來タ。少々クタブレガ出テ居タノデスグ眠ッテシマッタ。明早朝來ル由。

▲▼185ページ▲▼ 大正5(1916)年6月22日(木)

六時頃昨夜アレカラお坐敷ガアッテ二時頃ニ寢タモノダカラ寢ギテスミセンナドト云ヒ訳ヲシナガラヤッテ來タ。ソシテカヤノ外デマゴ、ニシテ居タノデ自分モ起キ七時過ギ朝食後眠クナッタノデ又一寢入ヤル。十一時頃白鳥ヘ電話ヲカケル。ガソリン有ッタ由。飛行機モ來タトノコト。七時二十分デ出發スルコトニ決ス。モー一夜泊ッテ行ッテ呉レトウルサカッタガ、自分ノソシナコトヲシテ居ラレル身分デナイコトヲヨク云ヒキカセタラ、ナットクシタ。ソシテ別ニ小遣モヤラズニ帰ッタ。ステーシヨンヘ送ッテ來タ。亀松姉サンカラトテ水菓子ヲ呉レタ。汽車ガ出初メルト亀松君モ來テ呉レタ。何ンデモ鶴代ヲ非常ニカバッテ呉レトノコト。今日モ色シナ話ヲシタガ要スルニ僕ハ女ガ誠心誠意デアルナラ、勿論男子トシテ免(マ)倒ハ見様ト云ッテ居イタ。鶴代ニハお吉ノ子供ノ出來テ居ルコ

トモ話シタ 何故ガ亀松姉サンニハ小供ノコトダケハ内所ニシテ呉レト云ツテ居タ
八時四十四分辰野着 スグアンマヲ取り眠ル

▲▼186ページ▲▼ 大正5(1916)年6月23日(金)

天気 曇晴雨

朝ガソリンデマゴツヒタガ上諏訪ニ一罐ダケアッタノデソレヲ取りニヤリ明日大口持参
スル様ミノワヤヘ頼ミ十時ノ電車ニテ赤穂ニ行キ晝食 山縣ト共ニ一時半自動車ニテ四
時無事飯田柳糸館着 皆ヨクオボエテ居タ 僕ノ來タコトヲ嬉(ママ)ンデクレタ。自動
車ノ運轉手モ知テ居タ。濱氏來 イヨ、メタルヲ貰ツタ 予期シタヨリヨカッタ。スグ帰
ル 宿ヲ巴館ニ取ツテアッタトカデ氣ノ毒ヲシタ。夜村山氏ト囲碁 後チ電話ニヨリ、常
盤館ヘ行キ夕食ヲ濱小林両氏ト共ニシ帰宿 十時眠ル

▲▼187ページ▲▼ 大正5(1916)年6月24日(土)

天気 晴曇

五時起床 日記、手紙、ヲカク。山縣松下ヘ禮ニヤル。晝頃濱氏來 三百円ト決定ス
同氏モ多少モ一カルトノコト嬉(ママ)ンデ居タ 明日飛行場ヲ見ニ行クコトニ決ス
午後南信ノ記者來ル

機運搬三時頃行キテ組立ヲナス 大口來ル 機体ガ大分イタンダ

夕方帰宅 白戸田中幾カラ手紙ガ來テ居タ

松谷吉、小山、都木、河村、吉、鶴代、亀松、宅、山縣、関根、佐島英、藤井、竹島、
白戸ハツ、都筑

▲▼188ページ▲▼ 大正5(1916)年6月25日(日)

天気 曇後雨

約東ニヨリ五時起床 朝食後六時車ニテ常盤館ニ行ク 濱氏ト共ニ第二會場ヲ先ヅ見
ニ行ク 飯田カラ約クニ里余。少憩後河原ヲ見ル 余リヨイ處ハナカッタ 村長來ル
ヤ、ヨサソ一ナ處ヲ撰ビ石ヲ拾ワセルコトニス 九時頃其コヲ出デ松尾ノ飛行場ヲ見ル
以前ト大分カワツテ悪クナツテ居タ。道々山ノ具合ヲ見ナガラ行ク 第一第二會場ハ
直線約一里半

松尾村ニテ晝食 雨ガ大分降ツテ來タ

天竜峽ヘ行ク車ノ中デ眠クテタマラス 濱氏モ同様 スグ一時間バカリ横ニナツタガ眠レ
ハシナカッタ 後チ名物小林焼ヲ求メ景ヲ見ニ行キ写真ヲ二枚バカリ取ル 雨益々ハゲ
シ

五時出發 七時帰宿 オシリガイタカッタ。夜吉沢が來テ教育會ノ原稿ト佐渡ノ話ガ
アッタ ヨイカゲンニ話シテ居ク
アンマヲ取り眠ル

十一時村山氏ニエンジンヲ僕ニシキリニ調テイッテ呉レト頼ンデ居タ

▲▼189ページ▲▼ 大正5(1916)年6月26日(月)

天気 雨

終日雨 天竜川出水シ飛行場ナシ 夜松下來リテノ話ニヨレバ三四日シナケレバ減水セ
ズト

展覽會入場少数

大坂ヨリ父、兄、きん夫妻、みね夫妻山田へ來ル由

阿部君ヨリ山田契約金五分請求アリ三十円送ルムネ返事ヲナス

村山氏ト囲碁 七石勝越ス 夜十二時迄又皆ト花ヲ引ク 村山氏一人勝ツ
五十円受取ル

▲▼190ページ▲▼ 大正5(1916)年6月27日(火)

天気 雨

朝晴レカヽッタガ又曇リ後チ雨 機械松下へ預ケル

十五円草賀入院料深川ノ杉浦へ送金ス 国元へモ手紙ヲ出ス

お吉ヨリ草賀入院ノ事ヲシラセテ來タ ソレニヨルト三日バカリ東京デ遊ンデ千葉へ行
キ帰リニ急ニ惡クナッテ入院シタトノコト。今日迄二九円五十錢渡シタル由 お吉迄小
使ヲ送レト云ッテ來タ

夜五十円受取ル

松本カラ十二時頃電話ヲカケテ呉レ電話ガ留都(マ)中ニアッタトノコトニカケル。村
山ガ聞イテ居タ

明日飛行ムツカシカラント思ヒ山田へ二三日延ルムネ打電ス
川モ中ノ島ダケガ出テ居タ

▲▼191ページ▲▼ 大正5(1916)年6月28日(水)

天気 雨

お吉二十円送ル 草賀ニ金ヲヤラナクテモヨイコトヲ云ッテヤル

本日ツヒニ中止 アスモダメダトノコトデ式三日延期 其内天候次第飛行ノコトニ話シ
出來ル處ガタ方ヨリ空晴レ明日ハ快晴ノ由報セアリ

夜事務所ニ行キ打合せヲナス 一日ヨリ早クハ出来ヌトノコトナリシモ三十日ハ濱氏ニマカセテアトハ天候次第ヤルト云フコトニ決ス

◆▼192ページ◆▼ 大正5(1916)年6月29日(木)

天気 曇リ

先ヅ飛行日和デアッタ。オシイ日デアッタ

小山カラ僕ニ來テ呉レトノ電打テトノコトニ打電ス。後チ小山氏ノ手紙來

二人ハ機ヲ組立ニ行ッタ 午後タイクツナノデ濱小林両氏ヲヨンデ碁ヲ打ツ

夜アンマ 十一時眠ル 明後日飛行ト決定

◆▼193ページ◆▼ 大正5(1916)年6月30日(金)

天気 晴午後風アリ

午前中ステキナ飛行日和 オシイ日ナノニツヒニ明日トナッテ居タ 午後ヨリ曇ッテ風ヤ、強シ 明日ノ天候不良ナルベシ

杉浦ヨリ何等ノ關係ナキコトヲ告ゲ金子返送シ來ル。ヨリテ國元へ彼レノ引取り方ヲ請求シ合セテ各方面へ關係ヲタチタルコトヲ通知ス

十時頃ヨリ第二會場ヲ見ニ行ク。二時帰ル。後チ晝食散髪 夕方三雲様へ地形ヲ見ニ行ク ドー見テモ飯田ヲ正面ニ登ルコトハ奇驗(マ)デアル 横ギル外ナイガ機ノ昇騰ガ思フ様ニ行ツテクレバヨイガソレノミニ心配デアル 無論無風ナレバ大抵大丈夫ナランモ風ガアレバコハ必ズ下降氣流聞カルベキナレバナリ

◆▼196ページ◆▼ 大正5(1916)年7月1日(土)

天気 雨

終日雨 本ヲ讀ミ花ヲ引キ終日ヲ終ル

草賀ヨリ辨解ノ手紙來ル。ホッテオク

父伊勢へ出發セリト

◆▼197ページ◆▼ 大正5(1916)年7月2日(日)

天気 雨晴風

二時過ギヨリ度々空模様ヲ見ル 四時頃非常ニ悪クナッテ來タガ二人ヲ兎ニ角場ニヤル 其内雨が降り出シタ シバラクスルト止ンダガ今度ハ風ガ吹き出シタ 測候所ノ觀測デ十米トノコトニ中止ト決ス

常盤館ニテ雑談後今朝君子ヲ写シタノヲ写真屋へ現像ニ行ク　夕方出来上ル

小山來ル由名古屋ヨリ打電アリタリ

小林晝前ヨリ來　夕方迫居ル。大口ニ松本以來ノ報酬ヲ聞イタトノコト

其間濱氏が金ヲアイマイニシタコトヲオコッテ居タ　ソレハトニカク此處ノ分モスグニ小林ノ手元カラハ僕ノ方へ二百十円出シタコトニナッテ居ル由　僕ノ方ハマダ百円シカ取ッテ居ナイ　之レモ、フンガイシテ居タ

夕方風ナギ明朝ヨリハヨサソーナリ

▲▼198ページ▲▼　大正5(1916)年7月3日(月)

天気　晴風ナシ

三時半二人ヲ起シ場ニヤリ四時半自分出發　場ヲ見機ヲ場内ニ運ブノニ手間取ル　出来上ガッタノノガ八時半　スグ第一回ヲヤル　風取レテナシ。發動機ヤ、弱キモ本庄ノ二回目位ノ回轉数アリストースノロキコト甚ダシ　ヤットノコトニ一上ゲセシモ僅カ飛揚セルノミ　トモスレバシヅマントセリ。カローシデ土堤ヲ飛ビ越エダマシナガラ上ゲ一週ノ時ヤット百米近ク迫ナル　約二分丁度元ノ滑走場上ニ來リタル頃異音　不調ニナル　音が一本ノシリンダーガ全々ダメラシクドーモ此上アマリ廻シタラドコカヨケイコワレソーニ思ワレタト同時ニ旋回シナガラ場内ニ入り得ルヤ否ヤト浮ンダト、セツナ二百米突バカリ前ニ安全ラシキ、クワ畑アリ　手ハ自然ニ發動機ヲ止メ急角度ニボールプランヲ初メ陸ニ近ヅキ水平ニシ機キワメテカルキシヨク、ト共ニ水平ニ畑ノ中ニ降リタガ途中、溝ヲ一ツ飛ビ越ス爲メ一寸ノバシタノデ先キガナクスル、ト田ノ中ニノメリ込ンダガ約二尺バカリ差ガアッタニカ、ワラズ足部ノワイヤー一本切レタルノミ　ドコモ壊レテ居ナカッタ　發動機カラハ水ガ盛ンニ流れ出シテ居タ　シラベテ見ルト以前ヤツタバルプロットブラケットノボールトガ根コソギ飛ンデシマッテ居タ　余ハ機ノコワレナカッタコトヲ天祐トシテ感謝シタ

三百九十四頁へ

(394ページへ続く)

▲▼199ページ▲▼　大正5(1916)年7月4日(火)

天気　晴風静後吹ク

五時起床　手紙　日記　新聞後小山氏ト九時河原ニ行ク　二番ノサクシヨシロット動カズシラベルト中央ノベヤリンクガ横ニズツテ來テツカエテ居タ　ヨク見ルト今迄横ニ不用ナ穴ガ一ツアイテ居タノガソレヲ止メテ居タ押捻ノ穴デアッタコトガワカッテスグ直シタソレデ二三時間手間ガ取レタ　四時頃出来上リ試運轉　昨日ヨリハヨカッタヨーダガモ

ー少シ廻ッテホシイ。モービルガコンプレッショノヨリエンジンハノ方ガヨイトノ説ガアルトノコトガ山縣ガ云ッテ居タノデ夜自動車会社ニ電話ヲカケアラーガロン割ケテ貰フ明日小學校講堂ニテ一時ヨリ講話会アル筈 自分ニモヤッテ貰ヒタイトノコトデアルガ何等腹案ガナイノデ小山氏ニ一任スルツモリアル
發信 草賀、吉、大坂、伊勢、鳥飼、河村、其他新聞送ル

◆200ページ◆ 大正5(1916)年7月5日(水)

天氣 晴後風

五時前目ヲサマシ空ヲ見ルニドーモアヤシイ天氣デアッタガ兎ニ角起キ六時過ギ出發場ニ行キ七時頃ヤルコトニ決シテ事務所へ電話ヲカケル 其内ニオイロハニ取替へ試運轉。決(マ)果良好 スグ出發準備ヲナス 小林來ラザルモ風雨來ルベシトノコトニ八時十分走リ上ツタガ中々上リニクカッタ 場ノ端追行ツタガ上ガルトスト下ガルノデドーシヨカト思ツタ 仕方ガナイカラ上ゲテ見タ 漸ク隔(マ)陸シテカラハ下ガラズニ飛ンダ 一回廻ッテ松川向追行キ帰ル頃三分間デ松尾ノ松林ガ低ク見エタノデモーヨカロート思ッテ上ゲナガラ松林上ヲ飛ビ越エ松川ヲ越エ中學校ヲ右下ニ見テ町ノ中央ヲ旋回シテ帰ツタ

小林モ來テ居タ 第二回ヲ引續キヤル筈ノ處神稻ノ準備ガ出來ナイカラ待ッテ呉レト云フ 其内花火ノ音が聞エタ。ドーモ雨カ風ガ來ソーダトノコトニ二十分程シテ走り出シタ 前トハ返(マ)對ノ方向ニ風ニ向ッテシカシ上リニクイノハ前ヨリモ甚ダシカッタ 松川向フ追行テモヤット五十米位シカ上ガッテ居ナイノデ其川原ノ上デ一廻リシテ向ヒ風デ上ゲテ見タ ヤット百米位デ神稻ニ向ツタ

395頁へ

(395ページへ続く)

◆201ページ◆ 大正5(1916)年7月6日(木)

天氣 曇風

六時皆出發サセタ後チ手紙ヤ新聞送附ヲナス
濱氏ニ今日中ニ全部金ヲツクリ呉レル様打電ス 後チ送ルト云ッテ來タガ午後二ナッテ小林ニ電話ヲカケテ來テ實費ダケニシテアトハ伊勢へ送ルトノコト。實費ト云ッテモ百三十円トドーシテモ入用ダト自分カラ田谷へ電話ヲカケタ 吉沢君ガ出タ 後チ又アス行クト云フ電報ガ來タ 夜小林伊藤松下三人會ス 松下ガ運賃ノ内カラ、送別會ヲ三階デヤツタ 松下ガ盛ニ僕ノ爲メニヤツテクレルノデ小林ヤ伊藤ニ氣ノ毒ナヨードアッタアスモ解決ノツク迄ハコチラニ居ルナドト云ッテ居タ コレデ昨日カラ宅ヘカヘラナイ

ノダソーダ 御妻君ニ氣ノ毒ニナツタ。
十一時ヤット帰ッタノデスグ眠ル

◆◆202ページ◆◆ 大正5(1916)年7月7日(金)

天気 曇リ

日記 手紙 散髪 晝食後各方面ニ禮廻リヲナス 帰宿 常盤館ヨリ電話アリ 小林
昨夜ヨリ帰ラズト 伊藤君ヲ呼び信チヤンヤキミチヤント花ヲ引ク處へ松下君來 昨夜
ヨリ小林ト遊廓デ遊ンデ來タト 大分マダヨツテ居タ 三十円バカリ宅カラ取ヨセ小林
ニ一文モハラワセナカッタトテ又五円ホーリ出シテビールヲノミ始メタ 僕ノ爲メ之レ
追ニシテ呉レルノガ實ニ何ントモ僕ノロデハ感謝ノ表シ様ガナカッタ。伊藤モ大分イジメ
ラレテ帰ヘツタ。四時ノ自動車ガ表ヲ通ツタノデ電話ヲカケルト濱氏來ラズトノコト
松下君ガ行カフト云ウノデ行ク 小林モグルダト想ヒ出シテ小林君ニ氣ノ毒ナ様デア
ッタ 小林君モダマツテ居ラレナクナツテツヒニ財布ヲホーリ出シタ 松下君ノ話デ六七
十円アツタト云フノガ廿九円シカナカッタ。僕ハドーシヨカト思デ帰スト松下ガ廿五円
ダケ取ツテ居ケト云フノデ受取ヲ書イテ僕ハ帰ヘタ シバラクスルト松下君モ夕食後帰
ツテ來タ 伊藤ノ處へ拂スマシテアス帰レトノ浜カラ打電アリタル由 僕ノ處へ後チテラ
シタ行カスト伊那カラ電來タ 松下モモアキラメロトテツヒニ帰ヘツタマ、彼レノ義侠
僕ニ禮ニ來テハイケナイト怒ルヨ―ニシテ帰ツタ 感謝々々

◆◆203ページ◆◆ 大正5(1916)年7月8日(土)

天気 晴レ風吹ク

床ノ中カラ見ルト空ハ晴レテアカツキノキレイナ色ドリヲ見セナガラ雨ガ降ツテ居タ
昨夜ハ大雨デアマリ寝ラレナカッタ 五時前起床
濱、鶴代、大口ヨリ手紙來 大口ハ箕輪屋へ金アツケアル預リ書 鶴代ハ會イタイトノコ
ト 濱ニ到ツテハ言語道斷 スグ常盤館ニ行キ小林伊藤ノ前ニ其非ヲナラシ、彼レニシテ
若シ老人ト病人ガナケレバ僕ハコクソスベシト追云ツテヤツテ決(マ)局アマリ馬鹿々々
シイノデ飯田飛行會報酬ハ百四十五円受取り済ミヲ以テ、アトハ彼レニホドコシテヤル
ガ其變リ長野ニテ立替ヘタル金貳百円ヲスグ送金スル様ト伊藤ニクレ、云ヒ居イテ帰
ル。九十九円小山ヨリ午後來ル。相宿ノ拂ヲ見ルト八十三円余アツタニ驚イタ 總計
算三百〇九円〇九錢費用ヲ使ツテ居タ。小林ニ対シテモ濱ハ何事力長々シイ手紙デア
ッタガ自分ハ見ナカッタ 小林モ怒ツテ居タ
夜夕食ヲ小林ト共ニス シキリニ僕ニアヤマツテ居タ ソシテ小林ノ立場ヲアキラカニスル
爲メニ二百円ノ取立方ヲ小林ニマカセテ呉レトシキリニ乞フテ居タ。
君子來 アル約束ヲナス

▲▼204ページ▲▼ 大正5(1916)年7月9日(日)

天気 雨後晴レ

五時起床 雨が降ッテ居タ 仕度ヲシテ五時半会社ニ行ク 信チヤント公チヤンガ送ッテ呉レタ 小林伊藤モ來タ 小林八十時ノ自動車デ帰ル由。自動車ガ途中フアンノネジガユルンデ三十分バカリト電車ノ停電トデ十一時半辰野着 金六十円受取り晝食後松本二三時着 飯田屋ニ入り鶴代ニ電話ヲカケ阿部君三十三円送ルベク郵便局ニ行ク 日曜ニデダメ。トラシクヲ買フベクサガシタガナシ 鶴代來ル 別ニ大シタ話モナイラシイノデ少シオコッテヤッタガ彼女モ大分苦心シテ居ルラシカッタノデ今日ハ夕食ヲ菊野へ喰ヒニ行ッタ ソシテ坂松屋ノモノヲ皆呼びお母サン三三円土産料トシテモタシテヤッタ 白鳥モヨビ後チ八時十五分デ小林ガ帰ッタノデ之レモ呼ンダ 十時頃宿ニ帰リ一寢入リシタ 忒時頃カラ起キテ仕度ヲナシ三時半ノ氣車ニナル 彼レハソレカラ帰ッタ

▲▼205ページ▲▼ 大正5(1916)年7月10日(月)

天気 曇リ

ムシ暑イ日デアッタ。山田迄殆ンド寢通シタガヤット心持ダケハセイ、シタガ身体中ガイタカッタ

高千穂館ニ着ク 姉ハ今朝待チクタブレテツヒニ帰坂シタトノコト 電報デ延次郎キトクトノコトデアッタ。早速見舞ト到着ノ手紙ヲ出ス 小山ガ僕ノ來ナイ間ハ何事モシナイト大分不平デアッタ スグ小山ヲ呼ブ マダ新聞ニ飛行機ノツイタコトモ發表シテナイトノコト。兎ニ角十二日開催ノコトヲ強要シタ 決極(マ)僕ニ松坂迄一所ニ行ツテ呉レトノコトニ夕食後共ニ行ク 西田君ニ初メテ會フト共ニ車中ニテカタル 昔ノ城跡ノ料理店ニ行ッタト御膳ガナランデ居テナランデ居ルノハスベテ新聞記者ノミ 初メノ話ハ縣會議員ヤ輕鉄ノ社長ニ引合セタ上日取決定ヲスルツモリデアッタノガ西田ノ口上デハ松坂飛行會ニツキ何分後援ヲタノムトノ口上 実ニ驚イタ 小山モ僕ニ何ニモ話シテアリマセンカラトテツヒニ別室デ色々話ノ末ドー早クシテモ十三日より出來ヌコトトナッタノデ鳥飼氏ニ九州延期スルコトニシテ貰ベク決ス 終列車ニテ帰ル 十一時半床ニツク

▲▼206ページ▲▼ 大正5(1916)年7月11日(火)

天気 曇リ

七時頃迄ヨク寢タガマダ寢足りナイ氣ガシタ

鳥飼氏ニ九州ノ方へ電報デ延期ノコトヲヤツテ貰フ

手紙ヲ書イタリ稲毛へ三十円送ツタ

山田市外ノ飛行場ヲ見ニ行ツタガダメ

午後晝食後帝国坐ニ預ケテアルト云フホールスカットヲ見タ コンプレッシヨンガアツテ、ミッスガシナイト云フノダカラカノナイ訳ガナイ。後チ二時五十分ニテ松坂ノ飛行場ヲ見ニ行ク。駅ヨリ車ニテ約一里余 大口港口ヨリ舟ニテ、州ニ行ク 草深クシテ場所セマク到底ダメ 一廻リシテヤットヤ、広い處直線百五十歩ノ場所アリ 之レヲ草ヲ刈リ取ラセルコトニシテ帰ル

松坂駅前油屋ニテ休息 軽鉄営業課長來ル 話ノ模様ヲ聞キ居ルト小山ノ話テ居タ様ニ輕便ノ主催 處ガ會場設備ダケモ御免蒙リタイトノコト ドーモ、アマリヨクナサソーダ 尚西田社長ト山田ニテ今朝面會 日時ノナイタメ無料公開ニシタカラ收入ガトモナワナイノデ足りナカッタ場合ニハ多少寄附シテ呉レトノコトニマケテ呉レト云フノトハ違フカラ承知シテ居イタ

◆▼207ページ◆▼ 大正5(1916)年7月12日(水)

天気 曇リ

日記ヲツケアンマヲ取ル。雨アリ 午後運搬 自分ハ車ニテ両宮参拝後場ニ行キ組立ヲ手傳フ 六時頃出來上ル 試運轉發動機頗ル宜シ 七時帰宅。八時兄來ル 夜アンマ二百五十円受取ル 松坂分二百円受取り後チ二百円ト云フコトニス

◆▼208ページ◆▼ 大正5(1916)年7月13日(木)

天気 曇リ驟雨

起キタ頃ハヨカッタガ大降りニナツタ 到底ダメトアキラメテ方々へ延期ニナツタ手紙ナド書イタ。其中雨モ上リ晴レテ來タノデ急ニヤルコトニナツタ 晝食後場ニ行ク 又々驟雨來リ一時ハヒドカッタガシバラクデアガッタ 予定ノ二時過ぎカラ準備ヲナシ二時三十五分出發シタ 馬鹿ニ引張ツタノデー一寸今迄ト手ノ様子ガ違ツタ グン、上ルノモ氣持ヨカッタ 徴古館手前カラ引歸シタ。時間十五分

小山一時ノ汽車デ松坂へ行カナカッタノデ出發ヲオクラセタ 三時半出發準備ヲシタガ發動機ガカ、ラナイノデماغネトヲ一寸オクラセタ 之レデ時間ガ手間取レテ四時二十分發 二週後松坂ニ向フ 思ツタヨリ近ク感ジタ 停車場附近ニハ大口ニ向ヒ数週後着陸 水ガアツタノニハ一寸驚イタ マダ小山モ鳥飼モ來テ居ナカッタガ十分程シタラ來タ

今日ノ飛行デ手ヲハナシテ前ノ下ルノハ下ルノデナク機ガ水平ニナルコトヲタシカメタ イツモハサシ上ゲヲ引キ過ギテ居ルコトガワカッタ

櫛田川辺ハヨクナカッタ スベテ川ノ上ハ高イ程ヨクナサソ一ダ

▲▼209ページ▲▼ 大正5(1916)年7月14日(金)

天気 晴レ

朝一寸変デアッタガ後チカラドン、晴レタ 八時半場ニ行ク 九時頃西田來 二百円受取ル 十時半頃大分風が出テ來タノデ一週ヤル 時間五分 着陸後益々風ハアリ十二時頃ハカナリアッタ 一時二時頃一寸シヅカデアッタ 飛行シヨ一ト思フト入場者ノ都合デモ一吋待ツテ呉レトノコトデツヒニ三時飛行 風ハ今迄飛ンダ中デノレコードデアッタ 上ガルワ、、、スミスノ飛行機ノ様ニタチマチノ中ニ高クナッタ 風ヲサグリナガラドーモ右ノ方ガ宜サソーナノデ注意シナガラ右ニ廻リアトハ左廻リヲ二三廻ヤツテ降リタガ草ノ深イタテ右ノエンジンガ引カ、ツテ又コワレタ外無事

鳥飼三時ニテ九州ニ行ク 六時頃油屋ニ歸リ支拂ヲスマセ六時六分ニテ山田ニ歸ル 車中モ一、二百円最(ママ)非モラヘル様小山ニタノム。五十円小山貸シト呉レトノコト 百円取レタヲト云フコトニシタ

大口山縣油屋ニ泊シ明一番出發ノコト スベテ手當ヲ與ヘル

今日ノ強風中ノ飛行ニヨツテ風ノ静ナヨリアッタ方ガ航空ハ反ツテ樂ナコトヲタシカメタソレハ熱源其地ニヨル氣流ガ風ノ爲メ一定ノ方向ニ流レルノデ複雑ナ氣流ガナクナルカラデアッタ。ソレハ飛行前ニ自信シタコトデアッタ

▲▼210ページ▲▼ 大正5(1916)年7月15日(土)

色々話ノ結果二百円ハヤッテシマウ

其變リホールスカットヲ契約ス 夜十二時ニ及ブ 西田、阿部立會人トナル 其爲メ四時ニノレナカッタ

▲▼211ページ▲▼ 大正5(1916)年7月16日(日)

天気 晴レ

十一時過ギ天王寺着 車ニテ歸ル。入浴ニ行ク 姉其中ニ歸ル 白戸ニ電話ヲカケ來テ貰フ。竹島ニ行キ後スツポンヲ買フベク網彦へ喜代市兄ト白戸ト夕食方々行ク 無シ。帰途白戸ノ宿ニ立寄ル 高松へ出發スル筈ノ處後藤歸ラズ明朝ニスル由 九時車ニテ歸ル途トランクヲ買ヒ十時帰宅 後佐々木サンニ行ク大ニ嬉(ママ)バレテ歸ル

▲▼212ページ▲▼ 大正5(1916)年7月17日(月)

天氣 晴

七時起床 日記其他 公惠ヨリ手紙來 お吉ヨリモ來ル
九時頃ヨリ松谷吉ト松谷清ニ行ク 西ノ内ニテ晝食ヲ御馳走ニナリ三時頃迄晝寢シテ
後佐々木ニ行ク 一時間バカリ話シテ帰ル アトヨリビール半打ト雁風樓ノ御馳走來ル
西ノ兄ヲ呼ニ行キ共ニ夕食後内ノ兄ト兄ノ友ト新世界ニ行キ十二時帰ル

▲▼213ページ▲▼ 大正5(1916)年7月18日(火)

天氣 晴後曇リ

朝腹痛デ困ツタガ石垣ガ布ヲ買ヒニ行クト云フノデ一所ニ行キ備後町ノ前州デヤツト
アツタガ明日京都カラ取寄セルトノコト 金ヲ預ケテ帰ル
自ハ藤井ニ寄ル 不圖自分ガ奉公中前二居タ人トカ、滿洲カラ帰ツテ來テピストルヲ出
シタコトヲ思ヒ出シタ 老主人ハ中々元氣デアツタ ソシテ非常ニ嬉(ママ)ンデ呉レタ 若
主人ハ留都(ママ)
船越町ヘモ行ク 晝食ヲ御馳走ニナル 備後町ヨリ若主人老主人ヨリ三円ヅ、贈ラル
帰途酒井ニ寄リゼラシメ注文シ、佐渡島ニ行ク 小主人ハ非常ニ嬉(ママ)バレタ 吉田
勝モ來 坂口河野三君デ夕食ヲ共ニシタイトカ話デアツタガ事ワリテ帰ル 夜小主人
ヨリ五十円贈ラル

▲▼214ページ▲▼ 大正5(1916)年7月19日(水)

天氣 晴

手紙ヲ五六本書イテ荷造リヲ初メタ處ヘ酒井君來。談話 後チ公園ヲ散歩シ雲水ニ行
キ同君ヨリ道別セラレテ帰宅後関ニ行キ佐渡島老主人ヲ見舞 島津ニ行キタンバツクル
ヲ十個買ツタガ高イノニ驚イタ 一個正二円五十錢。帰途廻轉計ヲ買ヒ四時頃帰宅
夕食後七時半出發 八時三十分出發下ノ関行キニ乗ル。兄、姉、延次郎、石垣見送り
呉レル。ア、多忙ナリシ大坂帶(ママ)在 然シ僕ガ且ツテ多ク帰坂シタ經驗中今回程愉
快ハナカッタ 早く大坂デ飛バセテ呉レト大分希望デアツタ

▲▼215ページ▲▼ 大正5(1916)年7月20日(木)

天氣 晴

岡山ニテ下ノ関ニテ荷物見テ來イトノ打電アリ 少々シヤクニサワル 下ノ関九時半着
昨朝七時半通過セリト 十時四十分門司發 車中田中幾太郎君ニ會フ。中沢氏野島
氏等ノ事ヲ聞ク 一時四十分久留米着 大口、山縣、宿ノ主人出迎ヘアリ。林松館ニ
入ル 廿二日三日飛行後佐賀迄連絡ノ由。人目氏ニ會フ 元山田兼吉ニ居ル頃知ツテ

居タトノコト 不思議ナコトモアルモノ 三時頃ヨリ主催者ノ招待會ニ望ム 新聞記者
三名來會 五時過ギ帰ル
入浴夕食後各方面ニ手紙二十通ヲ書キ後チアンマヲ取りナガラ大口ニ伊勢ノ契約ノコ
トヲ話ス

◆▼216ページ◆▼ 大正5(1916)年7月21日(金)

天気 晴

七時起床 日記 新聞後國民飛行モターヲ讀ミ書拔キヲナス

晝食後場ニ行ク 広イコトハ実ニ広カッタ 組立ヲナス 大分破損シテ居タ 夕方出來上
ル 六時試運轉 力馬鹿ニヨシ。只カム、ベヤリングノ押捻ガキカナイノデ明朝入レルコ
トニシタガ一寸困リモノダ

夜アンマヲ取ル

松本デ約束シタノデ久留米稿(ママ)リヲ四反送ル

◆▼217ページ◆▼ 大正5(1916)年7月22日(土)

六時起床 朝食後七時場ニ行ク 空曇リ少シ風アリ 四五米位 十時半第一回飛揚
十四分間 坂本ヨリモ好(ママ)妙ナリトノ評アリ 花環ヲ貰フ 宿ニ帰り晝食 ホールス
カットノ設計ヲ初ム 三時場ニ行キ四時半飛揚約十五分 ベストヲツクシテ着陸。飛行
振リニツヒテハ皆満足シテ居タ由 午後モ花環ヲ貰フ

夜アンマヲ取リ眠ル

爆弾投下ヲヤッタ 初メテノ試ミデアッタ。投ゲタモノハ其場所カラ眞下ニ落ルコトヲヲ
確カメタ

◆▼218ページ◆▼ 大正5(1916)年7月23日(日)

天気 晴

午前六時起床 八時自動車來 場ニ行ク 風ヤ、アリ 十時過ギ第一回離陸ト同時ニ
一寸ユラレタガ高空ハ楽デアッタ 八分位デ着陸。帰宅 花環ノ箱ヲツクラセ大坂へ送
ルツモリデ荷造ス 二時頃関ノ叔父來 共ニ自動車ニテ場ニ行ク 風ハゲシク雷雨アリ
五時過ギ漸ク晴レテ飛揚ト同時ニ風静ニナル 天祐ナルカナ 市街訪問ヲナシ廿分位ニ
テ着陸 又花環一個貰フ 無事飛行會ヲ終ル 叔父ト共ニ帰宿 余一人又場ニ引返シ
少シ飛行中發動機ノ音ガ氣ニナツタノデ廻シテ見ル 違状ナシ。帰宿後聞イテ見ルト
花環ハ宇ノ島鹿兒島ヲ終ツテカラメダルト引替ヘルトノコト 荷造箱代三円六十錢損
害。

叔父ト夕食ヲ共ニス。旅館ノ拂三十四円九十銭ト三円八十銭 主催者例ニ立替ヘル

▲▼219ページ▲▼ 大正5(1916)年7月24日(月)

天気 晴曇半バス

四時起床 仕度 朝食 五時自動車デ場ニ行ク 昨夜大雨ガアッタト機体ハヌレテ居
タ 練兵場モ中々ノ雨ラシイアトガアッタ 準備ガ出来テ六時五分出發 一直線ニ荒
木駅ヲ左ニ見テ筑後川ヲ渡ッタ アトヲ振リカエルトカスミガカ、ッタ山ノ端カラ旭日ノ
昇ルノガキレイデアッタ 丁度出發後六分デアッタ。未見ノ地ナノデ、目標ハ川カ左下
ニ雲ノカ、ッタ高イ山ニ取ッテ十分程行ク内ハルカニ糺糊ナル中ニ市街ラシイモノガキ
ラ、旭日ヲ受ケテカバヤイテ來タ。其中ニ白イ鉄道線路ラシイ眞スグナ道ガアルノデ
ソレノ上ニ行クト国道デアッタ 鉄道ハ其向フニヤ、黒ク見エタ 兵營モ見エテ來タ モー
シメタ 不動尊ヲ念ジツ、近ヅキ着陸ニウツタ
鳥飼氏が旗ヲ振ッテ居タ 兵營デ手ヲ上ゲルト下カラ帽ヲ振ッテ居タ 一度降りニク
カッタノデ二週ノ後チ着陸シタ 少シ横風デアッタガ天祐ニモ機ハ無事デアッタ
聯隊ニ挨拶ニ行キ宿ニ入ル 助手九時四十分ニテ來 町ヲ見物ニ行キ公園デ晝食
夜二百円受取ル

▲▼220ページ▲▼ 大正5(1916)年7月25日(火)

天気 晴

六時起床 不思議ナ好天氣ニナッタ 終日二三米突ノ風デ朝ハ東カラ 午後ハ西カラ
吹イテ居タ

九時半第一回飛行 ドーモ手ヲハナスト前ガ上ルノガ不思議デナラナカッタ 昨日ノ
連絡飛行カラ其氣味ガアッタガ今朝ハ特ニハゲシカッタ

午後早ク場ニ行キモシヤト思ッテ機体ノワイヤヲシラベルト一本キレテ居タ シカシソレ
ハ前ガ輕クナルコトニハ関係ナカッタ。ドーシテモ上翼ノカーブノ変化ニ相異ナイコトガ
分カッタノデ第二回目ニハソレヲ見ナガラ操縦シタ 氣味ノ悪い程變形シタノデ波状モ
傾シヤモヤラナカッタ 花環二個貰フ。今日ノハ立派デアッタ

夜アンマ 知事モ市長モ聯隊長モ皆來タ 會場ノ設備モヨク出來テ居タ 入場者モ多カ
ッタ 氣持ノヨイ飛行會デアッタ

▲▼221ページ▲▼ 大正5(1916)年7月26日(水)

天気 晴

昨日ヨリハ少風アリタレドモ差支ナシ 午前第一回十時半頃飛行 スグ聯隊長ハ來テ

握手シタ 知事夫人モ見エタ 休憩所ニ入り赤十字ノブドー酒ヲ御馳走ニナル。晝食ノ爲メ帰ル 阿部君ヨリ手紙來 支配人云々ノ件 イヅレ廿三日點呼ニ帰坂ノ節面談迄現状維持ノコトヲ申ヤル 午後五時雷雨ハ佐賀市街ノ向ニセマツテ時々音が聞エルノデ大急ギニ飛行ス 低空ノ氣流頗ル悪シク動揺ハゲシ。シカシ毎日傾シヤヤ色ンナコトヲヤリツケテ居ルカラ其割ニ驚カナカッタ 高空ハヨカッタ 市街上デ広告ヲマキ早く着陸後写真ヲ写シ分解ヲナス 四十分間手ツダウ 帰宅後お吉、宅ニ打電 後お吉、鶴代、公恵、宅、ソレソレ、手紙ヲ出ス 本日六十枚新聞發送ス。
ウツラ、、寢ル 三時出發

▲▼222ページ▲▼ 大正5(1916)年7月27日(木)

天気 晴

二時半宿ヲ出ズ 星キラ、ト輝キ夜氣持ヨシ 三時十五分ノ例(ママ)車ニ乗ル 七時小倉着。機マダ着セズ待チ合ス爲メ進氏ノ宅ニ行キ朝食ヲ御馳走ニナル 十一時三十分ニテ出發
機ハ九時通過セリト 二時頃宇ノ島着 随分イナカラシイ 駅モイナゲ位シカナカッタ 節引君來 自動車広告ニ行キ車ナシ 徒歩ニテ宿ニ行ク 團右エ門君シキリニワビル 氣ノ毒ナリキ 途次旗亭数多アリ 團右エ門君大声ニモ之レ皆妓賣ヤナリリ云フ 吾レ等ノ方キマリ悪ルカリシ
着宿後アンマヲ取り眠ル 夜夕食後スグ又眠ル

▲▼223ページ▲▼ 大正5(1916)年7月28日(金)

天気 晴

七時起床 昨日ノ晝カラヨク寢タ 八時場ヲ見ニ行ク 思ツタヨリ広カッタ 直線三百歩アツタ シカシ午後ハ風ガ非常ニツヨクナルノデ鐵道線路ヲ飛ビ越エデカラ風向ヒニ下ルノガ中々六ツ個數ソーデアツタ タゞコレダケガ此地ノ心配デアツタ
午後機ノ組立ヲナス 散髪後佐賀市ノ有志者ニ禮状ヲ出ス 計十一通
此地小ニシテ遊女七八十人ニ及ブ由 夜ウジヤ、、スル程往來シテ居ル
夜アンマヲ取り十時眠ル 蚊多クコマル

▲▼224ページ▲▼ 大正5(1916)年7月29日(土)

天気 晴レ

今日イ、アンバイニ午後モ大シタ風ガ出ナカッタ 天祐ナルカナ。午後爆彈投下ガネラ

イスマシテヤツタヤツガ僅カニ一間半ヨリハナレナカッタ。ト爆發ガ非常ニウマク行ツタソ
ーデアツタ。二回共無事。セマイ場所モ思ツタ程デモナカッタ
鳥飼氏ヨリ二百円ダケホシイトノコトニ四百円カエスコトニシタ 尚利息トシテ白戸ノ方
ノ時計一件ヲ僕カラ送金スルコトニ話シタ 高四十五円トノコト
今朝三百六十二円受取ル

▲▼225ページ▲▼ 大正5(1916)年7月30日(日)

天気 晴レ

朝早く曇テ居タガ後チ晴レ 昨日大差ナキ飛行日和 午前ノ爆弾投下モヨク命中シタ。
午後ハ中津町訪問ヲナス。坂口飛行中尉小倉ヨリワザ、來ラル 飛行後宿ニ招キ夕食
ヲ共ニス。宙返ヲヤツテ呉レトシキリニ進メテ居タ。スミスノ宙返リ練習法ナドモ、オシエ
テ呉レタ。卒業飛行ノ箱根ニ於ケル難飛行ノ話モ聞イタ 大ニ得ル處ガアツタ
花環二個此處モ貰ツタ 紫縮緬ノ旗モ貰ツタガ直方ヲヤル迄貸シテ呉レトノコトデアツ
タ

夜夕食後高松氏ノ茶番デ大笑ヲシタ
白戸ニ四十五円電爲替ニテ送金ス

▲▼226ページ▲▼ 大正5(1916)年7月31日(月)

天気 晴

布ヲ切り縫イニヤル 鳥飼氏帰京 富松氏直方ヘ行ク 余等買物方々中津ヘ行ク 人見
君モ醫者ニ行ク 井上ノ洋服、靴等モ注文ス 四時半ノ列車ニテ帰ル。宇ノ島駅ニテ駅
長ヨリ宇佐鉄道ヨリヤツテ貰ヒタイト云ツテ來タトノ話シデアツタ 交渉ハ人見君ニマカ
ス

帰路飛行機ヲ預ケタ家ニ禮ニヨル。夜吉ヨリ電報アリ 玉井君試験シタガシリンダーコ
ワレタヨシ

▲▼229ページ▲▼ 大正5(1916)年8月1日(火)

天気 晴

午前七時起床 新聞ヲ見ルト中津デー昨日飛行機ヲ見様トシテ屋根カラ落ちタ小供
ガアルトノコト二人見君ニ二円事ツケテ見舞ツテ貰フ

海軍軍人ガ上陸スルトノコトニ宿ガ差支エルト云フノデ機ヲ預ケタ家ヲ貸シテ貰フコト
ニシタ プレーンヲハガス中富松氏ヨリ場所見ニ來テ呉レトノコト二十二時十三分ニテ出
發ス 三時四十分漸ク着。気車ノ不便ナ處ダ 自動車デ場ヲ見ニ行ク 横巾ハ少シセマ

イガ長サガアルノデヤルコトニシタガ何シロ凹凸ガゲシイノデ五十間ばかり地ナラシヲシテ貰フコトニシタ

汽車ハ九時廿分ヨリナイノデタ食ヲ馳走ニナル 後チ北村氏ニ宗教ノ話ヲ聞ク
十一時半行橋着 宇ノ島行無シ ヤムヲ得ズ宿ヲサガシテ泊ル

◆▼230ページ◆▼ 大正5(1916)年8月2日(水)

天気 晴曇

早朝雨降り居タリ 七時起床 朝食後八時十五分發ニテ帰ル

今日ブレーン三枚張ル

午後二豊新聞來 金ホシソーナコトヲ云ヒ出シタノデビールヲノマセゴマカシテ帰ヘス
吉、ナホ、公恵ヨリ手紙來ル

◆▼231ページ◆▼ 大正5(1916)年8月3日(木)

天気 晴

終日ブレーン張リ 一枚残ル

今朝小山氏ヨリ手紙來 發動機ノ試運轉ニ來テ呉レトノコトニ行クベク返電ス 夜オソク又來電アリ ハヤク來テ呉レトノコトナレドモ明夜当町有志ノ宴會アル由申込ミアリ
ヨツテ明後日出發ノコトニ決ス 明朝打電ス
アンマヲ取り眠ル

◆▼232ページ◆▼ 大正5(1916)年8月4日(金)

天気 晴

昨日ノ西瓜ニアテラレタカ腹ガドーモ変ナノデ終日養生シタ。小山ヨリ來ル時ヨツテ呉レトノ電來ル 明日タツコトヲ打電ス 夕方醫師ニ見テ貰フ 明日汽車ニ乗ルコトヲ聞ク
多分ヨシトノコトデアッタ

七時頃ヨリ宴會始マル 廿名 余早ク辭シテ下ニ行ク
宴ハテテ床ニツク

吉ヨリ手紙來 玉井四日市へ歸リタル由

◆▼233ページ◆▼ 大正5(1916)年8月5日(土)

天気 晴

塗料日和デアッタ ヨク照テ風ナシ

大口、山形ニアトノコトヲヨク頼ミ午前中自分ハ宴會ノ禮廻リヲシタ

スベテノコトヲ手落ナクヤッタツモリデ四時出發シタ 車中デスマイルスノ自傳ヲ讀ム
門司六時着 七時過ぎ發ノ山陰線ニテ大坂ニ向ツタ 大分今日ハ込デ居タ

宇ノ島駅ニテ時間ヲ待つ間駅長ト大分長ク話シタ 切符ヲ二等ト云ヒワスレタ處ガ三
等ヲ呉レタノデ乗ツテカラ大分手数ガカヽッタ

▲▼234ページ▲▼ 大正5(1916)年8月6日(日)

天気 晴

込デハ居タガヤハリ眠レタ 姫路デ顔ヲ洗ツタ時ハミガキ入レヲワスレタ 六年間ツカヒ
ナラシタ品ナノデオシイ氣ガシタ ソシテ昨日汽車ニ乗ツテ不圖氣ガツクトウデ時計ノ
硝子ガ壊レテ居タコトカラドーモ氣ニナツテ色々考ヘルト山田行キヲ氣ヲツケヨトノ神
意デアルコトヲサトツタ。ソレカラ自傳ヲ讀ンデ居テモ時々氣ニナルノデ色々ト契約ノコ
トカラ八十水上がり出來上ガテカラ今ノ飛行機ヲ將來鳥飼ニモシ貸シテ呉レト云ワレタ
トキノ態度等ニツキ研究シタ 八時大坂着 小山ガ見エナイノデスグ宅へ來ルヨ―打電
シテ帰宅 不意ニ驚イテ居タ 氣ガツクトオーギヲ車中ニワスレテ來タ之レデ時計トハミ
ガキ入レト、扇子トデニツ事故ガアツタカラヤット安心シタ。

山本ノ叔父ガ來テ居タ。大坂デヤルコトニツイテ大分附近ノ人々ガ熱心ラシイガ僕ハマ
ダヽト云ツテ居イタ。ナンデモモ―少シ、エライ人等ガ望ンデ來ル迄ハ待ツツモリ。十一
時小山來 五時小生出發 小山明早朝出發 山田着後四日市ノ余ニ知ラセルコト約ニ
ス。

白戸ノ手紙ガ來テ居タノデ四十五円ウケ取ル様打電ス 山田ノ佐野君ニモ試運轉出
來ル様準備ノコトヲ打電ス 天王寺出發 十時四日市着 松茂支店ニ入り玉井君ノ新
聞ヲ見ル 新紙ハ自分ノ責任上好意アル書キブリデアッタ

四日市ニ來ル車中小山ガ海野ニ水上設計者ノ名ヲカヘサセテ呉レトノニツキ返事ヲ考ヘ
テ居ク

▲▼235ページ▲▼ 大正5(1916)年8月7日(月)

天気 晴

青樓ヲ出デ、海岸ヲ散歩シ宿ニ入ラントスル曲リ角デ本郷君ノ驚イタ様ナ顔ガ見エタ
山田へ來タツヒデニ一寸寄ツタコトヲ話ス 後チスグ玉井君ヲ連レテ宿迄ヤツテ來タ 不
沙汰ノ詫ヲシキリニ云ツテ居タ。宇ノ島トお吉ニハガキヲ出ス 食後ワザヽ、車ヲ以テ迎
ヘ三來タノデ場ニ行ク。機体ハ大分上手ニハ出來テ居タガ面積卅平方米突速力廿五米
ガ最低デハ一寸上リニタカロー。發動機ハ八百シカ廻ラナイ由 稲毛デヤツタノハ、コン
ネクチングロットノクランクシヤフト取付ノネジ止メガワスレデアッタノデ運轉中ハナレテ

克蘭クケースニ穴ガアイテ居タ。シリンダーモ下ノ方ハ立ニヒゞ破レテ居タ。エンジンヲ下ロシテ分解シテ居タ 中モヨク見タガイヤナエンジンデアッタ

十一時玉井君ノ宿ニ帰り晝食後川島ニ行ク 中々ジヨサイノナイ親父ラシカッタ 玉井君ノ親父ニモ會ッタ 二時半帰宿 一寸一寢入リスル内玉井君ガ來タ。色々話ノ内村山カラ玉井君ニ濱ト展覽會ヲヤルニツヒテ來テ呉レト申込ミガアッタ由 馬鹿ナ村山ダト思ッタ

川島來 万一ノ場合僕ノ飛行機ヲ持ッテ來テ呉レトノコトニ其場合ニナレバ如何トカ又相談スル由答エル 主催ト云フノヤニ三人來タ 小山カラハ電報ガ來ナカッタガ八時二十二分山田行キ終列車ニテ出發シタ 玉井一行ニビール一打ヲ送ッタ

◆◆236ページ◆◆ 大正5(1916)年8月8日(火)

天気 晴

午前六時起床 外宮ニ参拝。ツヒデニ郵便局ニヨリ電報ヲ受取ル 人見ヨリ來タノデ飛行十四日ニナッタカラ早ク來テ呉レトノコト 返電ヲ大ロニヤル

小山來ラズ 西ノ宮へ電報ニテ聞合ス 二時ツクトノコト。ヤハリ來ラズ 止ムヲ得ズ帝國坐ニ行ク 佐野君ガモーチヤントシテアッタノデ一寸調べテスグ廻ス 調子出デズ 其内マグネトガ動キ出シタノデ中止シテ、自身シラベルトドモカシコモナツトガ皆ユルンデ居タ。カムノ開キモソロエダ 大分コンプレッションガ増シタ。マグネト取付ケガドーモ氣ニ入ラナカッタ 此時小山來ル 第一ガソリンパイプガゴム管デ出來テ居タノハムシロ滑稽デアッタ

マワシテ見ルトドーモヤハリイケナイ 止メルト一寸ヤケ気味ナノデシラベルト、オイルガナカッタ プラッグヲシラベルト片側ダケ油デベト、ニナツテ居タ 多分此セイデアロ ー 油ヲ取ヨセルコトニシテ今日ハ終リ宇仁館へ帰ル プロペラトマグネトヲハヅシテ帰ル夜マグネト試験ス ヨサソーナリ 後セン風キデヤツテ見様ト思ッタガウマク出來ナカッタ

お吉、鶴代、大口山縣、阿部、父ニ發信ス

◆◆237ページ◆◆ 大正5(1916)年8月9日(水)

天気 晴曇雷

七時起床 スグ内宮ニ参拝 帰宿後朝食

プロペラノピッチヲ調べル 一米突六百三十。後チ小山君トプロペラ談ヲナス。オイル來ラズシキリニゴタ、シヨルノデ小山君ニオイル位デゴタ、スル様デハ飛行機ヲ作ル様ニナッタラドースルト云ヒテヤッタ 丁度主人ガ帰ッタトテスグ注文シテ居タ 午後來ル

ト云フノデ三時頃ヨリ帝国座ニ行ク タチマチ大雷雨アリ 一時帰リアンマヲ取ル ニケ
所落チタヨシ 後チ行キテ各部ノ取附ヲナシヨクシラベテ廻ス バイブレーシヨンモミッス
モナクヨク廻ル 目測千回弱位。エーヤノ調製ト回轉數ヲハカロートスル處へ今朝お産ガ
ソコアッタノデ、一寸オトナシクヤツテ呉レトノコトニ中止シタ お産ハ大ニヨカッタ
少シ風ノ出カタガ弱イ感ジガシタ。

夜アンマヲ取ル 西田氏ト小山君ト話シガアッタ 自分ノ意見方モ聞キニ來タ。マダヨク
分ラヌガ、多分モノニナルダロート云ツテ居イタ プロペラ製作ノコトニツヒテ何ニカ云出
シタガ事業ト云フコトハシバラクハヤライコトニシテ居ルトコトハツタ
鳥飼本日宇ノ島到着ノ由打電アリ

◆◆238ページ◆◆ 大正5(1916)年8月10日(木)

天気 晴雨アリ

朝食後スグ、發動機ヲ廻ス フロートノ下ニコロヲ入レ牽引力ヲ計ル 百三十吉ヨリ引カ
ズ風又ヨハシ 別ニミッスモシテ居ライ様子ナリ 上ニ上ガリテ廻轉數ヲ計ル 八百回
轉 此時ミッスヲ初メタリ マグネトノシヤフトニ回轉計ヲアテタルニ手ニゴツン、ハ、ト
時々感電セリ 帰宿ス 其前、前契約以外第二案トシテ西田氏ヨリ武石ノ後チ海野ガ
嗣ギタルモ海野成功セズ ヨツテ余ニ其後繼ヲユヅルトノ意味ニシテ海野ノ借金ヲ余ガ
支拂フコトニシテ自分ガ多少金ヲ出シテ呉レトノコト 其変リ海野其他一切ノ關係ヲ
タチ後チニワヅラヒヲ残サザルベシトノコトニ試験後千五百円ニ値ツケタ 一寸出シス
ギタト思ツタガ及バナカッタ 二千円ト云ツタガツヒ二千五百円ヲ契約書ヲ書イタノガ
四時

四時四十八分發ニテ十一時大坂着 車中ニテスマイルスヲ讀ム 一昨夜不圖輕便冷蔵
庫ノ發明ヲ思ヒ立ツタ 來年ノ夏迄ニヤリトゲタイト思ツタ。

夜十二時半迄契約書ト竹島ノコトニツキ父ト姉夫妻ト話ヲナシ床ニツヒタガツヒニ眠レ
ズ三時半ニ及ブ 其間ニピッチ計算器ノ良好案ヲ得タ

◆◆239ページ◆◆ 大正5(1916)年8月11日(金)

天気 曇雨

午前七時起床 朝食後反物ヲ買ヒ後チ車ニテ佐渡島ニ行 小主人ト河野君トニ會フ
吉田勝モ來ル。十一時工場ニ兄ニ會フ 若主人居合ス 契約書ヲ見セテ兄ト協儀(ママ)
シ工場ヲ見テ帰宅 十二時半晝食後延次郎、義兄ト三人ニテ二時頃ヨリクリストフハ
ーソンノ機ヲ見ニ行ク 中々立派デアッタ 尾崎氏ニ一寸無理デハナイカト思タ 先
ヅ々々發表アリ練習ヲ先キニシタ方ガヨカロー。大西光達君ガ居タ シキリニ各部ヲ明
細ニシラベテスケッチシテ居タ 島津ノマグネト賣ルカ返事シテ貰フコトノタノシダ 帰

途イロハデ夕食

七時兄帰ッ來ル 共ニ竹島ニ行ク 主人十分バカリシタラ帰ッテ來タ 話ス間ナク時間
ガ來タノデ出發 兄ガ見送ッテ呉レタ。

八時三十分發 神戸ヘ行ク道デ鶴代ニハガキヲ出シタ

▲▼240ページ▲▼ 大正5(1916)年8月12日(土)

天気 曇リ

九時半下ノ関着 門司ヨリ折尾ノ間ニテ朝晝ヲヲ兼ネ折尾ニテ乗替一時間余待合セ
二時頃直方着 タレモ居ナカッタ 車デ宿ニ向フ處ヘ山縣ガ自轉車デ來タ 之レカラ運
搬スル由。宿ニ着ク 公惠、鶴代其他阿部四五通來テ居タ。頭カラ右ノ目ニ対シ例ノ通
リ痛イノデアシマヲ取ル。ハガキト手紙ヲ二三通書キ夜モ早く眠ル。鳥飼氏買物ノ勘定
ヲスマス

山口縣ノ手金受取ル

▲▼241ページ▲▼ 大正5(1916)年8月13日(日)

天気 晴

東風終日吹ク タ方風グ 東方デハ土堤ノ方カラ吹クノデ誠ニ工合ガ悪イノデア
午前中手紙ヲ整理シ計算ヲナス 人見、北村氏ノ爲メ扇子ニ晝ヲ晝ク 頗ルマツシ 北
村氏賛ヲセラル。午後場ニ行キ組立ヲ手傳フ 五時頃試運轉ヲナス プレーン大分重ク
ナッタ様ナ氣ガシタガ考ヘテ見レバ重クナッタ理由ガナイ 場所ハセマカッタ 地ナラシモ
ヨクナカッタ アレデハ速力ガ出ナイノデモ一應明朝一寸ナラサセルコトニシタ。毎日
東風ダソーナ ガ午後カラ東ノ山ノ雲ガトレタノデ明日ハ天氣ノ変リソーナ氣ガシタ
夜、鳥飼氏ノ發案デ北村氏一行ヲ照(ママ)待シテ、洋食屋デバンザン會ヲ催シタ
夜佐世保カラ來タト云フ十八九ノ女二人助手ニツカッテ呉レトテ困ツタガツヒニゲキ退
シタ

▲▼242ページ▲▼ 大正5(1916)年8月14日(月)

天気 晴

五時半皆ヲ起シテ場ニヤル 七時起床 八時場ニ行ク 人ハ随分大變デアッタ 主催モ
マコ、シテ居タ。滑走場ニ見ル 百二十歩シカナイガ大分地ナラシハ出來タ。幾度モ
往復シテ考ヘル内ウマク行キソーナ自信ガダン、ト出テ來タ 十時過ぎ第一回ヲヤル
無事隔(ママ)陸シタ 二百位カラ百位デ小旋回ヲ数回ヤッテ降リタ 一度降リグアイ
悪ク二度目ニ着陸シタ。午後八例ニヨッテバ見ガ多カッタ 十八分間ノ飛行デ上ゲ通

シニシテ五百疋上ガラナカッタ 多少山ノ地勢モアッタカモシレナイ 西風デアッタ 直方町民ニ敬意ヲ表シテカラ貝橋家ヲ訪問シタ池ノソバニ大キナ家ガ三軒アルト云フノデソレヲ目表(ママ)ニシタ處着陸後聞クトソレハ遊廓デアッタトカ 貝橋家カラハ見エナカッタ由 氣ノ毒ヲシタガ山ノ上デ氣流ノ悪イ中ヲワザ、一回轉ヤッタコトデ勘シテ貰ワナケレバナラナイ

午後着陸ハ横風ニツキ心配ナガラヤッタガ何ノコトナク常ノ通りデアッタ アノ一寸ノ間ダケ風ノナカッタコトモ天祐デアル 兎ニ角昨日迄毎日々々吹イタ風昨日ニナクナッタコトヲ天ト神ニ謝ス

花環三個貰 内一個ハ小イサイガ小學生ガ手ツカラ作ッテ呉レタノダトノコト 深謝スル

▲▼243ページ▲▼ 大正5(1916)年8月15日(火)

天気 晴

七時起床 大坂、吉、鶴代、へ手紙出ス 十時二分發ニテ出發ス。貨物特別ニ九時ノ貨物列車ヘツナイデ呉レタ。車中ハナカ、コンダ。午後貳時宇部着。輕便ニテ新川着。夕方食後飛行場ヲ見ニ行ク。クラクテヨク分カラナカッタガ、セマクテ凹凸デ、トテモヒドイ處デアッタ 地ナラシハ無論ヤラセネバナラナカッタ

夜アンマヲ取ル

列車中ニテ切拔ヲ整理ス。着後島津ヘハガキ出ス

▲▼244ページ▲▼ 大正5(1916)年8月16日(水)

天気 晴

朝食後飛行場ヲ見ニ行ク 昨日ヨリ又セマク見エタ トニカク地ナラシヲ盛ニヤラセルコトニシタ 機体ハツイタガ貨車ノマ、アツケテ居ク

風ハ終日東カラ吹イテ夜ニ入ルモヤマナカッタ タ、此ノ風ガ場所ノ低イ爲メ氣ニナル白戸ヨリ電報來ル セイユウライノル。手紙見タカトノコトニマダノムネ返事スル 百二十五馬力ノスケッチヲ写シ格納庫ノ設計ヲナシ飛行界ヲ讀ム

▲▼245ページ▲▼ 大正5(1916)年8月17日(木)

天気 晴風アリ

ヤハリ東風デアッタ 午前中手紙ヲ書イタリ切拔帳ヲ整理シタリ雑誌ヲ讀ンダ 午後組立三行ク 地ナラシハホ、出來テ居タ

マグネト分解シタ 齒車ガ一枚カケテ居タ ソシテギヤーケースノニユームガ齒車ガコス

ッテ大分ケヅレ其爲メ熱ヲ起シタラシクアーマチャノラックガ流れ出シテ居タ 手入
レヲナス

七時頃帰ル 河村ノ御母サンカラ手紙ガ來テ居タ 益々重体ニテ店モシマイ麻布ヘ引越
ス由 ソレニ付キ店ノ名ニ僕ノ名義ヲ貸シテ呉レトノコトデアッタ 決シテ迷惑ハカケナイ
トシテアッタガ少シ位ノ迷惑モカマワイカラ安心シテ使用スル様スグ手紙ヲ出シタ 尚
廿五日六日頃一寸帰ルコトモ書キソエテ居イタ

▲▼246ページ▲▼ 大正5(1916)年8月18日(金)

天気 晴

七時起床 マグネトヲ組マセ朝食後場ニ行ク 九時半頃試運轉良好 十時二十分第一
回ヲヤル 觀衆頗ル少ナシ 左追風ヤ、強シ 飛揚困難 水ギワニテ漸ク数尺上ル 海
ノ上ニテ風ニ向ヒ高度ヲ取ル 氣流又ヨロシカラズ 数周ノ後着陸 着陸ハ向ヒ風デ樂
デアッタ。先ヅ心配ナ第一回ハ無事終ツタガ午後ハマダ心配デアッタ。宿ニ帰ル 白戸ヨ
リ百円貸シテ呉レトノ手紙デアッタガ手元ノ事情ヲ書イテ送ル 阿部カラモ來タガ之
レハ自分帰京スル由打電ス

午後五時過ギヤル 風静ニナル 天祐ナルカナ。山縣ノ父モ來會ス。波状、バンク、ボー
ルフラン等、今迄ヨリモ皆出來ハヨカッタト思ツタ

夜カバンヲ買ツタガ馬ノ皮ダトノコトデ大キニ馬鹿ヲ見タ

▲▼247ページ▲▼ 大正5(1916)年8月19日(土)

天気 晴

今日ハ風ガカワツテヤ、向ヒ風ニナツタ 十時過ギヤ、風ガ出タガ無事終ツタ 宿ニ帰ル
山縣ノ父三時タツ

お吉、ナホ、公恵ヨリ手紙來 ソレヲ持テ場ニ行ク 場ヨリスグ立ツツモリデ荷物モ持ッ
テ行ツタガ十分バカリ間ニ合ハナカッタ。午後ノ飛行ハカナリ風ガ強カッタガ先ヅ無事
終ツタ

コレデ東京ヘモ大意(ママ)張デ帰ヘル訳 十四ヶ所四十五日ノ飛行デ一度モ機体ヲコワ
サナカッタノハ実ニ天祐デアッタ スミス君ガ天才飛行家ナラ僕ハ天祐飛行家ダ

夜八時出發 機体モ一所ニ出發シタ

▲▼248ページ▲▼ 大正5(1916)年8月20日(日)

天気 晴

宇宙ヲ讀ンダリ眠ツタリ 一時二十五分大坂着 二時頃帰宅ス 日記ヲツケル 公恵、

山縣正夫カラハガキガ來テ居タ。公惠鶴代、へ手紙出ス
夕方温泉ニ行キ帰宅後夕食。西ノ内ニ行ク 兄八時頃帰ル 九時頃竹島へ手土産ヲ持
ツテ行ク 主人不在ニ十分バカリシテ帰ル
十一時床ニツク

◆▼249ページ◆▼ 大正5(1916)年8月21日(月)

天気 晴少曇リ

四時半起床 朝食後五時半ヨリ車ニテ城東練兵場ニ行ク 番人一人ヨリ居ラズ 機体
ノ組方ヲ見ル 發動機分解シアリタリ。過日飛行中停止シタルナリト。佐渡島ニ行ク
小主人老主人ニモ會フ 店ニ頼ンデ山口銀行ヨリ小山へ四百七十円送金ス。帰途大西
スプリングニテ、スプリングヲ注文シ帰宅。小山氏へ明朝來坂ヲ依頼ス。返電來ルトアリ
タリ

夜竹島へ兄ト利子百二十円ヲ持ツテ行ク マダ帰ラズ 明日夫人ニ預ケテ帰ル 新世
界ヲ散歩シテ十時帰宅

◆▼250ページ◆▼ 大正5(1916)年8月22日(火)

天気 晴

五時起床 姉ト入浴ニ行ク 吉田勝ニ會フ 共ニ朝食 帰宅 新聞ヲ讀ム内小山來 發
動機大坂へ引取ル事西田ト相談ノ上返事スル由 プロペラ頼マレル。正午前山縣來ル
分解ノ事ヲタノム 晝食ヲ共ニシスグ帰ル。

夕方佐々木ヨリ呼ビニ來ル 五時行ク 笠井氏ヨリ爆彈投下機ノ説明ヲ聞ク 理論ハ
理論ダガアタリソーニナカッタ 雁風樓へ夕食ニ行ク

塗料ノ研究ハヤ、進歩シテ居タガ尚今少シヤツテ貰ハナケレバダメデアッタ

九時帰宅

十時就床

玉井君ヨリ明日行ク 夜宅タノムトノ打來ル

◆▼251ページ◆▼ 大正5(1916)年8月23日(水)

天気 曇リ

六時起床 點呼ニ行ク 十二時帰宅 手紙ヲ書ク 鶴代ヨリ手紙來

三時頃延次郎君ト土産物ヲ買ヒニ行ク 帰宅後散髪行ク間ニ玉井君來 帰宅 丁度
電報デ呼ビヨセタ佐野モ來ル 小山氏ヨリ發動機大坂へ送ルトノ打電アリタリ ヨツテ
佐野君ニ受取りニヤルコトトシ十円渡ス 但シ明日小山帰宅ノ上話ヲ聞イテ行ク様云

ヒツケル

玉井君ニ四日市ノ話シヲ聞ク ドーデモ僕ニ飛ンデ貰ワナケレバ納マリガツカナイトノコトニトニカク様子ヲ見ニ行クコトニシタ

温泉ニ行キ夕食ハハリ重デヤリ帰宅 九時佐野帰ル 玉井君泊ル 明朝一番デ出發

◆▼252ページ◆▼ 大正5(1916)年8月24日(木)

天気 晴

四時起床 朝食後五時半宅ヲ出ヅ 六時十分天王寺發 十時四日市着 玉井氏宅ニ行ク 玉井君父、青木、松井、君ニ會フ 主催者ナルモノノ攻撃アリ 要スルニ無報酬デ玉井君ノ爲メ飛行一日シテヤルガ費用ダケハシテ呉レル様ニ云フ 晝食後警察ニ行キ自分ガ來テヤルト云フコトヲ話シテ歸リ、後チ主催者新聞記者等ニモ自分ガヤルニツイテノ希望ヲ述べ主催者ニ玉井君側ノ乞ヒヨリ報酬ト云ワズ助手ノ手當トシテ三百五十円貰様ニ話シタ 勿論費用向持チノコト 之レデ要事ガ終ッタノデ六時半出發 八時十二分名古屋發 東京ニ向フ 車中ヨリ玉井君ノ方成ダケ早クトノコトニ取リヲ鳥飼ニ間ヒ合ス

◆▼253ページ◆▼ 大正5(1916)年8月25日(金)

天気 晴

七時十分着 河村宅ニツク 先ヅ病氣ヲ見舞フ 今朝三十八度 脈百十ヲ算シタリトお母サンノ話デハ九日十日ガ六ツ間敷イ由。鶴代、宅發信

鳥飼ニ行キ加藤ニ寄り晝前白戸ニ行ク 大津ノ方承諾ト、ノヒヤメルナラ四百円返シヤルナラ二百円夫ニ出ス由。ヨソヤツテ四百円返スツモリニテ二三日内ニ出發スル由 夕方迄一寢入ナス 岡本來 タンバック十五錢デ出來ルトノコトニ二台分注文スルコトニシ二十円ヲ今白戸ニ渡ス 夕食後都筑氏ヲ訪 帰途千覽氏ニ會ヒ阿部君ノコトヲ聞ク 明日晝食ヲ共ニスルコトヲ約シテ白戸ノ宅ニ泊ル 大學出ノ兵隊サンナル小冊子ヲ讀ミ一時眠ル

◆▼254ページ◆▼ 大正5(1916)年8月26日(土)

天気 晴少曇雨アリ

六時起床 七時朝食 河村ニ帰ル 様子ヲ聞クニ店ノ貸八百円借六百円ノ由 之レハ先ヅ〇トシテ問屋ノ方ハ今迄ノ關係上ノバシテ貰フコト 外ニ無ジンガ二口 之レハ百円以内デ整理ツイキ三百二十円位信用貸金ガ半分入レテアル由 之レハ月十五円ヅハカケレバヨイトノコト

別ニ何事モナイノダガ世ナレナイカラ心配デシカタガナイト見エルノデ、其信用貸金下
ムジンハ僕ガ引受ケルコトニシタ 尚將來モ二三ヶ月スレバ帰ルカラ其上ハ又僕ガ面倒見
ラレルダケハ見ルト話シタ 御母サンモ妻君モ泣イテ嬉(ママ)ンデ居タ。武田ノ照会ニテ
北海道ヨリ一人來ル コトハル スグ後トエ阿部來 ウーロン茶ニ行キ支配人ニ仲介社ト
シテ仲介ノ場合必要ニ応ジテ使用スルコトヲユルシ他ニ生活ノ道ヲ求メテ貰ヒ、余暇ニ自
分ノ爲筆ヲ取ツテ確認 新聞ノ連絡ヲ取ツテ貰フコト ソレヘ其度ビ報酬ヲヤルコト 名
刺ヲ亂用シタリキヅ、ケザルコトヲ確ク約クス。
白戸千覽ニ晝食松本ヲオゴル 阿部都合ニテ來ラズ。
帰宅 御母サント神田ノ宅ニ行キ前記ノコトヲ話シ奔走ヲ謝シ又依頼ス。帰途山田ニヨ
ル不在。帰宅 加藤來 スグ支度シテ両国ニテ夕食ヲ馳走シ白戸ノ依頼ニヨリカバ
ノ事ヲ余ニ対シテ呉レルコトニナツタ 八時両国發九時稲毛着 佐野其他手紙電報ヲ
見ル

◆◆255ページ◆◆ 大正5(1916)年8月27日(日)

天気 晴

五時起床 浅間神社参拝朝食、切抜整理、手紙整理ヲナス。

山川、山崎、梅田、友野、諸氏一人一人來リ會フ

午後プロペラノ設計ヲナス

夕方舟ヲユグ

大工ヲ呼び格納庫見積ヲ命ズ

夕食後一學生遠足ニ來リタリトテ白戸ヲ尋ネ來ル。苦學生ナリト 目下神田英學會

ニ夜學シ九月ヨリ高工夜學部ニ通フツモリナリト 宿ヲシテヤル。十時眠ル 鳥飼ヨリ

百円電爲替ニテ取ヨセル

夜佐野ヨリ電報來 山田ニ行キ發動機爲替附ニテ送附セリト イサイ面談トアリタリ

爲替附ニテハ、分解出來ズ此點ニツイテ交渉ノ必要アリ

夜半地震アリタリ

◆◆256ページ◆◆ 大正5(1916)年8月28日(月)

天気 晴

五時半起床 浅間神社参拝 散歩 朝食後日記

プロペラ設計ヲ仕上グ 午後一時五十分ニテ成田山参拝 五時半帰稲。大工來ル タ

食ヲ共ニシナガラ格納庫ノ見ツモリヲサセル 四百円ト建替ヘ五十一円ナリ

◆◆257ページ◆◆ 大正5(1916)年8月29日(火)

天気 晴

四時半起床 浅間様参拝 仕度ヲナシ朝食後出發
八時半両国着 車ニテ途中山田ニヨリ人見ノ人格ヲ聞ク 信用無シ タゞ先乗リトシテ
使用スル位ノモノナリト。河村ニ帰ル 麻布ニ引越シタル由 行キテ見舞ヒ百円ヲ提供ス。
スグ帰ル 店ノ方ハ妻君一人。丁度神田ノ夫人來合シ店ノ債権者ニ對シ向フヨリ來ルヲ
待ツヨリ行ク方ヨロシカラントノコトニ決ス。阿部來ル 松本楼ニ行ク 飛行社ノ中間君
第一ニ來リ次ギニ山本君 ズットオクレテ国民ノ渡辺來ル。二時頃出デ、阿部ト二人
デ岸氏ノ工場ヲ參觀ス 宗里技師ノ案内ニテ残ラズ見ル。タゞカンタンノ外ナシ
河村ニ帰ル 御母サン來テ居タ 夕食後出發 七時新橋ニテ乗ルツモリノ處停車セズト
ノコトニガツカリシテ九時迄新橋ヘンヲ散歩ス 阿部君見送り呉レル

◆258ページ◆ 大正5(1916)年8月30日(水)

天気 晴

九時頃ヤット目ガ醒メテ朝食ヲヤリ一寸本ヲ讀ム内ニ大坂ニツヒタ 十二時帰宅後其
マ、又寢タ 夕方起キタ 宅ノ附近ニモコレガオソーテ來タ

夜兄ト竹島ニ行ク 主人不在。百三十銀行ヨリ荷爲替ノ通知書來ル 運送店ヨリモ
小山九時頃來。荷爲替ニシタコトニツヒテ辨明シテ居タ。決極(マ)發動機ハ分解セズニ
受取ル カワリニマグネトヲ呉レル様ニト談判シタ。ソースルト云ツテ帰ツタ

プロヘラノ設計圖モ與ヘル 見本一本呉レル筈

桑名ノ飛行ヲ依頼シタ

◆259ページ◆ 大正5(1916)年8月31日(木)

天気 晴

午前六時起床 兄ト竹島ヘ行キ主人ニ會ヒ、千円問題ヲヨクタノム。後チ佐々木ヘ行ク
塗料ガマダ出來テ居ナイノデスグ築港ノ工場カラ呼ビヨセテツクラセルトノコトデアッ
タ 帰宅後車ニテ港町ノ丸通ニ行キ發動機ヲ倉庫ニ預ケルコトニシナツトヲ買ヒ、佐渡
島小主人ヲ宅ニ訪フ。店ヘ行ツテ居ラレタ シバラク待ツタガ何デモ小主人自身店ヲ出
スコトニナルノデ其相談ダソーダ 吉一、元二、隆三、三氏ノ大キクナツタノニハ驚イタ
ヤハリ元二君ハサsgニナツカシソーデアッタ 僕ガ店ヘ行クトスグアトカラツヒテ來タ。
河野君ト「ハリ半」デ晝食ヲ共ニス 二時頃帰宅 佐々木ニ行キ塗料ヲ見ル。ローフトカ
シタヨ一ナモノデアッタ ヤハリカワキハオソイソーダ 二日位ヒカハル由

お吉ノ事ト河村氏ノコトヲ父ニハナシテ七時過ぎ出發 八時半ニ乗ル 岩崎氏見送ツテ
呉レタ

◆262ページ◆ 大正5(1916)年9月1日(金)

天気 晴

六時目ガ醒メタ 柳井津ニテ洗面朝食

二時二十分大牟田着 鳥飼氏一人迎ニ來テ居タ 宿ニツク ナンダカ変ナ香ノスルキ
タナイ宿デアッタ ムネガフサガッテ仕方ナカッタ。夕方梅干ヲ喰タラスイテ來タ。
回腹丸ヲノミ過ギタ爲メダロー 四時頃展覽会場ニ行ク 入場者ハ少ナカッタ。「マゲネ
トノ齒ガマタ一枚カケタトノコト。夕方ハヅシテ歸リ入齒スルコトニシタガ例ニヨツテ齒車
ガハヅレナイノデ其儘仕事ハシクイガ入齒スルコトニシタ 阿部カラモ一金ノコトヲ云ッ
テ來テ居タ コトワル
河村、宅、吉、阿部、玉井、濱、ニ手紙出ス 鶴代カラハンカチト香水ヲ贈ッテ來デアッ
タ

◆263ページ◆ 大正5(1916)年9月2日(土)

天気 晴曇雨

午前六時起床 鶴代、白戸、公恵、阿部ニ手紙出ス

鳥飼氏マグネト入齒シテ呉レル 午後出來上ル

雨が降タリヤンダリシテ居タ 午後飛行場ヲ見ル ヨイ、ト云フカラ安心シテ居タガ
ドーシテ、、ヨイ處ガ大キニ悪カッタ。オマケニ今日ハ追風デアッタ 明日ハハタシテドー
カ心配デアル。歸リニ劇場ニヨル。モ一ハネヲ降シテ出スバカリニナッテ居タ 手傳ッテ出
ス 大ロドコへ行ッタカ居ラス

夜ハヤクアンマ來ル

◆264ページ◆ 大正5(1916)年9月3日(日)

天気 晴

朝雨が降ッテ居タガドーヤラ晴レタ 風ハ昨日ノ通りデアッタ。氣ニシナガラ行ク 場ハ
マ逆クデアッタ 時間ノタツニツレテ少ニ横ニマワッテ來タ 機ノ準備ト場ノ準備ガ出來
上ガッタノガ十一時過ギ スグヤル。エンジンノ廻ス迄ニモエレベーターヤ方向舵ガペコ
ン、、シヨッタ 大分風ガアルナト思ッタ。スタートシタガ昇降舵ガ一向手ゴタエガナイ
ヨソーカト思ッタトタン舵ガキイテ後部ガ持ッ上ガタ ハジメ予ジメ計ッテ居イタ二百
歩ノ處迄來タ グット上ゲ舵ヲ引イタ 離陸ハシタ 第二第三ト上ゲタガアマリ上ガラ
ナイ 下ハスデニ凹ハゲシイ處デアル 前方ノ土堤ハ接近シタ 機ハ左ニカシガッタ グッ
ト一上ゲヤット土堤ハ飛ビ越シタ 傾ッタ翼ハ直ラナイト思フト機ハ急速ニ廻リ初メタ
モ一方向舵モエレロンモキカナイ 稲毛ニ於ケルトキト同様ダナトスグ思タ 直セル迄ヤ

レト方向柁ヲウント引ク トタンニドシント水ニブツツカッタ スグ發動機ヲ止メガソリン
タンクヲシメ高度計ヲハツシタ。ドコノ學生カボートヲヨセテ呉レタノデソレニ乗セテ貰フ
其内救護ニ來テ呉レタ 機ハドコモコワレナカッタ プロペラガ折レテ翼ガ例ノ水デ少シ折
レタ ソレハ右ノハシノ下デアッタ。一番ヨクコワレルヤツダ
入場者ハ今日ステキニ多カッタダケ氣ノ毒デワアッタ シカシ墜落ノ原因ト結果ハホブア
ノ風ト場所デハ予定シテ居タガモ少シ沖ニ迫ノガレハ助カ
(396ページへ続く)

◆▼265ページ◆▼ 大正5(1916)年9月4日(月)

天気 晴

暗イ頃カラ目ガ醒メテ眠レナイ 五時頃鳥飼ドコカラカ帰ツテ來テ床ニ入ッタ 七時
起 床 マグネット工合悪ルシ カンソーセシム 自分ハ場ニ機体修理ニ行ク タ方出來上ル。
晝頃鳥飼來 コンデンサーニ水ガ這入ツテ居タトノコト アハダメダト思ツタ。タ方取付
ケテ廻シテモ廻シテモプツトモ云ワナイ。九時頃夕食後又色々鳥飼氏モヤッタガツヒニ
ダメ 一方新聞社ノ方ハ延期ノ手續キヲサセタ 十一時帰宅。火花ガイツモノ三分ノ
一位デアッタ ソレモ出タリ出ナカッタリ。ソレカラ、コンデンサーヲ分解シタガグチ
ヤハハシテ居タ
一時半床ニ入ル 二時頃富松氏等。延期ニツキ想(ママ)談シテ居タ
鳥飼氏ハ殆ンドテツヤデアッタ

◆▼266ページ◆▼ 大正5(1916)年9月5日(火)

天気 晴

朝食後見舞ニ対スル返電ト手紙。鳥飼ニ時ニテ帰京ニ決ス 十七日迄延期 新聞社ヨ
リ電話デ鳥飼ガ行ツタ ナンデモ大分ゴタハシタトノコト 話シヲ一寸聞イテ見ルト鳥
飼ノ方ガ悪イラシイ 後社ト今井サント村尾サンヘ禮ヤラ詫ヤラニ行ツタ。社カラ言(マ
マ)稿ヲト云フノデ七枚バカリ書イタ 三日ノ飛行振リト五日ノ延期ノ詫ビデアルガ五
日ノ延期ハ初メカラ鳥飼ノ債(ママ)任デ自分トシテハ其辨明ヲ書クノハ馬鹿々々シカッ
タガ仕方ガナカッタ。三時頃三川ノアツケタ家ニ行キ仕事ヲ手傳フ シリンダーモ大分
サビテ居タ 四番ハコトニヒドカッタ 多分バルブガ開テ居タノデアロー リングモ一本ハ
開カナカッタ 昨日廻ラナクテ仕合セデアッタ アハマダ天ハ我レヲ捨テナイ
夜寝テカラ富松サンカラ廿五日貸シテ呉レトノ使ガ來タノデ電話デ聞合セテ持タセテ
ヤル

◆▼267ページ◆▼ 大正5(1916)年9月6日(水)

天気 雨後晴

墜落ト辨明ノ記事アル新聞各地へ發送ス

日記ヲツケ金銭出納ヲ整理シテ修理ニ行ク。十一時過ぎシンダーノ取付ケヲ終リ大口ヲ帰ヘス。夕方仕事ヲ終リテ七時帰宿。夕食中富松ヨリ電話アリ。後チニ行クトノコト。食後上野氏筑後新聞ヲ持参セラル。僕ノコトヲカレコレ書イテ居タ。不都合ト思ツタガ取ルニ足りナイ新聞デモアルシ殊ニ六自分ノ談トシテ新聞社デ勝手ニ色々ナコトヲ書イタノガ皆原因ニナツテ居タカラ今後ハ其點ヲ大ニ注意シナケレバナラナイト思タ。兎ニ角此ノ地へ來テ新聞記者ガ僕ニ會ツタコトモナイノニ僕ノ談ト云フノガ二日モ出デ居タ。ウマク行ケバ何ンデモナイモノガ一ツ間違ウトソンナコトモアゲ足ヲ取ラレル。後富松、山崎両氏來。上野氏帰ヘツタ後チ料亭ニ行ク。鳥飼昨日又伊田ノ手金ヲ取ツタトハ驚イタ人ダ。其他色々ナコトモ聞イタ。十二時過ぎ帰ル。

◆◆268ページ◆◆ 大正5(1916)年9月7日(木)

天気 晴

鳥飼ヨリ間違電報アリ。モシマグネトノコンデンサト取替ヘヨケレバスグアスタツトノコトナリシモ、ヨクナオシテ呉レル様返電ス。夕方新聞社ニ右通知ス。九時頃仕事ニ行ク。スツカリプレーンニモヤリカエタノガ四時頃。終ツタノデ飛行場ヲ見地ナラシシテ貰フ場所ヲ見テ帰ル。山口縣カラ藤政君來。日延ベニツヒテ相談サレタガ僕デハ何ントモ云エナカッタノデ鳥飼ノ云ツタ通りニシテ貰フヨリ外仕方ガナカッタ。

夜富松、西津、山崎諸氏ト夕食ヲ共ニス。富松氏ノ茶番デ大笑ヲシタガ茶番ノ内ニモ一クセアル目ツキデ少シノコトモユルガセニシナイ處ノアルノニハユダンモ何ニモ出來ナイ。アンマヲ取り眠ル。

◆◆269ページ◆◆ 大正5(1916)年9月8日(金)

天気 晴

河村氏ヨリ見舞ノ電報來。返事ス。

写真屋ニ行ク。丁度終止中デアッタ。帰宅後讀書。

富松氏ヨリ照(ママ)待ヲ受ケ行ク。藤政氏ヨリ三田尻へ連絡飛行ノ申込ミアリタルモコトワル。山崎氏ヨリ同ジク伊田ト三里バカリハナレタ處へ連クラ(ママ)ヲ申込マレタガヤハリコトワル。後チ伊田ヨリ三人來リタル由。晝食後三時頃帰宿。警察署へ挨拶ニ行ク。ピロンノ設計。グレゴアノカムノ角度ヲ製圖ス。夕方山崎氏來。伊田連ラク飛行ノコト。兎ニ角ソレデハ場所ヲ見ニ行キ場所ト機体ガヨクナツタトキハヤルト云フコトニシタ。明後日行クコトニス。後近ヅキニナリタイトノコトニ照(ママ)待サレタガ遊廓デアッタ。シカシ。

料理ヤヘ行ツタト同ジコトデアッタ 十一時過ギ帰り床ニ入ル

一人ハ新聞記者 アマリ人格ノ上ガラナイ才子振ツタメガネノ男。一人ハ炭坑主ノオイトカヤハリ金持ノドーラク息子ラシイタイプ 一人ハ何シノ爲カ田舎相撲ニ二人久留米ノ藝者ヲ一人トノ一行デアッタ

▲▼270ページ▲▼ 大正5(1916)年9月9日(土)

天気 晴

公恵、鶴代、河村、ヨリ手紙來 返信ス

發動機表ヲ「航空機」ヨリウツス。夜ニ及ブ

今朝鳥飼ヨリ電報來 アーマチヤ巻キ替ヘタル由 出發期アラタメテシラス由

夜二時五十分發ニテ伊田ヘ行クコトニ決ス

▲▼271ページ▲▼ 大正5(1916)年9月10日(日)

天気 晴後曇

二時五十分大牟田發 非常ニコンデ居タ

六時半折尾乗替 八時半伊田着 スグ場ヲ見ニ行ク。トテモヤレソーナ處デハナカッタガキメタモノ仕方ガナイトシテ実ニ五十円ヤ百円ナラ出シテモヤメタイ處デアッタ。事務所ニ帰り十一時再ビ車ニテ聯ラク飛行ノ行路ヲ見ルベク鳥尾崎ニ至ル山ニカゝッテ車ヲ捨テ峠ヲコス 大シタモノデハナカッタ 船尾山ト云フノガ海拔八百五十八尺ダカラ五百米モ上ガレバ樂ニ越セル訳デアル。山ヲコシテスグタ立ニ會フ 百姓家ニ入りテ約一時半(ママ)雨ヤドリヲナス 馬車迎ヘニ來テテ下ル 三時頃飯塚駅前八千代館ニ入り五時頃ヤット晝食ニ有リック

飯塚川原ノ着陸場ヲ見タガコレモ一方ロデヨクハナイガ伊田ヨリハマシデアッタ 後チ中島氏ノ代理トシテ坑長高野氏ニ料亭ニ呼バレ近ヅキニナル。飛行可能ヤ否ヤハ後チニ返事スルコトニシタ。

八時四十分飯塚發 帰途ニツク 車中山崎富松両氏ニ飛行当日ノ飛行ヲ操縦者ニ一任スルナラヤツテ見様ト云ツテ居イタ伊田ニテ二回飛行ノコトハソレヲヤル位ナラレンラクハコトハルノデ伊田ノ場所デ何回モヤリタクナイカラレンラクヲヤルノデアルコトト、報酬ヲ別ニ取ラナイコトヲ確ニ云ツテ居イタ ソシテ主催者ニヨク云ツテ貰フコトニシタ

▲▼272ページ▲▼ 大正5(1916)年9月11日(月)

天気 晴

八時起床 広島ノ山県ヨリ墓參ノ爲メ一度帰ヘシテ呉レトノコトニ其仕度ヲサセル 廿

五円ヤツタ 苦シカッタガ仕方アルマイ 鳥飼へ其旨打電ス。午後三時過ぎ今日立ツトヨアルナトノ返電アリタリ 中止セシム
終日製圖ヤラ發動機ノ研究。夜八時過ぎ終
夜山崎久留米へ帰ル スグ來ル由
北村、都筑、白戸ヨリ手紙來 返信ス
九時頃ヨリ浪六ノ當世觀ヲ讀ム 面白ク一時頃讀ミ終ル

▲▼273ページ▲▼ 大正5(1916)年9月12日(火)

天気 曇

終日曇リ十五夜ハダメダガ飛行日和デアッタ 九州へ來テ初メデアッタ
マグネトダメトノ電アリ 引續キ十七日延期出來ルカトノ意味ノ電來ル 富松ヲ呼ビ想(ママ)談シタガ新聞社へ行ケナイトノコトニ自カラ行キテ事情話シス。トニカク鳥飼ニ來ルヨー打電ス 夜シンピン買入レタアスタツトノ電來ル ヤット安心シタ
伊田ノ場所ガ悪イノデ此マ、稲毛へ帰ルコトガ出來レバ実ニヨイトモ思ツテモ見タガ出來ルトナレバコレモ又神ノ意ノアル處ナラン。ヤレル迄ヤルベシ。
余暇ニ今日ハガソリン發動機ヲ讀ム モー少シ高等ナ本ガホシイト思タ

▲▼274ページ▲▼ 大正5(1916)年9月13日(水)

天気 晴

今日モ朝ハドソリシテ居タ 終日飛行日和デアッタ
八時半出發シタトノ返事ガ來タ。大口出發シタカ聞イテヤツタガ何ントモ云ツテコナカッタ
吉ガ見舞モヨコサナイノデ大キニオコツテヤタ處ガ午後手紙ガ來タ 夜スグ返事ヲシテ居イタ。鶴代ニモ悲哀家ノ一説ヲ書イテ送ツテヤツタ
今日ハ七百馬力十五人乗十時間飛行ニタエル復式飛行機ノ設計ヲナシ製圖ヲ終ツタノハ夜デアッタ
長崎ノ飛行許可ニツキ人ガ來タ 許可書ト地圖ヲ見セテ貰ッタ。ソレハ午後米屋デバアツタ富松ト其人ト契約書ト取カワセヲシテ居ル様デアッタガ内要(ママ)ハ勿論見セナイシ見ナイ
白戸カラ手紙來 濱ノコトヲ書イテ居タノデ返事ヲシテ居イタ

▲▼275ページ▲▼ 大正5(1916)年9月14日(木)

天気 曇リ

受信河村妻君、鶴代、大口、

發信河村内、吉、鶴代、白戸、須原、玉井。午前中ニ手紙出シ後チ宇宙ヲ讀ム

二時半鳥飼氏來 ボツシユトスプリットドロフト云フ新式モノトノ二ツヲ持ッテ來タ 以前ノヤツモヤ、ヨクハナツテ居タノデ兎三角ツケテ見ルコトニシタ 其間ニ新シイ方ノ取付ヲツクツテ貰フコトニシテスグソレ、仕事ニカッタ。古イ方廻シテ見タガ、ガソリンヲサシタ時ダケバックスルノデ多分カーブレーターノノヅルガフサガッテ居ルコトダロト思ツタガモ、眞クラクナツテ居タノデ中止シテ帰ヘツタ 大野サンヤ社長サンモ來タ 終ル迄居タ。ボツシユノ方ガヤハリヨサソーデアッタ 値ハ五十円高イソーダ

◆◆276ページ◆◆ 大正5(1916)年9月15日(金)

天氣 雨

四時頃カラ目ガ醒メタ 五時半頃カラポツリ、音ガシ出シタ 終日降ッテ居タ爲メ早イコトハ出來ナカッタ。朝カーブレーターヲ取リソージヲシマダ大分潮ガ出タ。マグネトボツシユ取替ヘタ 一番スローシテヤツテ見ルトカ、ラズ中ノ處デ一度ニカ、ッタ スローデハナントモナイガ、少シ、レバーヲ引クト手ニコツ、トナニカ打ッヨ一ナ音ガ感ジルノデ中止シタ 鳥飼氏ノ意見デハプロペラノ坐金ヲヨクベメナイトキニ其シナコトガアッタ トノコトニソレヲベテ又ヤツタガ同ジデアッタ デオイルタンクヲハヅシ中ヲシラベタガ何ントモナイ シヤフトモ又ベタ 三度目ニハ一度ニカ、ッタ。今度ハマグネトハ中ノマ、デ進メズレバーダケデヤツタガ前ヨリハヨカッタ 中バ頃迄引クコトガ出來タガ中々力ハアッタ 然シソレ以上ニスルト又コツ、ハヤルノデ中止シタ

暗クナルシ雨ハヒドクナツタノデ帰ル 社長ヤ上野氏ハ今日モ熱心ニ來テ居タ デツヒデニモー一日延バシテ明日又試験シテ見タカッタノデ申込ムト心ヨク承知シテ呉レタ。マグネトガヨクナツタノデ點火ガ早クナツタノニ違イナイト思タ コツ、ハタカニノックダ 山県ハカーブレータート云ツタガ決シテシンナモノデハナイ 半分デモ力ハカナリアツタノデ安心シタ 大口ニ其由返スル

◆◆277ページ◆◆ 大正5(1916)年9月16日(土)

天氣 晴レ 夕立

晴レタガ正午頃夕立ガ一寸來タ 上野、平山、其外三井ノ技師モ來テ熱心ニ一日居タ

ボツシユノ、ノックト思タノハノックデハナカッタ。ナゼナレバ時々シカ起ラナカッタカラダノックナラ連續シナケレバナナイデ、カーブレータートケントーヲツケ又、プロペラシヤフトノユライトキニモソーナルトノコトニソレゾレ修理ヤラ洗滌ヤツタ ヤハリイケンアイノデツヒニ、マグネトヲスプリットドロフニ取リカヘタ處ヅクン、トコタエルノガ無ク

ナッタ 廻轉モ前ノトキハ千二百五十迄廻ッタ 牽引力モ八十キロカラ百キロニ進ンダガトキドキプツン、トミッススルノガクラクナル迄ヤッタガツヒニ直ラナカッタノデハツシテ持ツテ帰ヘタ 又延期ニツヒテ問題デアッタガ社長モ終日仕事振リヲ見テ居ルノデ、思ヒキツテ廿三日頃迄ノ内ニ完全飛行ヲヤルト云フコトニシテ發動表スルコトニシタ マツボツシユノ方ヲヤツテ居タガ右廻轉ヲ左廻轉ニ鳥飼氏ガ直シタガ配電盤ノ方ガキガツカナカッタ爲メ廻轉ガ早クナルトツギノヤツニ火ガ飛ンダラシイノデ直シタポンチモチヤント打ツテアッタ 多分ヨカロー モ一ツハ分解シタガキレル原因ガ分カラナカッタ

◆◆278ページ◆◆ 大正5(1916)年9月17日(日)

天気 晴

今日モ実ニ飛行日和デアッタ。ボツシユノ方ヲツケテヤツテ見ルト、ヨカッタ ヤハリ千二百廻ツテ居タ。トキドキ切レルノハ妙デアッタ 後チソレモ大變ヨクナッタ プロペラハピッチノ少ナイ分ト取替ヘテヤツテ見ルト廻轉ハカラナカッタガ千三百五十位ハ廻ツテ居タダロー 風モヨク強ク牽引力モ百二十ヲ下ラナカッタ カエタスグハヤタラニ切レタガ二度目ニハ殆ンド切レナカッタ。其時富松上野両氏ガ來テ居タ。日取り今迄三五七、デ失敗シタカラ十九日ハヤメテ廿日ニヤルコトニナッタソーダ 四時頃帰ル ガツカリシタ。同ジプロペラデカバーヲカケタノトカケナイノトデ十キロ牽引力ガ違ッタ 前面抵抗ノ大切ナコトガ今更ノヨーニ思エヘタ

五時頃カラ万田炭坑ヲ見セテ貰ヒニ行ッタ 地下九百呎ニ下ッタ時ハスズシカッタガエレベーターニ乗ッタトキハヨセバヨカッタト思ッタ 明ルイ内ニ帰レタ 夜夕食時ガタ馬車デユラレタノデヘンニナッタノデ中程デヨシタ 九時眠ル 十二時頃目ヲ醒シタガシキリニ腹ガナルノデ回復丸三十個ト梅干五個ヲ喰ツテシバラク宇宙ヲ讀ンデ居タ

鳥飼又電話ガカ、ッタトテ行ツタキリ帰ラナカッタ

◆◆279ページ◆◆ 大正5(1916)年9月18日(月)

天気 晴

今朝ハドシヨリトシテ居タガ後チ晴レテ終日又飛行日和デアッタ 明後日ドーカコンナ天気デホシイ

午前中又氣ニナルノデ發動機ヲ廻シテ見タ ヨカッタノデ今度ハホントーニ安心シタ。天吾レ保護ナサシメ給エ

今日ハ大口、吉、河村、竹島、宅、佐野、万田炭坑ノ禮、其他大分手紙ヲ出シタ 美顔術モヤツテ貰ッタ

夜上野氏來 所沢デタレガ落チテ死ンダトノコトデ新聞社デ聞イテ見ルト五期生ノ桶口嘉種中尉ダトノコトデアッタ。南無阿弥ナムアミダブツ
尾崎君モ櫓ヲ折ツテ中止シタトカ出テ居タ

十時頃ヨリ戎屋へ上野氏ト鳥飼君ト行ク 十二時前帰り床ニ入ル

◆▼280ページ◆▼ 大正5(1916)年9月19日(火)

天気 晴

今日モ飛行日和デアッタ 組立ヲ終ツテカラ久シクヤラナイノデタ方ヤツテ見様ト思フ内五時頃急ニ風ガ北ニ変ツテカナリ強ク丁度横向ヒニナツタノデ日ノ落チル迄待ツタガ中止シタ。明日モ風ノカワラナイ内ニヤラナケレバイケナイト思タ タ立ガ來タ 明日ハドーガ幸アレ明日ノ天候

夜上野、今井、宿ノ主人ト食事ヲ共ニス 余ハ御先キニ失礼シテ、ソフワーニヨリカッテ眠ツタ 大分蚊ニ喰ワレタ

◆▼281ページ◆▼ 大正5(1916)年9月20日(水)

天気 晴

五時頃ヨリ目醒ム 昨日ヨリ晴レ方ガ早カッタノデ風ノ出モ早カロート心配シタ 七時場ニ行ク 準備ヲ整エタ 風ハ丁度殆ンド無風ニナツタ 飛行時間ヲノバシテ呉レト云ツテ來タガ九時十五分飛揚シタ 思タヨリ滑走ハ長ガカッタ 上ガルノモオソカッタ 今日ハドー云フモノガ飛ブ前カラ飛ブ間モ氣ガアセツテ仕方ガナカッタ 大牟田町モ二度訪問シテ廿分間デ下リタ。ヤットムネガスイタ 着陸スルト學生ガ伊藤ウマイゾ、、、萬歳ハサカンデアッタ メタルヲ貰フ。帰宅 美顔術ヲヤツテ貰フ。ナントナク氣ノ合フ妻君デアッタ 今日ハ宅ノ上ニ旗モ出シテ居イテ呉レタソーダ

午後大牟田ト万田炭坑ト約十五分間飛行。ヤハリ時々切レルノガイヤダ ソシテプロペラノセイダガ、バイブレーションガ大変多イ

夜戎屋デ新聞社ノ照(ママ)待ヲ受ケル 社長ガ嬉(ママ)ンデ随分ヨッパラッタ 今日ハ大分嬉シ泣キニナイタ人モアッタトカ 同情ヲ謝ス 後吉川氏ノ二次會ニ行キ十時帰宅 一寸一寢入シテ二時五十分出發 上野氏宿ノモノ全部ト藝者二名バカリニ戎屋ノ女中大勢デ見送ツテ呉レタ

◆▼282ページ◆▼ 大正5(1916)年9月21日(木)

天気 晴

八時門司着 朝食後九時四十五分ノ連絡船ニテ下ノ関着 スグ十時十五分ニテ發ス

三田尻駅ニテ一人出迎へ人ガアッタ 此前ノ九時五十分デ來ルツモリデ実業團體カラ警察署長モ出迎テ呉レタソーダ 氣ノ毒ヲシタガ決(ママ)局僕ハヒソカニ嬉(ママ)ンダソレデモ十人バカリ來テ居タ 自動車ガ居タ 小供ガ見物人ガ随分多カッタ 花火モ上ガッタ

広瀬館ニ入り休息後場ヲ見ニ行ク 附近ノ家ノ多イノニ驚イタ。他ノ場所ト思タガダメトノコトニ直線ヲ直百ニ三十歩増シテヤルコトニシタ 風ノ向キハ今日ハ丁度ヨカッタ。ナンダカ、無事ニヤレソーナ氣ガダン、トシテ來タ

帰宅後久シ振リデ◎付ノ日記ヲ書イタ 手紙ヲ書キ始メタガドーモ氣ガ乗ラナカッタ夜大口出發ノ電報ガ來タ 飯田ノ公惠カラ手紙ガ來タ。此前大牟田カラ出シタ手紙ヲ見ナカッタトノコト

◆▼283ページ◆▼ 大正5(1916)年9月22日(金)

天気 雨

夜中ノ二時半頃カラ雨ガ降り出シ終日ヤツテ居タ

二人ハ荷物ノ運搬ニ行ク 自分ハ九時頃會場ニ行キ組立ヲナス 十二時帰ル。今日ハ小學校ガ一團體來タニ過ギナカッタソーダ

朝大牟田ノ諸氏ヘ礼狀ト大坂ノ宅吉、鶴代、公惠ニ手紙出ス。

午後減ビ行ク宇宙ヲ買ツテ讀ム。マルデ専門ノ天文學ヲ讀ム様デ面白クナカッタ

◆▼284ページ◆▼ 大正5(1916)年9月23日(土)

天気 雨

今日モ又雨 展覽會ハアマリハヤラナカッタラシイ。毛利子爵ノ令嬢ガ來タトカ

今日モ手紙ヲ大分カイタ。小山カラ心配シテタ方長々シイ電報ガ來タノデ、廿五日ワスレヌ、シンパイスルマニマグネトデモオクレト云ツテヤッタ 又兄ニハ兄デ依頼ノ電報ヲ打ッタ

今日二度飛行場ノ設備ヲ見ニ行ッタ

マグネトハ發動機ハ初動ニ二三回一寸キレルガアトハ切レナクナッタトノコトデアッタ

◆▼285ページ◆▼ 大正5(1916)年9月24日(日)

天気 雨

朝雨ガ降ツテ居タガ後上ガッタガ時々ハ降ッタ 夕方ヨリ夜ニカケテ風ガ強カッタ

手紙ヲ書イタリ本ヲ讀ンダリ写真ヲウツシタリシタ。午後カラ又展覽會ヲヤツテ呉レトテ一回ヤッタ

夜アンマヲ取ツタ

鳥飼正午ノ汽車デ小郡ニ行ツタ 帰ルト云テ帰ラナカッタ

◆▼286ページ▲▼ 大正5(1916)年9月25日(月)

天気 雨

今日モ東風デ雨。又展覽会ヲヤツテ呉レトテヤツタ

お晝前松原社長ト生田ト二人デ來テ、柳井ヘ連絡飛行ヲヤツテ呉レト云ツテ來タ。日延ニナツタノデ損ダトカ何ンダカンダト、ウルサカッタガ事ハツタ 又明日ノ飛行ヲ今頃カラ場所ヲ見ニ行テヨシヤルコトガ出來テモ準備ガ出來ソーナ訳ガナイノデアル。実ニ馬鹿氣タ人達デアツタ

滅ビ行ク宇宙ト人類ヲ讀ム内不圖天体飛行ト云フコトヲ思ヒツヒテ手記シテ居イタタ方写真ガ出來テ來タ。イヅレモ予想通りヨク写ツテ居タ 此處モ先ヅ無事終リソーダガ夜ニ入ツテカラ明日ヤルヤラヌデ大分モメテ居タ。實際ハ金ガナイ爲メラシカッタアンマヲ取り眠ル

(397ページへ続く)

◆▼287ページ▲▼ 大正5(1916)年9月26日(火)

天気 晴

お晝頃一寸カミナリガナツタガソータイ上天気デアツタ 觀覽者ハ随分來タソーダ昨夜二時頃ノ返事ガナイノデ今朝鳥飼ガ行ツタガマダニキライ様デアツタニモカ、ワラズ火花ヲ上ゲテ居タ。十二時迄ト云フ約束ガ人ハ來タリシタガ一時ニナツテモ二時ニナツテモダメナノデ二時半鳥飼警察ヘ事情ヲ述ベニ行ツタ 三時半頃迄マダ火花ヲ上ゲテ居タ 四時頃藤枝ト松原ガ來タ 朝家が困ルト云ツテ居タ。聞イテ見ルト入場料ヲ取ツテ入レタノダソーナ 飛行機ノナイ飛行場ニ觀覽者ノ金ヲ取ツテ入レル如キハ不都合千万デアツタ ソシテ今ニナツテ困ツタト云ツタ處デソレハ昨夜來鳥飼ガ数回ニ注意シテアツタ筈ナノデアツタ。

夜藤枝ヲ呼ンデ鳥飼ガ最後ノ談判ヲシテ居タ間ニ土地ノ実業協会ノ人ガ三百円持ツテ來タソーダガ其時ノ鳥飼ハ決シテ、強行ナ態度ニ出ナカッタトイ云フガハタシテドーカ心配デナラナイ 實際自分ノ人格問題ニモカ、ウル訳デ駅長モソシナコトヲ云ツテ居タ 主催者ガ金ヲ返セズ無料デー一回飛バウト僕ハ云ツタガ鳥飼ガ兎三角マカセテ居タトノコトニソースルコトニシタ。

談判ノ決(ママ)果明朝九時迄ニ約束ヲハタサナケレバ機ヲ持テ出發スルコトニナツタ

◆▼288ページ▲▼ 大正5(1916)年9月27日(水)

天気 晴

九時半ニナツテモ来ナイノデ刑事モ来テ居タガイヨ、ダメトアキラメ出發ノ仕度ニカ、ロートスル處へ三百円持ツテヤツテ来タ。スグ運搬ニカ、ラセタガ場ニ這入ッタノガ十一時 ソレカラ大急ギデ組ンデ一時出來上リスグ飛バソト思フト、又客足ガ少ナイカラトノ主催者カラ待ツテ呉レト來タガ僕モ一寸シヤクニサワッタノデーニ言云ヒカケタガマワリニ人ガ居ルノデ中止シタ 鳥飼ハ例ニヨツテ大キナ声デドナツテ居タガ之レデモ又工合ガ悪イ 松原カラハ毛利サンノ來ル迄待ツテ來(ママ)レトノコトニ承知シテヤツタ一時半來ル スグ飛揚ス 百歩余滑走シタガ離陸シテカラハ馬鹿ニ早ク力ハ上リヨイ氣ガシタ 十五分バカリヤツタ ボールプランデムネガイタクナッタノハ初メテバアッタ 毛利家ヨリ置時計モ貰フ 握手モシタ 子爵ト力之レデモ此ノ土地デハ殿様デアッタノダ大ニ敬意ヲ拂ツテ居ク 後チ挨拶ニ出タ時モ坐敷ニ通シテ面會シタ 當主ハ少シ足りナイトノ話ノ通りニ見受ケラレタガ弟君ヲシイノハ平民的ナ若様ヲシイ人デ写真ヲイタヅラシマシタトテ見セラレタ ヨクウツツテ居タ

夜二時ニテ出發ス 當地音楽協會カラ三百円出シタトノコト 協會ニ感謝ス ネクタイヲ呉レタ

◆▼289ページ◆▼ 大正5(1916)年9月28日(木)

天気 晴

五時下ノ関着 三人ハ荷物ニツケ七時十五分ニテ門司發 鳥飼例ノ女ニ會フベク僕ヲジヤミスル模様ナノデ僕ハ汽車デ行クコトニシ車中切符ヲカエテ貰ツテ鳥栖デ分カレタ 早技デアトノ急行ニ乗り替ヘタ 三人モソレニ居タノデ三時過ギデアッタガ晝食ヲ皆デ食堂デアッタ 一時間程デ諫早着 駅ニ荷物ノコトヲタノミ、五時十五分發デ出發 七時六分島原着 人見君向エテ來レタ。今度ハ旅館ガ別々トノコト 自分ハ外エツレタレタガ坐敷ガナカッタノデ車屋へ富松等ト同宿シタ

◆▼290ページ◆▼ 大正5(1916)年9月29日(金)

天気 晴

朝カラ北風ガ吹イテ居タ 午後ハ馬鹿ニツヨクナッタ 十時頃飛行場ヲ見ニ行ッタ 巾広イ處デ百歩 セマイ處デ五十歩 直線三百歩 北ニ山アリ南ニ家アリ家迄五百歩 西ハ電線東ガ海。ソシテ北、又ハ北西ノ風ハ飛行不可能ト云フコトヲ主催者側ニノベテ居イタ。大牟田デ聞イタトハ大違イ 巾一丁アツテ長サハ二百間 風ハイツモ南ノ風ナドト丸ルキリ、ウソデアッタ 帰途新聞社、中學校、警察へ寄ツタガドコモ好遇デハナカツタ 後新聞社長來ル 日延ベヲスルト、ドートカコウトカ云ツテ居タ 場所ヲソレナラ變ヘナクテハ仕方ガナイト云フコトデ予定地ヲ見ニ行ッタ 五時頃デアッタ 先ヅ場内ニ

旗ヲ等間カクニ置イテ研究シタガドーシテモダメ。河原ノ様ナノヲ見ニ行ツタ ソコ北風ガツヨクナケレバ出來ナイ處デアッタ。トビガ三四羽飛ンデ居タ スグソバニ降りタリ色々ナコトヲシタ

鳥飼午後來ル。山口縣、毛利、玉井、梅田、広瀬、勝屋、鶴代、吉、宅、等エ手紙出ス

◆▼291ページ◆▼ 大正5(1916)年9月30日(土)

天気 晴

九時頃場へ行き風ヲ計ル 北ガ少シ東ニヨツテ居タノデコレナラ飛ベナイカギリデナイト思ツタ 午後四時頃行ツタ 北ガ少シ西ニナツテ居タ コレデハドーシテモ飛ベナカッタ 鳥飼富松、山形等ト別ノ飛行場ヲ見ニ行ク 即ハ昨日自分ノシラベテ居イタ處モシ最ヤラナケレバナライ様ナラコ、デヤルコトニ決ス
宮口へ十一円五錢送金ス 黒田如水ヲ買ヒ讀ム 夜十一時迄

◆▼294ページ◆▼ 大正5(1916)年10月1日(日)

天気 曇リ

イヨ、ハ心配ノ日ニナツタ 三時頃カラ少シモ眠レナカッタ 風ハヤハリ北カラアッタ トテモ午前中ハダメト思ヒナガラ八時過ギ仕度ヲシテ場ニ行ツタ 人ハ随分多イ方デアッタ 十時過ギ満潮ト共ニ風ガ少シ東ニ廻ッタノデスグヤッタ ソレデモ山ニ大分スイツケラレタガ無事切ヌケテ十五六分飛デ降りタ。ヤハリキレタ。ソレデモ一安心スンダ。宿ニ帰ル 三時頃出テ行ツタ。午前十同様デアッタ 四時過ギヤッタ 丁度場ト南風楼トノ間ノ海ノ上迄クルト發動機ガバラ、ト云ヒ出シタ 幸ヒ汐ハ引イテ居タガ海ニ六降リラレソーモナカッタ(ママ)。不圖前ニ畑ガアルノデスグ少シ左廻リヲシナガラソレヘ降ロシタ。ドモモ(ママ)壊レナカッタノハ幸デアッタ 調べテ見ルト、カムノブランシヤーノローラーノピン止メガ折レテヌケタ
(398ページへ続く)

◆▼295ページ◆▼ 大正5(1916)年10月2日(月)

天気 晴

河村氏ヨリ風月ノ菓子ガ來タ 皆二分ケル 午前中昨日ノ禮廻リヲナス 漁師町ヲ尋ネルニ六随分コマッタ。マグネトハ鳥飼ハ大丈夫ト云ツテ居タガヤハリコンデンサーガダメニナツテ居タ。三時場ニ行キ分解ノ手傳ヒヲナス 原因ハ昨日前ト同ジデアッタ タバ一番ノサクシヨンノ分ガ今度ハ三番ノサクシヨンノ分ガヤッタノデアッタ。昨夜カラ色々考エタガモードーモアノ機モ此上ヤルコトハ実ニ氣ガ進マナイ 何ンダカ大牟田ノ出來事以

來神ノ意ニソムイタコトヲシテ居ル様ナ氣ガシテ仕方ガナカッタ 此上ヤレバドンナコト
ガ持上ガルカシレナイ 機体ガコワレル様ナ氣ガドーシテモ取レナイノデ鳥飼ニ云ツタガ
ドーモ困ルトシテシキリニ、ヤルコトヲススメタガ、ツヒニ富松ヲ呼ンデ話ダケサセタガ之
又コマルノ一點張ゼ最(ママ)非ヤツテ呉レト云フガ僕ハツルギ號ニ変ツテヤツテ貰フト云ツ
テモ鳥飼ガソレヲ、ウケガワナイ

夜富松ハ大口ヲ呼ンデ大口カラ頼マレテ來タガヤル氣ニナレナカッタ。大口十円取ラレ
タト云フノデ十円ヤツタ

◆▼296ページ◆▼ 大正5(1916)年10月3日(火)

天気 晴

午前手紙ヲ書キ初メタガドーモ書ケナカッタ

カーブレータヲソージス

カムノブランジャーヲ全部ハツシタル處外ニ二本迄スデニピンガヌケ居タリ

夕方取附ヲ終ル ラジエーターダケノコル

長崎富松ヨリ大口ニ話シタル處ニヨレバ一回ダケニテモイカラヤツテ呉レトノコト 伊
田ハ續(ママ)任ヲ持ツテヤラナイコトニスルト話シソレナラヨイガ鳥飼ヲ以テ念ヲ押スコト
ニスベク鳥飼ニ話シタルニ富松ヨリ何等ノ話モナカリシ由 交渉セシメタル二日ノモノヲ
二回ヅヽ二日ニスルカ一日二回ニシテ呉レトノコト 伊田モ、持ツテ行クダケハ持ツテ行ッ
テ風ノ模様ニヨツテハ絶対ニヤラナイトノコト ソレナラ、前モ同ジコトダ 伊田風ガヨケ
レバヤラナケレバナラナイト云フ意味デ長崎トテ一日二回飛行ガ當リ前モ二日ノ飛行
ハ先方デ勝手ニ極メタコトナノダ
(400ページへ続く)

◆▼297ページ◆▼ 大正5(1916)年10月4日(水)

天気 晴

昨日帰ル筈ノ政代ガマダイタ 実ニ愛ラシイ女デアッタ。散髪ニ行ク。十時頃帰ル 高
見氏來訪セラレ目鏡ヲ貰フ 氏ヤ実ニ技術最モ熱心ナル人ラシク見受ケラレタリ
十一時五十分發ニテ島原ヲ立ツ。政代、静江宿ノ主人見送りニ來ル サラバ島原
三時長崎着 富松、浦川、人見氏モ迎ヘラレ西川ニ入ルヤスグ自分ト人見氏ト田口氏
(當地ノ主催者浦川ノ親戚)ニ到リ同氏ト五人ニテ黒田(在郷中尉)、西島男爵、要塞
師(ママ)令官、ケン兵隊長ヲ訪問ス 西島中将黒田中尉ハ會ツタガ他ハマダ役所カラ帰
ッテ居ラレナカッタ 西島閣下ハマルデ村長様トヨリ見エズ依(ママ)服等モヨゴレタルモノ
ヲ着ケテ居ラレタ。

鶴代、幸子、北村、吉ヘ手紙出ス 少シ非(ママ)觀的ナモノノミニナッタ 驚クコトデアロ

1
▲▼298ページ▲▼ 大正5(1916)年10月5日(木)

天気 晴

日記ヲツケ飛行場ヲ見ニ行ク 場ハヨカッタ 山ハ近イガ風ノ方向モヨカッタ 氣ガ晴レタタトシタ スグ引替ヘシタ。有志ノ進メデ諏訪神社ニ参拝 帰途富松、人見氏ト写真ヲ写シテ帰ル 晝食後場ニ行キ翼ノ修理ヲナス
夕方新聞記者ヲ招クト云フノデ早ク帰ツタガ明日ニナツタトノコトデ四新聞ヲ代表シ一人ダケ來ルカラ話ヲシテヤツテ貰ヒタイトノコト 風呂ニ入ロトスル處ヘヤツテ來タ一時半バカリ話ノ後食事ヲ共ニシタノデツヒニ風呂ニ這入レナカッタ
アンマヲ取ツテ眠ル

▲▼299ページ▲▼ 大正5(1916)年10月6日(金)

天気 晴風強シ

手紙ヲ書コウト思タガ書ケナカッタ。十時頃場ニ行キ仕事ヲ初メタ 此方ガ氣ガ晴レテヨカッタ

二時頃黒田氏來 共ニ要塞司令部ニ行ク 二百米突以上上ガラナイコト ソレハ陸軍省ヨリノ命令デアルコト モシ二百米カラノ高度デ兵備ガ見エテモ人ニ語ラヌコト。新聞記者ニモ二百米突以下ニ書クコト等ノ注意ヲ受ケタ。當日要塞司令部高等官一同ヨリ呉レルト云フ金メダルヲ見セテ貰ツタ。今迄ノ内デ一番ヨカッタ

夕方組立出來發動機ヲ廻シテ見タ。少シ廻ス内ダン、ヨクナツテシカモ一寸モ切レナカッタ 安心ノ度ハ少シ増シテ來タ 二十分程ヤツタ

七時帰宿 湯ニモ入ラズスグ一カニ行ツタ 新聞社ヲ四名招待シタノダソーナ 自分ガ主人役ニナツテ居ルノデ帰りハ十一時過ギタ アマリ樂デハナカッタ

▲▼300ページ▲▼ 大正5(1916)年10月7日(土)

天気 晴

六時前起キタ。お祭ノ太鼓ヤ金デ四時前カラ一向眠レナカッタ。手紙ヲ書コウト思ツタガ頭ガ変デ書ケナカッタ 九時頃写真ヲ写スト云フノデ場ヘ人見君ト行ツタ 終ルトスグ帰ツテ來タ。ソレカラ一寢入ヤツタガ目ヲツブルダケデ眠レナカッタ。三時頃迄ソレデモ横ニナツテ居タ。後ち場ニ行キ發動機ヲ廻シテ見タ 廻轉數ヲ計ルト千二百迄デアッタ。夜(マ)タ山縣ガ千五百回ト云フノヲ僕ガ千四百以下ト云フトデカケヲヤツタガツヒニ勝ツタワケダ

夜坪川來ル 所沢ノ大西屋ノ倅 随分大キクナッテ居タ マサカ長崎デ會フトハ思ワナ
カッタガ… 洋食ヲ喰ヒニ助手モ皆一所ニ行ツタ

◆◆301ページ◆◆ 大正5(1916)年10月8日(日)

天気 晴

時事 夜諏訪神社へ助手一同ヲツレテお札参リニ行ツタ

風ハ静カ 天祐々々 何ンダカウマク行キソーナ氣持ガシタ 坪川、主人ノ倅ヲ連レテ
八時頃來ル 九時頃共ニ場ニ行ク 十一時 廿五分ヤル 新ラシプロペラ牽引力足ラズ
直線ニテ着陸 古イノト取替ヘ飛揚 風ハ北北東三四米ニ過ギナカッタガドーモ機ヲ下
ロサレルノデ正面ノ家ヲサケ川ヲサカノボッタ タチマチ廿米位フット上ガルカト思ト又
下ガル 傾シガル曲ガル中々イソガシカッタ 其爲少シモ高度ヲ取ルコトガ出來ナカッタ
少シ眼界ノ開ケタ處迄行タガヤハリダメナノデ、引返シ觀測シテ居イタ通り西側ノ山
ニソーテ飛行シテクルトコレハ又ズン、上昇シテシマッタ。ユラレルコトハハリ同ジデアッ
タ 場上デ三四回円ヲ畫イテ八分間デ着陸シタ 降ル時モ大ニコマッタ 自分ガ飛行機
ニ乗リ初メテ最初ノ惡氣流デアッタ。

十二時帰宿。一寸眠ロート思タガツヒニ眠レナカッタ 午後大口帰ツテ來タ 聞クトヤ
ハリタ方飛揚スルト云ツテ入場者ヲ入レテ居ルトノコト スグ富松ヲ呼ビニヤツテ鳥飼ト
話ヲサセタガドーヤラ二人デ島原以來ノペテンラシカッタ。シカシ争テモツマラナイカラ
五時過ギヤツテ朝トハ返(ママ)対デビクトモ動カナカッタ 風モ北北西ニ轉ジテ居タ 十
五分開飛行シタ 西島閣下ガスグ走ツテ來テ握手シテ大ニホメラレタ 外国人モ大分
握手シタ。

伊田ヨリ人來ル 唐津先キニ伊田アトナラヤルコトニ要求シタ

◆◆302ページ◆◆ 大正5(1916)年10月9日(月)

天気 晴

今朝ハ廿枚バカリ手紙ヤハガキヲ書イタ 島原以後ノ狀況ヲシラセルノヤ島原ヘノ礼状
デアッタ

九時頃坪川來 オドリヲ見セルトノコロ二十時頃カラ一所ニ行ツタ。お晝モ御馳走ニナッ
タ ソコハ、アダコ様デ、招待サレタ内ハ石鹼製造業者デアッタ 五ツ六ツ見テ一時頃帰
ヘタ シバラク眠ロート思テル處ヘ、伊田ノ人ガ二人來テ寢ラレナカッタガ後一寸ヤツタ
風ガ大分出テ來タ

四時場ニ行ク 昨日ヨリ大分吹イテ居タ 五時半頃ヤツタ 風ハ北北西デアッタノデ地
形上昨日ノ午前ノ様ナコトハアルマイト思ツタ ハタシテ昨日ノ午前ヨリ風ハツヨカッタガ
樂デアッタ 市街モ一寸訪問シテ無事終ル

ブレンダケオロシテ主催者ノ歡迎會ニ行ク 十一時帰ル 黒田氏嬉(ママン)デ大變ヨツテ居タ 今日ハ西島閣下モ軍服デ來ラレ写真ヲ写シタ。明日日野氏ノ作ラレタ發動機ヲ見テ呉レトノコトデアッタ

▲▼303ページ▲▼ 大正5(1916)年10月10日(火)

天気 晴

朝食後黒田氏へ行き同道シテ西島閣下、在郷軍人會長、司令部、大隊、衛戍分院、憲兵隊ヲ礼廻リナシ帰宿 黒田氏ト晝食ヲ共ニス 後チ新聞社ト田口氏ニ行キ帰宿後出發準備ヲナス。

富松金足ラズ鳥飼ニ六十円ばかり借りタトノコト

夜十時五十五分發ニテ出發。料理屋大會ニ出席セル藝者多クスコブル込ミ合ヒタリ

▲▼304ページ▲▼ 大正5(1916)年10月11日(水)

天気 晴

五時博多着 消毒セラレテ出タ時ハサムカッタ スグ前ノ亀屋ト云フ小イサナ宿ニ入リスグ寢タ 十時起床 朝食後散髪ニ行キ一時頃ヨリ車ニテ中島氏ヲ訪フ 不在 母堂ニ會フ 非常ニ嬉(ママン)デ呉レタ 妻君ガ出來テ居タ 太ツタ不格合(ママン)ダガ貞シユクラシカッタ タ食ヲ中島氏ト共ニシタ 同氏ハ四時頃一寸帰ツテスグ又杜へ出ラレタ。ゼヒ泊マレト云ワレタガ野心ガアッタノデツヒニ辭シテ活動ヲ見ニ行キ十時頃車ニテ新柳町ニ行ク。昔ノ記憶ハヨビカエサレタ スグ清元楼ニ上ル 藝者ヲ上ゲ二時頃床ニ入

▲▼305ページ▲▼ 大正5(1916)年10月12日(木)

天気 雨

晴元楼デ流連

▲▼306ページ▲▼ 大正5(1916)年10月13日(金)

天気 雨

帰ロート思ツタガ又雨ガ降ツテ居タノデ出ルノガイヤニナッタ 朝食兼晝食後国民飛行ノ内カラ書拔ヲヤッタ。終日本ヲ讀ム。女ノ身ノ上バナシヤ藝者時代ノノロケヤ、水上ノ時ノ話ヲ聞イタ 生レハ廣島名ハ佐富ミヤ子 父ハ少ニシテナク六才ニシテ又母二分カレハ才デ小倉ノ某貸席ニ養女トナリ十二才デ半玉トシテ出テ十六才デ水上、十七

オデコヒヲ知り其コヒナラズ、博多ニ來リ藝者ヲナシ居タルモ後娼妓トナル

◆▼307ページ◆▼ 大正5(1916)年10月14日(土)

天気 晴

六時半起床 日記ヲツケ茶ヲノミ八時過ギ車デ出發 九時發午後一時伊田着 山県
が見ニ來テ居タ スグ前ノ宿ニ入ル 四軒アル内デ最モキタナイ小サイイヤナ宿デアッ
タ。飯塚連絡飛行ノ順(ママ)備モ出來切符ヲ賣テ居ルトノコト ソレニツヒテ鳥飼ト主
催者ト今少シ談判ガアツタトノコト。兎ニ角富松乃至山崎カ、タレカ績(ママ)任者ヲ呼
ビヨセルベク鳥飼モ人見モ電報ヲ打ツテ居タ 自分ハ大牟田飛行後連絡不可能ヲ富松
ニ説イタコトダケヲ話シテ居ク。富松カラ人見ニ宛テタ手紙見テ呉レトノコトニタ方見
タ 僕ガ承認シタ様ナコトヲ書イテ居タ ソシテ僕ニ二百円報酬ヲ與ヘルトカ云フコトモ
書イテアツタ 好意ハ謝スガイヤナコトデアル

三時頃場ヲ見ニ行ツタ 風ハオダヤカデ何ンダカ無事ニ終リソーナ氣ガシタ

◆▼308ページ◆▼ 大正5(1916)年10月15日(日)

天気 晴レ少雨

午前中飛行日和 午後風西ニナリテ雨模様トナリタ方降ル

午後中島清、田中、高野三氏來 連絡不可能問題ニ付キ高野ハ自分等ハ富松トグルニ
ナツテゴマカシタルモノナリトノ、シリ飛行機ヲ押サヘルトテ席ヲケツテ立チ去リタリ

坑長ナドト云フモノモトヨリ論ズルニ足ルベシ人間ニアラズ ナスマ、ニ捨居ク 鳥飼氏警
察ヘ一通リ事情ヲ通シ居ク爲メ出テ行ク 後チ御洩來リ、飯塚ダケ別ニヤツテ呉レトノ
コト。

鳥飼ヨリモ話シアリ 事公ニナリテハやはり自分ノ名ヲケガスモノニ付ヤルコトニ決ス

中島田中二氏來 先キノ悪言ヲ取消シ鳥飼ト新ラタニ三百円ニテ契約ス 三百円ハ富
松ガ四百円ニテ契約シタル内百円取り居ルニ付其殘金ナリ。

夜富松來ル タゞ平アヤマリニアヤマルノミナリキ

雨ヤミ星出ズ

◆▼309ページ◆▼ 大正5(1916)年10月16日(月)

天気 晴

九時頃迄ハステキナ天氣デアツタガ金ノ取引ガスマナカッタノデヤレナカッタ 出來タラ
十一時頃デアツタ 十時頃ヨリ西風ガ場ノ横ノ松林ヲ越シテ吹キ初メタ ドーモ奇驗
(ママ)ナノデ契約書ニモトヅヒテ飛行中止ノコトヲ主催者ニ申込ンダ 一時頃ニナルト

郡(ママ)衆ハワイ、サワイデ整シキレナクナツタ 自分八十時頃カラスデニ出来ナイカラ
群衆ニ對スル手當ヲシテ呉レト頼ンデアッタノガ出来ナカタノデツヒニ二時頃機ハ勿論
破壊スルツモリデ落ちル場所等モアラカジメ定メテ人間ヲヨクサセテ三時頃ヤツタ 横
風ハカナリ強ク吹イテ居タ 約七八米ハアッタデアロー 離陸スルトスグ横ニナガサレ、
右ニカシガツテケイカイノ旗ヲナギタオシテ進ンダ 凹所デハゲン、下ガツタ 電燈線ハ
ハツシテアッタノデ飛ビ越セタ スグ前ニ鉄道線路ト電線ガアッタ 思ヒキテ上ゲタノガ
キイタト左ニカシガツテ又下ガツタ 下ニハ見物ガ左右ニゲマヨツテ居タ 落シテハ大變
ト思ヒハゼノ木アル丘陵ガ横タツテ居タ コデモ傾ツタマ、上ゲタガウマク聞イテ飛ビ
越スコトガ出ルト同時ニ風向ニナツタノデゲン、機ハ上ガツタガ左右ニユレルコト言語ニツ
キタ スデニ墜落
(400ページへ続く)

▲▼310ページ▲▼ 大正5(1916)年10月17日(火)

天気 晴

主催者ノ要求デ十二時頃漸ク飛ブ 風ハナカッタガ氣流ノハゲシイコト伊田ニ劣ラナイ
之レガ伊田程風ガアッタヲヨリ以上デアッタロー 六分程デ帰ツタ 主催者ヨリ一ツ飯
塚美雪ノ藝妓十一名ヨリ一ツ花環ヲ貰フ 午後四時半頃行ク 五時過ぎ日西山ニ落
ントスル時ヤツタ 午後カナリ風ガ吹イテ居タガ飛ンデスグヤミ初メテ樂ナ飛行デアッ
タ 十二分 着陸ノ際少シ變ダト思タガ降りテシマッタ 少シ左へ廻ッテ凹所ニノメルト
ソ三材木ガアッタ ソレデヤツト止マッタ 後部ノ櫓ガポッキリ折レタ 左ノエレント例
ノメンスパーガヤラレタ 見物ニケガナカタノハ何ヨリ 少シ追風ハ追風デアッタ 場所
ガ何分百五十歩ノ八十歩位シカナイ處へ見物ガ這入ッテ居ルノダカラ心配ハ心配デア
ッタガ先ヅ九州ニ於ケル關所ガ済ンデ安心シタ
夜十二時迄宴会 人ノ出ガ多カッタガタゞ見バカリデ主催者ハ○損ダガ大變嬉(ママ)
ンデ呉レタ 大ニ氣持ヨカッタ

▲▼311ページ▲▼ 大正5(1916)年10月18日(水)

天気 晴

朝食後日記ヲツケ方附ヲナス 麻生太吉氏使ヒ來リ 飛行後援ノ爲メトシテ金一封ヲ
コサレタ 僕ハ初メツチャタビノ川上氏ト間違ヘテ居タノデ有難ク頂戴シタガ後チ土地
ノ官僚デ貴族院議員ダトノコトデ少々恐縮シタ スグ禮ニ行ツタ 立派ナ家デアッタ
二名バカリ來客ガアッタガ特ニ應接室通サレ面接シテ厚意ヲ謝シスグ停車場ニ行キ十
一時十二分發ニテ唐津へ出發シタ 麻生氏ヨリノ金八百円デアッタ 僕ガ飛行界ニ身ヲ
投ジテヨリ初メテ見ル眞ノ後援者デアッタ

人見君二五円寸志トシテ與ヘル 佐賀道同行ス 浦川ハ行ク由 過日來頼マレテ居タ子息ノコト何分自分ノヤセウデデ五六人ノ助手ヲ養生スルコトハ到底不可能ナノデヨロシクコトハル様タノム。

車中稲毛へ帰ッテカラノ方針ニツヒテ色々工夫シタガ第一ニお吉ト上總屋自宅ノ居宅助手ノマカナイ方法デアッタ

午後七時唐津着 當地コレラ發生ノ爲メ警察デユルサズマダ広告モシテナイトノコトドーナルコトカシタ

夜アンマヲ取り十二時頃眠ル

▲▼312ページ▲▼ 大正5(1916)年10月19日(木)

天気 晴

五時前カラ一向眠レナカッタ 朝食後散髪ニ行ッタ後チ中島清、高野、三淵、丸山、其他飯塚伊田ノ飛行関係者一同ト、お吉、河村、西田園吉、浦川、小林臨作、鶴代へ手紙出シタ

後チ雑誌、書籍ヲ讀ム 夜夕食後七時半床ニ入ル アンマヲ取り眠ル

▲▼313ページ▲▼ 大正5(1916)年10月20日(金)

天気 晴

昨夜藤枝カラ鳥飼へ場所ヨイゼヒタノムト云フ電報ガ宇部カラ來テ居タノデ今朝尋ネルトマタ返事ヲヤラナイトノコトニ止メテ貰フ様ニ云ッテ居イタ ソシテ加藤へ三十円ヲ送り白戸、他一通手紙ヲ書キ十時前カラ見物ニ出タ 鳥飼ガアマリホメ過ギタセイカ公園モ虹ノ松原モ佐用姫岩モ一寸モヨクナカッタ 洋食デ晝食後近松寺ヲ見帰宅後巡回飛行記ヲ書キ初メタ タ方迄四枚ばかり書イタ。夕刻藤枝カラ電報ガ來タ ○

出來タ二十八日飛バストノコト 鳥飼ハ午後久留米へ行ッテ留都(マ)デアッタ 所ヲ見ルト別府ニ行ッテ居ル處ヲ見ルト想像シタ通り鳥飼ガ何ニカ一昨日云ッテヤッタニチガイナカッタ。スグワレ行カヌト返電シテヤロート思テ書イタガサテ何處ニ居ルカサツパリ判ラナイノデ鳥飼ニ電話ヲカケルコトニシテヤメタ

夜ムラク阪二川柳ノ落語ヲ聞キニ行ク 久シ振リデ面白カッタ

▲▼314ページ▲▼ 大正5(1916)年10月21日(土)

天気 晴

阿部カラ手紙ガ來タ 二十円無心シテ來タノデ十円ダケ送ッテヤル 鶴代カラモ手紙ガ來タ 実ハ長崎カラ出シタ手紙ヲ見タ日カラ床ニツヒテ大分悪ルカッタノデアノ電報

ヲ打ツタトノコト 幸子君カラモソエ手紙ガアッタ 少シカワイソーニナツタノデ金デモ送ツテヤローカト思タガアマリ見ラレハト思テ繪葉書ト写真ダケ送ツテヤツタ

五年巡回飛行記ヲ書ク タ方迄二出來上ガツタガ失敗談ガ一ツモナイノデ島原ノヲ書クコトニシタ

夕食後タノマレタ繪ヲ書クベク絹地ヲ棒ニ張タ タ藤枝カラ又電報ガ來タ 鳥飼ヘアテティツクルカトノコト。何ンダカ一人デキメテ居ルラシイ。朝出シタワレソノチ行ケヌノ電報マダ見ナイラシイノデ郵便局ニ頼ンダ 夜九時頃其返事トシテワケアルゼヒタノムト云フ意味ノ電報ガ來タ 明朝キタイロウキウゼヒライネンニサレタシト打電スルコトニシタ

河村氏ヨリ來電 手紙受取リタル由 明日ヨリ大學ニ入院ル趣キ大坂ヘ知セルトノコト

◆◆315ページ◆◆ 大正5(1916)年10月22日(日)

天気 晴

今日ハ終日飛行日和デアッタ 然シ少シ照リ過ギタ 朝早ク昨夜ノ返電ヲヤル お晝前又ヘンデキルゼヒタノムト云フ電報ガ來タ 少シ意味ハワカラナイガ今朝ノ電報ヲ見テ居ナイニ違イナイノデ又郵便局ヘ號外ヲ頼ミニ行ツタ

終日巡回飛行記ヲ修正補足シテホンマノ記ニ記シタ 皆ハ今日ハ機ノ修理ヲヤツタ。夜女中ガ活動ヘ連レテ行ツテ呉レトテトードー皆シテ行ツタ。十二時帰ルト又藤枝カラ電報ガ來テ居タ 準備出來居ルヤレネバタレカヒトリヤレタノムスグヘ。タレカヒトリヤレノ意味ガ分カラナイガ上野氏ノ話デハ九州デハ來テ呉レトノコトヲヤレト云フ由。人ヲ馬鹿ニシテ居ルモノヲ勝手ニ準備シテヤレネバタレカ來テ呉レト云ツテ何シノ爲メニ行クノカ 大ニシヤクニサワツタ。明朝ゼツタイニオコトワリスルト打電スルコトニシタガ第一藤枝ハ自分ノ宿ヲ一度モ知ラセナイノデアタリ前ナラ返事ノ必要ハナイノデアッタ 今日当地ノ飛行イヨゝ、五日ニキマツタ 鳥飼久留米ヨリ電話ニテコレカラ帰ルトノコトデアッタノデ藤枝ノ話ハ帰ツテカラスツモリデ話サナカッタラツヒニ帰ラナカッタ

◆◆316ページ◆◆ 大正5(1916)年10月23日(月)

天気 晴

今日モ飛行日和デアッタ 宅、白戸、其他二三手紙ヲ出ス 久太郎兄ノ子供ガ出來タ由 女トノコト 五円贈ル

朝早ク昨日ノ電報ヲ打タセタ 午後鳥飼帰ル 藤枝小倉ヨリ電報ヨコス アキラメタト見エル

鳥飼明朝帰京シタシトノコト 夜飛行前日四百七十円上野氏ヨリ受取ル様同氏立會ノモトニ云テ居ク 其内四百円位ノ分七十円ノ内八円五十錢大口、十五円程富松貸

分受取ル筈

夜アンヲ取ル 七時半床二入

◆◆317ページ◆◆ 大正5(1916)年10月24日(火)

天気 晴曇雨

アタ、カイ気狂天氣デアッタ 鳥飼八時十分ニ帰京ス 見送ッテ宿ニ帰ヘルト、キン姉ヨリ河村氏危篤ノ電報アリタリ 早速見舞ヲ出ス。白戸志賀ニモ知ラセル
切抜整理写真整理ヲナス

三時頃ウメキトクアイタイマツトノ電アリ ヤムヲ得ズ帰京スルコトニ決ス 六時半發デ出發 福岡へ十時四十分着 スグ清元樓へ行ク 此間カラ來ル來ナイデ大分カケヲシタリ、ヒヤカサレタリシタトノコト。太陽氣ニ、二時頃終ル

四時半頃唐津へ藤枝來 別府ノ云訳ケヲスル爲メト僕ニ事情ヲウツタエニ來タトノコト
丁度河村氏ノ電報ガアツタノデソレヲ云ヒワケニスルカラ貸シテ呉レトノコトニ後程僕等ノ方へ迷惑ノカ、ラナイ様クレ、注意シテ貸シタ マダ金ハ一度モ取テ居ナイシ決シテオカシナコトハナイトノコトデアッタ 今夜ハ泊ラセテ出發シタ

◆◆318ページ◆◆ 大正5(1916)年10月25日(水)

天気 曇リ

ヒョイト目ヲサマスト柱時計ガ正二五時ヲサシテ居 サーシマッタ、ト思ツタガ兎ニ角自分ノ時計ヲ見ルト四時半。ヨシトスグ女ヲオコシ身仕度ヲシテ車ニ飛ビノツタ。五分前ニ駅ニツイタ ヤレ、

七時半門司着 下ノ関ニ渡リテ伊藤旅館ニテ朝食 パンニビールハ実ニウマカッタ。九時五十分發ニテ出發 広島萬春園へ打電シタガ広島駅ニタレモ居ナカッタ 鳥飼サテハ大牟田へ立寄タカモ知レヌゾ。夜十一時過ギ大坂通過 帰京ノコトハガキニテ通知ス

◆◆319ページ◆◆ 大正5(1916)年10月26日(木)

天気 曇リ

濱松デ洗面 お母サンニ濱納豆ヲ求ム。一時四十三分新橋下車 今朝電報デ知ラセテ居イタノデ幸ドンガ來テ居タ 荷物ヲ幸ドンニ宅ヘモタセ、スグ病院ニ行ク 途中鳥飼ニ寄タガヤハリマダ帰ラナカッタ

病院ニハお母サンガ來ラレタ。ハツ橋ノ方モ居ラレタ 間モナク帰ラレタ。河村氏ハ此前見タヨリ又ヤセテ居タ シカシソー急ニ死ニソーニハ思エナカッタ 廿二日ニ入院シテ廿三四日頃ガ最モハナハダシク、注射ヲ四五本シタトノコト。今日ハ終日工合ガヨクナカッタ

ト見エテ少シ楽ニナツタラ僕ニ何ニカ話シタイコトガアルトノコト 何レ後事ノ事ト思フカラお母サンニ一切心配シナイ様ニツツテ呉レト頼ンデ居ク 其夜ハ僕モソコニ居ルコトニシタ 白戸ガ僕ノ電報デタヅネテ來タトノコト 看病人ヲ一人ツケテ歸ヘタ由。

夜十一時頃ウツ、トスルトヨビサマサレタ ドーモ変ンダカラ麻布ト神田へ電話ヲカケテ呉レトノコト。スグカケル 十二時頃迄ニ神田ノ御母サンモ春子君モ見エタ 其内ダンダン静カニナツタ 寢苦シイコトハ苦シイラシカッタ 神田ノお父サンモ見エタ 花子君ハ又工合ガ悪イトノコトデアッタ

▲▼320ページ▲▼ 大正5(1916)年10月27日(金)

天気 曇リ

朝僕等龍岡樓ニ宿ヲ取ル 白戸トお吉へ拾持参ノコト打電ス 白戸、今朝上京シタトノコト 行チガイニナル

食後眠ル 十一時半目ヲ醒シ晝食後病院ニ行 大變ヨサソウナリ。ソレデ一寸稲毛へ歸リタクナツタノデ二時四十分ノ列車デ行ツタ。此間シリンダーガ壊レタトテ随分ヒドクナツテ居タ 七時半白戸歸リ來ル。大ニ閉口ダトノコト ソレニチガイナカッタ。終列車デ歸ルノデユックリ話シモシテ居レナカッタ 明日白戸上京スル由。十一時宿ニ歸ツタ 病人大變ヨイカラ今夜ハコナクトモヨイトノ電話ガアッタトノコト ソレナラ久シ振リデ泊ツテ來レバヨカッタ

▲▼321ページ▲▼ 大正5(1916)年10月28日(土)

天気 曇リ

今日ハ病院ト宿ヲ四五回往復シタ

午後病院ニ居ルトキ白戸來 共ニ帰宿ス 白戸ノ方針ナドヲ聞ク タ方歸ヘル 六時過ギ阿部來 タ食ヲ共ニシ五円シテヤラレタ 原稿料ヲ呉レタラ貰ツテヨイカト云フカラヤルトシタ。

後チ病院ニ行ク 今夜ハアヤシイトノコトデ兼助サンモ宿ルト云フノデ自分等モお母サント神田ノ御母サント三人デ泊ツタ 病室ニハ面會謝絶ノ札ヲ張ツテ入レナイ。自分等モ別室ニ居タガ寒イノデヤリ切レズ、二時頃看護婦室へ行ツタ

▲▼322ページ▲▼ 大正5(1916)年10月29日(日)

天気 雨

六時帰宿 朝食後病院ニ電話ヲカケルト今日中ハ大丈夫トノコトニ八時頃カラお母サント松屋へ行き拾ト下着、羽織、襦袢ト外ニお母サンニ十二円五十銭ノ米流ヲ一反ト

神田ノお母サント春子サンニ半エリ一本ツ、求メ丁度八十円バカリデアッタ。お母サンハ
帰宿 自分ハ鳥飼ニ行ク 丁度昨日帰タ處ダトノコト。一寸話シノ後チ帰稲 一時着ク。
白戸ニ會ヒ眠ロート思ツテ床ニツヒタガ中々眠レナカッタ。三時頃ツヒニ起キテシマッタ
夜夕食後白戸ノ宅デ十時頃迄遊ビ今夜ハ稲毛デ寢ルコトニシタ 汐時ガ随分氣ニカ、
テ電報ガ來ヤシナイカト幾度モ思ツタ

▲▼323ページ▲▼ 大正5(1916)年10月30日(月)

天気 雨

九時頃漸ク起床 久シ振リデ浅間様ニ参拝 御禮ヤラ將來ノ幸運ヲ祈リテ朝食ヲ喰
フ。後チ白戸ニ行ク 二十円国元へ送金スル分白戸ニ渡ス 後チ大工ニ會フ 手金百円
ヲ渡シテ近日より仕事ニカハル様頼ム ドーセ大坂ノ方ハ事情ヲ話スヨリ外ナイ 何ニ
シテモ足リナイノデアリ手金ニ出シタ金ハアトデ出サナクトモヨイノダカラ結局ハ同ジコ
トニナル訳ケダ

三時十五分發ニテ出發 格納庫地所ノ事白戸ニ頼ンデ居ク 又車中海氣館ノ番頭ニ
會ツタノデ、タノンデ居ク。

宿ニ歸ルト丁度鳥飼氏ガ來テ居タ 夕食ヲ共ニス 鳥飼用事ガ濟ンダトノコトニ共ニテ
九州へ行ツテモヨイトノコトニ行ツテ貰フコトニシタ。

後チ病院ニ一寸行ク 豊ドシ來 オーバーノ寸法ヲ取ル

▲▼324ページ▲▼ 大正5(1916)年10月31日(火)

天気 曇リ

七時起床 朝食 病院 歸リテ加藤ニ行ク 皆不在 麻布ニ行ク 不在 豊川様ニ参拝
帰途買物ヲナス 一時帰宿 加藤倅來ル 共ニ晝食。巢鴨ノ夫人ト律子君來 タ方帰
ル 加藤夜歸ル 夕食後病院ニイコマゴヒニ行ク。オトロエタレドモ本人ハ僕ノ歸ル迄キッ
ト直ルト云ツテ居タ 握手シテ二時間バカリノ後帰宿 後仕度ヲト、ノエタ お吉ニ小
包ヲ出ス 手紙モ

▲▼327ページ▲▼ 大正5(1916)年11月1日(水)

天気 雨

來ルト云ツタ加藤ハツヒニ來ナカッタ

八時半ノ最大ニフルスグ横ニナッタ 静岡辺カラムネガ悪ルクナツテ來タ 夜九時大坂
着 姉ト兄ガ來テ居タ 姉ハ公惠カラ贈ツテ來タハチノ子ト鹽混(マ)布ト氷砂糖ヲ呉
レタ

竹島へモ宜シク状況ヲツタエル様又モーターヲ事ツケタ 佐渡島へモソレニハ僕ノ写真ト
記事ガアツタカラ、大坂ヲ發スルト又寢タ

◆▼328ページ◆▼ 大正5(1916)年11月2日(木)

天気 晴

時事 所沢久留米間第一日無事四機姫路着

柳井津デ顔ヲ洗ヒ九時下ノ関着 聯絡船ニ乗ロート思ト向フニ獵銃ヲカタニシテ行ク
人ガドー見テモ鳥飼ラシカッタ。船ニ這入ルトヤハリソウデアッタ 藤枝モ一所デアッタ
ソコデ藤枝ト僕ハ別府ノ場所ヲ見ニ行コトニシ鳥飼ニ先キエ唐津ニ行ツテ貰フ。十一時過
ギノ汽車ニナリ三時別府着 児島屋ニ入り入浴後児島屋主人ニ會フ。後チ宿屋組合
員ト藤枝ト三人デ場所ヲ先ヅ海岸カラ見ル 一ヶ所トモダメ 山ニ行ク ヤハリダメ
藤枝ニ其旨ヲツゲテ不圖見ルト横ニ屋敷アトデ横五六十歩 長サ百四五十歩ノ平地
ガ二段ニナツテ居タ 色々ハカッタ處トデモ充分デハナイガ之レヨリ外ナカッタ コヽデヤ
ルコトニシタ。帰宿後藤枝ニ、唐津無事終了ノ上來ルコト 飛行一日限り二回ノコトヲ
名刺ニ書イテ渡シ七時ノ列車ニテ十二時四十四分博多着 清元楼ニ入ル 何ンダカ客
ガアツタ様ダガ名代ヲ出シテ來タラシカッタ

◆▼329ページ◆▼ 大正5(1916)年11月3日(金)

天気 曇

昨夜カラ何ンダカ話シガアルヽト云ツテ居イテドーモ云ヒニクガツテ居タガイロヽ尋
ネテ見ルトドーヤラ妊娠シタラシイトノコト ドーシテ分カルカト云フト前回流連シタ
時丁度月経ノ時デアツタガイツモ五日アルノガ三日デパツタリナクナツタ上ニ廿八日ニ
突然薄桃色ノ月経ガアツタカラ前ニ一度小供ヲ産ンダ女ダケニソレニチガイナイノデ
心配デタマラナイトノコト。然シソレヲコトゴトク信ズルコトハ無論出來ナイガドーモ誠
ラシイ デー一夜ゴトニ変ル客ヲ取ル女ノコトダカラ自分ハソレヲ信ジハシナイガシカシコヽ
デ一度小供ヲ産メバ二百円バカリ借金ガ増ストノコト。ソレハソウアリソーナコト モー
一年半デ年ノ明ケルモノガ又二年三年ト永クナルノハ、ソレガ自分ノモノデナイニシテ
モカワイソーナノデ何ントカ心配シテヤルト云ツテ居イタ

二時二十分デ立トト思ツタガツヒヽトメラレテ又今夜モ泊ルコトニシタ

夜名金ヲ一所ニ見ニ行ク 今年ノ様ニ女ノタヽル年ハ実ニメヅラシイ 女郎ダカラ大丈
夫ト思エバ又コンナ問題ガ持チ上ガツタニ驚クヨリ外ナカッタ

夕方箱崎ノ八幡様へ参詣シタ

◆▼330ページ◆▼ 大正5(1916)年11月4日(土)

天気 曇風ツヨシ

五時半起床 六時二十五分發ニテ出發 昨夜買ツタ名金ヲヨム アヤウク鳥栖ヲ乗リ
コス處デアッタ 十一時着 晝食 手紙ヲ見ル。公惠ガ嫁ニ行ケトハケ間敷ク云ワレルノ
デ困ツテ居ル シイテト云エバ家出スルナドトカイテアッタ ア、又女難。松本カラハ樂シ
テ待ツテ居ルカラ最(ママ)非帰リニヨツテ呉レトノコト

晝食後場ニ行ク 風八十米突アッタ 明日ガ氣ツカワレタ 組立ヲ手ツダウ。場所ニ対ス
ル自信ガ出ナカッタ 頭ヲナヤマス
夜アンマヲ取り早く床ニ入ル

◆◆331ページ◆◆ 大正5(1916)年11月5日(日)

天気 曇少雨風ツヨシ

四時頃カラ幾度モ空ヲ見タガ風ツヨク時々パラ、雨モアツタノデ五時頃延期ヲ申込
ン

十時頃午後ヤレマシヨーカートノコトニ鳥飼ト場ニ行ク ドーモ自信ガツカナイ上ニお吉カ
ラ今日ハニリンボーダカラ成ベク延バシテ貰テ下サイト云ツテ來タノデツヒニヤメルコト
ニシタ 主催者ノ方デモ七日ニ延期ヲ發表シタトノコト ヤット安心シテ帰宅 手紙ノ
返事ヲ十本バカリ書イタ

夜河村カラ葬式九日ニスルアナタノ心イカバトノ電報ガ來タノデ結構何事モ聞カズニセ
ラレタシ又延期ノコトモ云ツテヤッタ

◆◆332ページ◆◆ 大正5(1916)年11月6日(月)

天気 晴風ツヨシ

今日ハ一天ヌグータ様ニナツタガ風ハハリ強カッタ 午後ハ益々強ク吹イタ

朝一度午後一度場ニ行ツタ。又別ニ着陸場ヲ地ナラシサセタ 色々考ヘタガドーモ永ク
ヤスンダセイデ心配シスギルニスギナイコトガワカッタ。シカシ出發ハ場外ノ方ガドーモ安
全ニ思ワレタ

夜アンマヲ取ル

草賀カラ手紙ガ來タ 東京へ來テ麻布ニブラツイテ居ルトノコト
博多ノミヤカラ手紙ガ來タ 帰りニ話ガアルカラ寄ツテ呉レトノコト

◆◆333ページ◆◆ 大正5(1916)年11月7日(火)

天気 晴風ナシ

モー成行キニマカスツモリデ天気モ見ナカッタ 意外ニヨクナツテ終日風静カデアッタ

夕方ナドハ無風デアッタ 十一時半午前ノ飛行ヲナス 北風弱ク心配シタ程デナク離陸シタ 島ノ附近デ大分ユラレタ ドーモ永ク休ムト飛ンデ居デモ変ナ氣持ダ 漸ク八分位デ向風ニ降リタガ急角度デ降シタノデ速力ツキスギ海ニスベリコンダ スグ引上げタガ波ヲカブッタダケデアッタノデ試運轉シタガ何ントモナカッタ
二度アルコトハ三度アルトハ実ニヨク云ツタコトデアッタ モーコレデ大丈夫ダロー
午後八四時頃ヤッタ ソシテ海ノ方カラ低ク波状ヲヤリナガラ着陸シタガ凸所デ大分飛ビ上ガッタガ無事デアッタ 先ヅ先ヅ目出度シ。
夜土産物ヲ十三円五十錢カトコカッタ

▲▼334ページ▲▼ 大正5(1916)年11月8日(水)

天気 曇後雨

六時頃カラ本ヲヨンダ 七時過ぎ起床 昨夜別府カラ人來リ契約出來タ 七百円ダガ内百円ヲ藤枝ニ 五十円ヲ上野ニ 百円ヲ鳥飼ニヤルトアトハヤリ四百五十円ノ手取りニナツテシマッタ
九時五十分ニテ出發ス 生アタタカイ頭痛スルイヤナ天氣デアッタ
出發前ニおミヤヘ五円封入シテ立寄レナイコトヲ云ツテヤッタ 長崎ノ写真屋モ別府ヘ送ル様云ツテヤル
九時別府着 湯ニ入リアンマヲ取ル

▲▼335ページ▲▼ 大正5(1916)年11月9日(木)

天気 雨

終日ヨク降ツタ 午後カラ大分風ガ出タノデ上ガルカト思ワレタ
夜八時頃風ダト思ツタラ地震デアッタ
午前中、新聞ヲ發送ス。海野氏ヨリ手紙來 ホールスカットニツキ西田小山ト僕ノ關係ヲ聞キタイトノコト イツレスグ帰ルカラト手紙ヲ出シタ ドーモ変ナ氣ガスルゾ…
鶴代、お吉ニ手紙ヲ出ス。唐津へ礼状モ出シタ。午後散髪ニ行キ美顔術ヲヤッタ。夕方皆ト洋食ヲ喰ヒニ行ク

▲▼336ページ▲▼ 大正5(1916)年11月10日(金)

天気 雨

終日降ツタ 夕方ヤンダガ風ハゲシカッタ 明日ハ風ダロー
浪六ノ八軒長屋ヲ讀ム
ガソリンガナク、大分カラ取ヨセタ分ガ間違テ居ルラシイノデ、大口ニ直方ヘ買ヒニヤル

明日三時デナケレバ帰レナイ
夜アンマヲ取り眠ル
太陽モ讀ム

◆◆337ページ◆◆ 大正5(1916)年11月11日(土)

天気 晴曇雨

今日ハ北北西ノ風十米突余 山頂ヲツミタル黒雲ハムク、トサイゲンナク湧キ出シテ
晴レテハ曇リ曇リテハ晴レ雨又間カツ的二降テ格納庫二時頃漸ク出來タレドモ天幕乗
セラレズ、雨ノ中ニ組立ヲ初ム 夕方一回説明ヲナシテ五時過ギ帰ル
大口八時半ニテ漸ク帰ル

長崎ノ一カヨリ書留ニテ十月五日ト六日ノ請求書ガ來タ 合計三十四円余 余リノ
意外ニ驚イタ 富松ノ仕事ニ違イナイガ不都合千万ナヤツデアル。アンマヲ取り床ニ入
ル

◆◆338ページ◆◆ 大正5(1916)年11月12日(日)

天気 晴風ナシ

一天雲ナク風又ナシ 天祐ヲ謝シテ場ニ行ク

十時過ギ準備ト、ノフ 十一時前飛行ス 風少シ横追ヒナレドモ微風ナレバ出發ス 無
事飛揚 上昇力ヤ、アリ 右廻シテ別府町ヲ訪問シ引替ヘシテ上場ヲ約二週(マ)後平
凡ニ着陸 少シ行キ過ギ今二三尺デ前方ノ石垣ニブツカル處 先ヅ、目出度シ
人ハ随分多カッタト見エテ車デ帰レナカッタ 午後町ハ大分賑ツタラシカッタ

今朝一カヘ取調ヘテ返スル旨云ヒヤリ午後田口、浦川両氏ニ當時ノ勘定ガ如何ナルコト
ニナリ居ルヤ聞合ス

◆◆339ページ◆◆ 大正5(1916)年11月13日(月)

天気 晴

好晴無風 天祐々々トヨロコビ午前中新機ノ考案ヲナシ晝食後場ニ行ク 一時過ギヨ
リ風吹ク ヤ、ツヨクナル 北風ナリ サ、ヤムカ吹クカト随分心配シタガツヒ三時過
ギヤルコトニシタ 場所セマク風ニ向ツテ最モツヨキトキニ出發シタノデニ三十歩デ離陸
シタ 大分ユラレタ 大キク右廻リシツ、別府町ヲ三度訪問シテ着陸シタ 昨日ニコリテ
今日ハスグ入口ニ降リタ 先ヅ之レデ安心 イヨ、無事凱旋ガ出來ルコトニナツタ
夜議事堂デ立食ノ宴アリ 出席者約五十余名

▲▼340ページ▲▼ 大正5(1916)年11月14日(火)

天気 晴

今日ハ朝カラ少シダガ風ガアッタ ア、天祐々々

四月以来ノ總勘定ヲナス 夜十時出來上ル

總收入七千九百貳十三円

總支出七千三百九十九円六十六銭

内最高額ガ助手ノ手當デアッタ。其ツギガ機体ノ費用 其ツギガ借金ノ返金デアッタ
之レデ來年度ノ方針ヲ立テルコトガ出來ル。二十二カ所デ八千円足ラズハ實ニ心細イ
訳ダ。

午後一寸禮廻ニ行キ鳥飼山形、井上六七時二分ニテ帰ヘス

藤枝ノ宿料ハゴタ、シテ居タ様ダガ、鳥飼ガ百円ヤル筈ノヤツヲヤツテ居ラナカッタノ
デ其内カラヤッタラシイ ソレニシテモ少々不都合ダ

▲▼341ページ▲▼ 大正5(1916)年11月15日(水)

天気 曇リ

七時半頃ヨリ大口ト車デ地獄メグリヲシタ 柴石デ湯瀧ニウタレ晝食後二時過ギ帰
宿シタ 見物中親父ニ一度遊ビニヨソト思ツタ

午後カラ夜ニカケ上野、濱口両氏來リタ食ヲ共ニス

風ツヨク浪高ク海岸ニハ三丈ニ余ル水柱ガ立ッテ居タ 明日ヲ氣ツカウ

アンマヲ取り七時半頃床ニツク

▲▼342ページ▲▼ 大正5(1916)年11月16日(木)

天気 曇リ

曇ッテハ居タガ風静カデアッタ 午前朝食前ニ新聞ヲ送り荷造リヲナシ散髪ニ行ツタガ

今日ハ休ミデアッタ。新アラビヤナイトヲ求メテ帰ル 大口ハ學校ヘ講話ニ行ツタ 十

二時過ギ帰ッテ來タ スグ晝食後出發シタ 昨日ノ余波尚高カッタ。商船會社ノ支配

人ガ船内ニ出迎ヘテ二等ニカ、ワラズ一等室ニ案内セラレタ

武田外義氏ハ海岸迄見送ラレタ 二時半頃出發シタ 夕食ハイナ氣持ガシテ喰ナカ
ッタ

▲▼343ページ▲▼ 大正5(1916)年11月17日(金)

天気 雨

五時頃カラ目ガサメタ ツヒニ眠レナカッタ

外ハ雨ガ降ッテ居タ 六時高松着 午後一時半神戸着 三時半大坂着 佐野ガ來テ居タ スグ車ヲ見ニヤッタガ一台シカ居ナカッタ。ソレニ荷物ヲ持タセ自分等ハ電車デ歸ル ビッシヨリヌレタ タ食後佐野ヲ歸ヘス 後チ竹島ニ行ク

◆▼344ページ◆▼ 大正5(1916)年11月18日(土)

天気 晴

今日發動機ヲ出シテ二人出發サセルツモリノ處仲仕ガナクテハツヒニ行ケナカッタ 鶴代カラ電報ガ來テ居タノデ返ヲ出ス 西田ヘマグネト送ルカ貰ヒニ行コカト打電シタガ返事ガナカッタ

午後白津來ル 海野氏會ヒタシトノコト 明朝行クコトニキメタ。野島氏ガ八十間四面ノ處デ飛ンダトテ自マンシテ居タ

◆▼345ページ◆▼ 大正5(1916)年11月19日(日)

天気 晴

今日ハ飛行日和デアッタ 陸軍ノ四機久留米發 一機二日市附近着 三機広島着 温泉ニ行キ後チ發動機ヲ出荷シ佐渡島ニ行キ歸 海野氏ヲ訪フ 野島氏モ居合ハス 海野氏ノ條件ハ武石ノ爲メニ水戸デ吊飛行ト發動機ガ全々使用出來ナクナッタ場合ニハ武石ノ家ニ残シテ貰ヒタイトノコト ソレニツキ朝日ノ小西ト云フ人ニ一度會ッテホシイトノコトニ明日午後行ク約束ヲシタ タ方野島氏來 九時半頃迄居テ色々談話シタ。二人ハ九時二十分發ニテ歸京サセタ

◆▼346ページ◆▼ 大正5(1916)年11月20日(月)

天気 晴

六時十五分起床 温泉ニ行キ

學校ニ行ク 午後校長初メ修學旅行ニテ不在 名刺ヲ預ケテ歸ル

銀細工屋ヘ銀鉾ヲ注文シ判屋ヘ実印ヲ注文シ、谷町五丁目岩田商店ニテスラストベヤリングヲ見ル 径時五分ニテ十円ナリ

晝食後海野氏ヲ訪フ 野島氏モ居合ワス 海野氏ト朝日ニ行キ大分待ッテ營業課長小西氏ニ會フ。モ少シ具体的ノ話ガアルシラント思タラナンノ、タゞ照會(ママ)サレタノミデスグ歸ッタ

晝ノビールガ頭ヲ痛メテヨワッタ

夜兄カラ竹島氏へ千円ダケ云ツテ呉レタガアトハドーモ云ヒニクカッタトテオジヤン 兄ト姉トデナントカシテヤルトノコトデアッタ

▲▼347ページ▲▼ 大正5(1916)年11月21日(火)

天気 晴

六時十五分起床 温泉ニ行キ今日ハ公園ヲ散歩シテ帰ル 朝食後竹島ニ行ク 何シモ云ワナイ内ニ千円ノ小切手ヲ渡サレタ。今日ハタレモ居ナイノデ大ニシヤベロート思ツタガヤハリ云エナカッタ。佐々木サンニ行キ帰ツテ写真屋へ行テ居ル處へ上野氏來 晝食ヲハリ重ニ行キ二十円貸ス 東京へ行ク由

午後住友ニテ千円受取り佐渡島ニ行キ河野君ニ會フ 銅パイプヲ尋ネテ貰ツタガ薄イノハナカッタ。西店ニ行キワイヤヲ尋ネサセタガ油引ハドコモナカッタ。ヤキバ入リト云フノガヤ、ヨカッタガ貰八円トハ銅ヨリ高イ値ダ

一度帰リタ食後西店ニ行キ二時間バカリ小主人ト談話 春ハ大ニ寄附金ヲ集メタヲヨカロートノ話ガアッタ

シヤツヲ貰ツテ帰途土井玉ノ助ニ會フ。久シ振リデ岡本正ノ助君ヲ訪ヒ風呂ニ這入ル處ヲ引張り出シテ、一寸會食 昔話シノ後チ分カレテ坂町ヲノゾキ帰ル

▲▼348ページ▲▼ 大正5(1916)年11月22日(水)

天気 晴

六時起床 日記、精算

九時過ギ學校ニ行ク 初メテ校長ニ會フ 中々シツカリシタ校長デアッタ 十一時頃二年以上ノ生徒ニ講演ヲナス 晝帰宅食後、区役所へ印監(ママ)届ケニ行キ、結コン届モ書イテ貰フ 思ツタヨリカンタンナモノデ稲毛デ届ケレバヨイノデアッタ。夕方帰ル。夕食ハ延次郎君ニイロハノ馳走ニナル。夜借用証ト賣渡シ書ヲ書キ荷造リヲナス 吉田勝來 大キナ話ヲ吹飛シテ帰ツタ 何シニシテモ目下五十萬ノ財産ハアルトノコト

今日海野君ヲ訪ヒ山田行キヲ談ズ 一所ニ行クカオソクトモ明バン行クトノコトデ待合ス約束ヲシタ

▲▼349ページ▲▼ 大正5(1916)年11月23日(木)

天気 晴

五時半起床 兄ニ判ヲ貰ヒ五十円貸ス 父ニモ判ヲ貰ヒ竹島ニ行キ借用証ト賣渡証ヲ渡シ八時半大坂發ニテ出發 喜代市兄送ツテ呉レル 松下ヘスッポン代宅ニ置ク

午後一時半山田着 高千穂館ニ入り少時眠リ後チ入浴後外宮参拝 宇仁館ノ弟ニ會

フ 西田氏ニ今夜面會ヲ依頼シ、内宮ニ参拝 帰宅 夕食中海野氏來 夜西田氏來ル。
結局マグネト返ス約速(ママ)デ貰ッテ行クコトニ決ス。海野氏へモ道具返スコトニシソノカ
ワリ、プレッシャータンクヲ貰フコトニ話シ出來ル
アンヲ取り十一時眠ル

◆◆350ページ◆◆ 大正5(1916)年11月24日(金)

天気 曇リ

昨夜マグネト持ッテ來ナカッタノデ殊(ママ)ンド一時間毎ニ目ガサメタ 四時起床 五
時電話ヲカケル 十五分前ニ漸ク持ッテ來タ 預リ証ヲ渡シ大急ギニ汽車ニ乗ル 名古
屋十時半着。伊東屋ニ行き、土産トシテ半エリニツ買ヒ晝食 正午發 八時十八分着。
橋ヲ渡ル處デ鶴代ニ會フ スグ浅間ニ行ク。色々ナ話デ、ドーモ眠レナカッタ。余程金
ヲ持ッテ來タ様ナツモリデ、色々ナ注文ヲスルノデ、精算表ヲ見セテヤッタラ大ニスマナ
カッタトアヤマッタ

◆◆351ページ◆◆ 大正5(1916)年11月25日(土)

天気 曇リ少雨

九時頃起床 入浴 後チハジメ君來ル 亀松君ハ午後四時頃ニ來タ。鶴代ニコトヲ作
ッテヤッタノト亀松君ニ土産物ヲ買ッタノトデ丁度五十円出デシマッタ
写真ヲ二枚バカリ写シタ

亀勇自身デ借金ヲ返シテ來ルト云ッテ居タ 亀松君ガ出シソダ。ソウスレバ白戸ノ内
へ置イテ居イテモヨイト思ッタ 今夜ハソシナコトヤ將來ノコトヤ僕ノホンマノ記ヲ讀ンデ
聞カセテヤッタ。二人七時半頃歸ヘッタ

◆◆352ページ◆◆ 大正5(1916)年11月26日(日)

天気 曇リ

九時起床 朝食終ッテ宿ノ拂ヲスマセ一時頃車デ、亀松君ノ宅ニ行ク スグ色シナモノ
ヲ出シテツヒ永クナッタ。丁度お坐敷ニ行ッテルスデアッタガ、二時間程デ歸ッテ來タ。
坂松屋ノ主婦モ來タ 初メテ會ッタ 何ンダカ馬鹿ニ優遇サレタ。五時半頃大黒屋ニ行
キ小林ヲ呼び布ノ事ヲタノミ、スグ一寸一パイノシデスグ歸リ七時十二分發ニ乗ル 亀
松、ハジメ、鶴代モ送ッテ呉レタ。鶴代ハ前ニ辨護士ガ乗ッテ居ルカラ横ヲムイテお居デ
ナサイト注意シタ

◆◆353ページ◆◆ 大正5(1916)年11月27日(月)

天気 晴風強シ

五時新宿着 車ニテ麻布ニ帰ル 入浴朝食後鳥飼ニ行キ稲毛へ帰ル 又白戸ノ飛行機ガ逆立シタトカデ内ノモノモ皆手傳ツタトノコトデアッタ

今日ハ一向オチツカスゴダゴタデ夜ニ入ッタ

格納庫ガ大分大キ過ギタガト思テ居ルト五十円予算ガ違ガテ居タ。スグ大坂へ契約書送ル様云ツテヤッタ

◆▼354ページ◆▼ 大正5(1916)年11月28日(火)

天気 曇リ

七時起床 八時四十五分発ニテ上京 白戸ノ質屋へ行キ世帯道具ヲ借リル 白戸ト妻君大口同道、晝食後、河村ニ行キ大口大和會ニ行ク 夕食後大口帰リ來ルト同時ニ出テ、山田ニ行ク。半屋へ連レテ行カレタ 一時間バカリ雑談後電車ニテ中橋迄帰リソレカラ徒歩ニテ竹川町ニ至ル間、雑誌其他ノ買物ヲナシ帰宅後十一時頃床ニツク

◆▼355ページ◆▼ 大正5(1916)年11月29日(水)

天気 雨

七時過ぎ起床 朝食後九時頃散髪ニ行キ阿部ヲ待ツタガ來ナカッタノデ神田へ行ク お母サンニハ内所デアル。神田ノお母サンニ話ヲ聞クト、河村ノお母サンノ許ニハお春ヲ置イテ居ケナイトノコト 本人モイヤダト云フノデ、ソレナラ其ツモリデ僕ガ含ンデ話シスルコトニシタ 小供モ先方デ引取ルモサシツカエナイトノコトデアッタ。河村ノお母サンハモ―芝居ヲ見ニ行ツタトノコト 昨夜酒ノノミ振リニ一寸驚イタ ソシテドーモ様子が益々若々シクナルノデ実ハ心配デナイデモナイノダ デ引取ル以前ニハ兼助サンニモ會ツテ充分話シスルコトニシタ 帰宅後お母サンニソレトナク春君ノコトヲ聞キ、兎ニ角僕ノ方モ設計ダケシテシマワナイト皆遊ブコトニナルノデ其後ニスルコトニシタ。

七時頃阿部來ル 雑談二時間余 帰リ車ニテ雑誌ト実母散ヲ求メ終列車ニテ帰稻ス

◆▼356ページ◆▼ 大正5(1916)年11月30日(木)

天気 雨

大口東京へヤル 手紙ヲ見テソレゾレ返事ヲ出ス 宮口君晝前來ル 午後二時過ぎ帰ル 今日ハ設計モ計算バカリデアッタ

翼巾四尺五寸ニスルコトニシタ

夜ニ入ル

▲▼359ページ▲▼ 大正5(1916)年12月1日(金)

天気 晴

頗ル附ノ好晴 北風終日飛行日和 然シ寒イ日デアッタ 機体翼テール等大体製圖
出來タ 夜九時頃終ル。玉子酒ヲツクリノンダガ皆ノミキレズニ寢タ ウマクナカッタ
井上、佐野東京へ荷物取りニヤル 大口汽車ニテ行ク

▲▼360ページ▲▼ 大正5(1916)年12月2日(土)

天気 曇リ

終日製圖 夜材料調べ

大工百円貸ス 受取り明日持参スル由

晝前鳥飼氏來 十日頃迄百円貸シテ呉レトノコト 最(ママ)非返シテ貰フコトヲ約シテ
百円渡ス 受取り呉レナカッタガ今迄カラノ關係上請求モ出來ズ其マニシタ。ハイヤー
ヲ初メルトカノ話デアッタ

▲▼361ページ▲▼ 大正5(1916)年12月3日(日)

天気 雨

買入材料書出シニ終日カゝル

大口ト棟梁千葉へ檜材見ニヤル 一本四十円ニツクソーダ サイ十六錢二本アルガ一
寸八十円ハコタエルガ買ツテ居ケバ後チガ樂ニナルノダカラオナジコトダ
夜禮状ヲ出ス人名ヲ書キ出シタ 百弍三十名アッタ
白戸ノ飛行機今日完成シタ

▲▼362ページ▲▼ 大正5(1916)年12月4日(月)

天気 曇リ

何ニカト用事ニオクレル大口ニ百円渡シ材木ヲ引取ルコトニキメタ 十一時七分發加藤
ニ行キ、木材ノ買方ヲ研究スル ドーモサイヲゴマカサレタラシイ氣ガシタ

河村ニ行キスグ出テ阿部ヲ訪ヒ夕食ノ爲メソレデ出タ 虎ノ門ノ松喜支店ニテ食事中
モ式ノ製圖ヲ見セテ貰フ アマリ利益ニナラナカッタ 帰途アオイ館ニテ活動ヲ見テ帰
ル

▲▼363ページ▲▼ 大正5(1916)年12月5日(火)

天気 晴

朝食後加藤二行キ、時間ヲハカッテ鳥飼二一寸立寄り十一時松本楼二行キソレゾレ注文ヲナシ待ツコト約ク三十分 白戸來ル オイオイ新聞記者モ來リ朝日ノ藤枝ヲ最後ニ七人ソロウ 報知ノ國分君イツモ元氣ニアイソヨシ 藤枝君久シ振リニ會ッテ返ッテ若クナッテ居タ 中々勤勉家ノ聞エアリ 今モ一番オソク來テ一番早く帰ッタ 二時間散會加藤二行キ白戸ノプロペラトカバーノ話ヲナス内白戸來 共ニ出デテ新宿ノタンバック屋ニ行ク。ドーモヨクナイノデドノ位ヒ手間ヲ増セバ岸ノ様ニツクルカ返事スル様タノンデ帰ル 新宿デ分カレタ 河村包亮氏明夜會フトノコト

◆◆364ページ◆◆ 大正5(1916)年12月6日(水)

天気 晴

今日ハ一寸晝間ハ用事ガナイ。岸氏ノ飛行機ヲ見テ來様カト電車ニ乗タガ途中デヤメテ赤坂ノ豊川様ニ参リ九段ヲワッテ萬世橋デ降り松永町カラお徒町ニ出デウルシヲ求メブラ、ト永住町ニ行キ竹内宅ヲ訪ヒ川辺君ノ近況ヲ聞ク。ハルビンニ居ルガ處ガ一寸分カラナイソウダ 二月頃ニハ帰ル由

浅草ニ行キ電気館ノア、無情ヲ見晝食ヲヌキニッヒニ帰宅 夕食後包亮氏ヲ訪フ 約十分バカリ待ッテ帰ッテ來ラレタ。色々話ノ決(ママ)果お母サンハ一時僕ガ引取ルガ何ニ事ガアレバスグ河村氏ガ引取ルコト 妻君ニ小供ハ返ヘス 借金ノ方ハ其マ、捨居クヨリ外道ナカロウトノコト 之レニテ八時半帰途ニツク。巢鴨モ此ノ附近ハナツカシイデ以前居タ辺へ歩いて見タガ五年前ノオモ蔭ハ少シモナク小料理ヤ、寄席ガ出デテニキヤカデアッタ

◆◆365ページ◆◆ 大正5(1916)年12月7日(木)

天気 曇少雨

七時半起床 朝食後仕度ヲナシ春子夫人一足先キニ出余トお母サント本郷ノ寺ニ詣ル 十一時過ギ漸ク終ル 下モ枝サンノ事傳ニヨリ大學ニ包亮氏ヲ訪フ 春子夫人入嫁ノトキ多分佐久間氏ヲ仲立ニ頼ンダ様ニ思フカラ一寸注意シテ居クトノコトデアッタ 帰途上野丸万ニ入り電話ニテ神田ノ親父ヲ呼び隔(ママ)エンニッヒテノ希望ヲ尋ネタガ自然ノナリ行デアルカラ別ニ希望ハ何ニモナイ ソコヨロシクトノコトデアッタ。小供モセキハカエシタ方ガヨカロウトノコトデアッタ。帰途加藤ニ立寄り白戸ノプロペラノ話ヲナシ 四時半帰宅 お母サント春子夫人ニ別々ニドチラモマダ當方知ラヌフリヲシテ貰コトニシテ話シタ 兎三角白戸ノ家ガ明キ次第再ビ上京 スベテノ解決ヲツケお母サンガ稲毛ニ來ルト同時ニ妻君ハ里ヘカエルコトニ決タ

八時帰稲スルト少時話ス 例ニヨッテ自分一人デナニモカモ注意シテヤッタ様ナコトヲ云

ツテ居タ 山縣ガイバリチラシテ仕様ナ(ママ)ナイナドトモ云ツテ居タ
九時半夕食後床ニ入ル 眠レス落語ヲ讀ム

◆▼366ページ◆▼ 大正5(1916)年12月8日(金)

天気 雨

終日雨 七時起床 参拝 海岸散歩 日記 朝食後巡回飛行各地ノ禮状百廿枚バカリ出ス

河村包亮、大坂宅、原ボールド店、横浜電線会社、山田商店其他手紙出ス
午後格納庫ニ行キシバラク居タ

◆▼367ページ◆▼ 大正5(1916)年12月9日(土)

天気 晴

今朝お吉ガ少シ腹ガ痛イト云ツテ居タ。参拝 格納庫ヲ見マワリ朝食後日記 白戸ガヨビニ來タノデ行ク 峰岸ノコトデアッタ。一寸ロヲキイテヤッタ 十時頃練習ヲ初メタ。土屋ガ一度滑走 二度目ニ少シ上ガツテトンボ返リヲシテシマッタ。内ノモノニ修理ヲサセ白戸ノタノミデ十二時五十分發ニテ上京 加藤ノプロペラモ片ツイタ スグ帰ルタ
食後白戸ニ行ク 學校ト飛行部ト一期ノ練習生ノ所置ニツヒテ相談シタ。十時前帰宅
腹ガ痛イト云ノデトナリノ助手ヲ他ノ室ニヤリ自分ハソコヘ寢タガサテ心配デアッタ
ドーカカタワデナケレバヨイトソレノミ念ジタ 廿一時半シバラクスルト産婆ガ來タ 自分ハ一心太助ヲ讀ミナガラ様子ヲ見テ居ルトソロ、ウナリ出シタ 自分ノ腹迄カタクナルノガ覺エタ ヤガテ生レタラシカッタ 時計ヲ見ルト十一時十七分過ギ オー大キナ男ノ子ト産婆ガ云ッタ ウナリ声ノスル中白子ノ安産觀世音ヲ念ジタ。ヤガテ生(マ)マ湯ヲツカワス頃大キナ声デナキ出シタ コレデオシデモナサソーウダ
二時頃迄起キタリ寢リ眠ラナカッタ

◆▼368ページ◆▼ 大正5(1916)年12月10日(日)

天気 雨

白戸ノ飛行機十一時出來白戸試運轉 發動機一パイ引ケバ止マルトノコト 直線ダケシカ出來ナカッタ
朝格納庫ノ仕事ニタレモ來ナイノデ岸ノ格納庫テ行ツテ居ルノデ大工ニ大ニ文句ヲ云ツテヤッタ

新ツルギ號來ル。丈夫ニモ何ニモ馬鹿馬鹿シイ丈夫ナモノデアッタ。金ヲカケ居ルダケニ随分立派デモアッタ

夜田本遊ビニ來ル

▲▼369ページ▲▼ 大正5(1916)年12月11日(月)

天気 雨

今日モ雨 大工八五人來テ居タ 明日ハ全部白戸ノ方ヘ行ク由
午前機ノ組立ヲ見ニ行キ井上中尉ト原工學ト近ヅキニナル。午後少シ研究ヲヤツタ
夜夕食ヲ静遊館カラ呼ビニ來タノデ行ク 原ト井上ハ乱暴ナ男デアツタ 縁側カラジ
ヤーハハ小便ヲヤル。東京大坂ノ飛行ヤ夏ハ唐津カラ朝鮮ヘ飛行スルトカ大氣焰デア
ツタ。ソレデ明日モイキナリ上ゲテセマウト云ツテ居タ 宗里ハ二三度滑走シテ呉レト
云ツテ居タ 九時頃帰ル 井上、原ハ千葉ヘ遊ビニ行ツタ

▲▼370ページ▲▼ 大正5(1916)年12月12日(火)

天気 晴レ

久シ振リノ天氣ニナツタガ十時過ギ迄キリガ深カツタ 千覽氏來 白戸ノ宅ニテ雑談
十一時ツルギ號ヲ見ニ行ク 牽引力試験二百七十キロ 北西ニ向ツテ滑走 タイヤ細ク
ノメリ込シテ動カズ少シオシ出シテスタート 走り出スヤ右車輪浮キ上リテ左ニカーブ
車輪パンクス。

後チ再ビ北ニ向ツテ滑走 漸ク離陸スルヤ左ニ傾斜 右カジヲ取り漸ク水平ニナルトス
グ又上ゲタ 再ビ左ニ大傾斜ヲ初メツヒニ回復セズ 機首ヲ西方ニシテ左翼先ヅ地ニツ
キ機部ヲハカイシ一回轉シテ北向キニトマル 發動機最後迄働キ居タリ 之レニヨツテ見
ルニ初メヨリ左右ノ安定ヲカキ左傾斜ノクセアリタルモノヲ六(マ)理ニ飛揚セシメタル
結果ナリ 一応水平ニナリタル時着陸シテ機体ヲシラベルノガ順序ナリシナリ

夜皆引上ゲタリ。山県正夫氏中川君ヲ連れ來ル ニサイクルヲ買ヒニキタ人ナリト
僕ノ飛行機モ賣ルカトノコトニ値段次第デ賣ルト云ツテ居イタ

▲▼371ページ▲▼ 大正5(1916)年12月13日(水)

天気 晴

今日ハプレーンノカーブヲ畫キ材料ノコトバク書キ出シタ

天氣ヨク白戸ノ練習生ハ大分ヤツタ。シマイニ西出ガ左ニ傾斜シテ落ちテ右翼トプロペラ
ヲ壊(ママ)カイシタ

▲▼372ページ▲▼ 大正5(1916)年12月14日(木)

天氣 曇リ

六時十分前起床 仕度シテ白戸、宮野ト東京ニ行ク。相手ガ遅クナツテ十時頃漸クエ
ンジンガ出タ 何ンダカナツカシカッタ 昔ノノームソノマ、別ニドコモナントモナカッタ
鳥飼ニ寄タガ不在 タ方寄ル由云ツテ居イテ今朝ニテ晝食後加藤ニ寄リ青山ノームノ
持主ニ千覽白戸ト三人デ會フ。イロ、ノ末トドー七百五十円デマトマリ三百七十
五円支拂ヒシテ出タ 青山ニスチンソシ嬢ノ機ヲ見ル 一台ダケ出來テ居タ クラクテ
ヨクワカラナカッタ。新宿ノタンバック屋ニ行キニ台分注文シ三十円手金ヲワタシ受取
リ白戸ノ証明デ取ラズ。帰途鳥飼ニ寄ル。スチンソシ歓迎會デルス
九時稲毛着 大分風ガツヨカッタ

▲▼373ページ▲▼ 大正5(1916)年12月15日(金)

天氣 曇リ

日記ヤラ帳面ノ勘定ヲナシ、散髪ニ行キ午後三時十五分ニテ山縣ヲ連レ上京 其マ、
青山ニ行ク ヤハリ夜間飛行ハアツタ 宙返リハシナカッタ。イロハニテタ食後鳥飼ニ行ク
鳥飼十時頃迄帰ラズ 出タコト出タガ河村ニ帰ルノモオソシ 久シ振リデ仲ノ景色ヲ見
ルツモリデ行ツタ 浅草附近モアルイテ見タ 大分變ツテ居タ ソシテ淋シカッタ 君津
ハ知ツタ名ガナカッタノデ玉河内へ上ガタラワステ居ルト思タガ名前迄オボエテ居タニ
ハ驚イタ。一時過迄サワイデ寢タ

▲▼374ページ▲▼ 大正5(1916)年12月16日(土)

天氣 晴

八時半樓ヲ出テスグ鳥飼ニ行ク 不在 帰宅ヲ待チ請求ス 午後迄トノコトデアツタ
山県少時シテ帰ル 青山ニ行キ機ヲ見後チ山県ノ洋服注文ニ行キ、晝食後例ノ家ニ行
クト鳥飼モ來テ居タ 四回宙返リシタ 風ハカナリアツタ スミスカラ見テハトモモノニ
ナツテ居ナイガ、兎ニ角女トシテハエライ 鳥飼ハ其儘カヘツタ 矢野君ガ來 第二回目ハ
一回シカ返ラナカッタ 帰途河村ニヨリ山県稲毛ニ帰ル 後鳥飼ニ行ク 明日晝頃迄ニ
必ズ作ツテ居ルトノコト
帰宅 手紙ヲ三四枚頼マレテ書ク

▲▼375ページ▲▼ 大正5(1916)年12月17日(日)

天氣 晴

六時起床 朝食後六時五十分大口、其他白戸ノ練習生等ト共ニ上京 余ハ一人山田
ニ行キ広告飛行手取七百円ト云ツテ居イタ 鳥飼ニヨリ皆ヲ河村ニヤリ加藤ニ行キ馬

車ニプロペラ積ミ河村ニ行キ荷物ノ積込ミヲナシ晝食後神田ニ行キ小供ノ親ニ合ヒ籍ガ
帰ヘレバ返スコト 帰ラナケレバ學校ニ行ク迄無條件ニテ預ケルコト 學校ニ行ク様ニナレ
バ僕又ハ河村包亮氏ニテ引受ケルコトトノ話ガ出來上ガツテ四時帰ル お母サンモ神田
ニ行ク由 廿一日來稻ノコト 加藤ニテ今一本プロペラヲ受取り鳥飼ニ行キ夕食ヲ馳走
ニナル 金又廿一日ニ電カワセニテ送ルト云ツテ居タ。大ロノ「メイ」ヲ連レテ九時帰稻
夕食後スグ床ニ入ル 右ノ目カラ頭ヘ痛ンダノデ氣持悪ルカッタ

▲▼376ページ▲▼ 大正5(1916)年12月18日(月)

天気 晴

八時過ぎ起床 頭良クナツタガカタガ張ツテ仕方ガナイ

馬ガ來ル ソレヲ白戸ノ家ニオロス

日記ヤラ計算ヤ手紙ヲ書ク。夜アンマヲ取り切抜キヲ讀ム

七時頃三人車ヲ引イテ帰ル

▲▼377ページ▲▼ 大正5(1916)年12月19日(火)

天気 晴

八時過ぎ起床 白戸ノ宅ヘ行ツタ 丁度電報ガ來テ妻君ガ東京ヘ行ツタ。ドーモアヤシ

イト思ツタ。夜ニナツテモ帰ツテ來ナカッタ

十時頃ヨリ千葉ヘ行ツタ 表具師ニ額ヲタノンデ棒屋ニ行キカシヲ注文シ五円置イテ帰

ル セイミヤニ會ツタノデ並木ヘ晝食ニ行ツタ 帰途白戸ノ格納庫ヲ見テ帰ル

帰宅後檜材引割寸法書キヲツクル

機ノ組立ヲ初メタ

▲▼378ページ▲▼ 大正5(1916)年12月20日(水)

天気 晴

白戸ト色々話シガアッタ トードー山田ヘ一度話シヲシテ見ルコトニナツテ今夜上京スル

コトニシタ

白戸ハ寒川ハ引越シタ

恵美號組立出來上ル

お母サン來ルノガ遅クタ方ヤット來タ 妻君モ送ツテ來タ。おかヨドンハ今月中手傳ッ

テ來レル筈。ソシテ今夜東京行キハ出來ナカッタ

▲▼379ページ▲▼ 大正5(1916)年12月21日(木)

天気 晴

白戸ノ方ツヒニ金ガ出来ナカッタノコト ソレデ山田ヲ一ツ聞キ合スベク僕ガ今日上京スルコトニシタガ河村サンガ夕方ニナッテヤット來タノデツヒニ行ケナカッタ

◆▼380ページ◆▼ 大正5(1916)年12月22日(金)

天気 晴

八時起床 手紙ヲ書イタリ材料ヲ書キ出シタリゴタゝノ内ニ晝モ過ギタ 三時十五分出テ、春子君ヲ送リナガラ上京 両国ニテ分カレ山田ニ行ク 丁度夕食時ナノデ某旗亭ニ入ッテ夕食中白戸ノ状態ヲ話シタガヤハリ出来ナカッタ スグ分カレテ買物方々銀座通りニ出タ 円右円蔵二人會ガ金沢デアッタノデツヒ聞ク氣ニナッテ這入ッタ ソレデオソクナッテツヒニ仲ヘ行ッテ錦ニ會ッタ

◆▼381ページ◆▼ 大正5(1916)年12月23日(土)

天気 晴

八時起床 帰途久シ振リデ平野デ朝食。スグ稲毛ニ歸リ白戸ニ行ク。失望サセテ氣ノ毒デアッタガ之レモ止ムヲ得ナカッタ。夕方共ニ千葉町ヲ歩キ、セトモノノ買物ヲシタ。帰宅、八時頃眠ル

◆▼382ページ◆▼ 大正5(1916)年12月24日(日)

天気 晴

今日モ飛行日和デアッタ 汐ハ余リ引カナカッタガ十二時ヤッテ見タ 馬鹿ニ工合ヨカッタ タ白戸ノ格納庫ヲ見舞テ歸リ波状ト傾斜飛行ノ後チスパイラルボールプランデ降リタ

二回目隔(ママ)陸シテカラナンダカ変ナ感ンジガシタノデスグ降リタ 廻シテ見タガナントモナカッタ タバーニ二回切レタノミデアッタガ何モイヤナ氣ガシタノデ飛ンデ格納庫迄持ッテ行ッタダケデ中止シタ

白戸又昨夜奈良原カラ手紙ガ來トトカデ昨夜上京シ、妻君ハ一日コチラヘ來テ居タ記念写真ヲ写シタ

ウキモノ写真屋ガ婦人晝報ダナドト云テ飛行機ノ写真ヲ取りニ來テ居タ。

夜風引イ居タノデ藥ヲノンデスグ寝タ

◆▼383ページ◆▼ 大正5(1916)年12月25日(月)

天気 晴

後チ曇ル

今日ハ自分等ノ荷物ノ引越シヲナス

大坂ヨリ金來ル 禮狀ヲ出ス

山縣東京へ左右田東京支店へ取りニヤル

今日ハ井戸君ガ來ル。晝屋ガ來ル 中々ニギヤカデアッタ

◆▼384ページ◆▼ 大正5(1916)年12月26日(火)

天気 晴

朝キリガ深カッタ 今日ハ六時頃起床シタ 朝食後千葉へ買物ニ行ク道カラソロ、風ガ吹キ初メタ。後チ非常ナ風ニナッタ

製圖板ヤ仕上台ヲ買ヒ白戸ノ宅ニヨル 東京毎夕記者ト雜誌活殺ノ記者ガ來テ居タ色々話ノ末峯岸ノ事ニ及ンダ。ヤツ、親カラハスデニ五百円余ノ金ヲ受取り千葉デア費消シタコトガ分カッタノデ白戸カラ親ニ電報ヲ打ッタ 記者ハ峯岸ノ知り合ヒナノデ帰リニ父ニ話シテ貰フコトニシタ。コンナコトデタ方ニナツテ帰稻シタ

穴川ヤ黒砂辺デ處々波ノ上ガッタアトガアッタ 風ハスツカリヤンデ居タガ、ニゴツタ波ノミガ暗クナリカケテタ景色ノ中ニ一人狂ツテ居タ

◆▼385ページ◆▼ 大正5(1916)年12月27日(水)

天気 晴

今日モマタ風デアッタ

阿部ヨリ十五円ノ禮狀來ル

二村二十五円來月二十日頃迄ニ無心來ル。松本ヨリ病氣ノ由來ル ドレモコレモコレモドレモダ

大工七十円渡ス 大口二十三円二十錢渡ス

山縣ニ東京ノ諸支拂ヒヤ歳暮ニヤル

◆▼386ページ◆▼ 大正5(1916)年12月28日(木)

天気 晴

今日ハ北西ニ変シ寒風強シ

朝年賀狀ヲ書キ、モチヲツク 例年今日ト定ム

プレーンノ金物昨夜ノ考察モヨカッタガ又考へ直スコトニシタ

プレーンノ製圖金物ノ製圖ヲナス 夜七時半終リ雑談

山縣晝歸ル 奈良原氏不在ナリシト。鋼線ダメ ピヤノ線ト取替ヘルコトニス
山田銅管代間違ヒアラザルカ直手紙ヲ出ス

◆▼387ページ◆▼ 大正5(1916)年12月29日(金)

天気 晴

今日モマダ風

朝ノ用事、日記、新聞、手紙等ヲスマシテ十時頃白戸ヘノーム組立ニ行ク 三人モ見學
ニ連レテ行ク 白戸不在ナリシモ組立テ一時頃終ル
町デ買物ヲナシ散髪シテ帰稻 道々プレーンノ金物ヲ考ヘル 六時帰宅夕食。雑誌ヲ
讀ミ九時床ニ入ル 今日ヨリ初メテ自分ノ宅ニ自分モお吉モ寢タ
來信 宗里、海野

◆▼388ページ◆▼ 大正5(1916)年12月30日(土)

天気 晴

今朝ハヨカッタガ晝前カラ又風ガ強クナッタ

山縣^{ピヤノ線}買ヒニ東京ヘヤル

大泉トカ十六才ニナル少年ガ飛行機ノ設計ガ出來テルカト尋ネ來タノニ一寸驚イタガ
何ンデモ矢野君ニ頼ンデアルトノコトデアッタ。矢野君カラハマダ何ニモ來ナイ
色々話シテヤッタ 梅田ノ飛行機デ一寸ヤッタコトガアルノダトカ云ツテ居タ
夕方お飾ヲ買ヒニ大口其他ヲヤル。

発信 宗里、ケーブル注文、海野。返事、二村額ノ禮狀 昨日ヌイノシタガトベイタ。
廿五円無心スルコトモ

◆▼389ページ◆▼ 大正5(1916)年12月31日(日)

天気 晴

今日ハ風モナイダ 朝洗面後浅間様ニ参拝 本年度ノ礼ヲ述ベ來年度ノ幸ヲ祈ル 今
朝來床ノ中ニテ、花ノ日會的飛行会ニツキ考察シタ 賣子ハ中小學生ニスルコト

晝前ヨリ白戸來 夕方不動様ヘ参拝ノ約束ヲナス。然ルニ歸リノ汽車ナキ爲メ仕度シタ
レドモ中止ス。終日明日ノ準備ヲナス

山県無斷ニテ早朝帰京 夕方帰ル

夜モ明日ノ準備

午後セイミヤ來ル 一寸酒ヲ出シテノマセル

◆◆390ページ◆◆ 補遺

今年ハ兎ニ角多忙ナ且ツ多幸ナ年デアッタ 來年モ大ニ自重セザルベカラズ

飛行機モ正ニ二台ニナラントシ家モ出來格納庫モ出來家内モ出來小供モ出來自分ニ取ツテハ頗ル多難ノ年ナリシモ幸ニ無事通過シ得タレバ世間ヨリ見タル處頗ル多幸ナラン然リ 男子出生セルハ最モ最(ママ)先キヨシ。一言ニシテ云ヘ今年ハ天祐ノ年ナリキ 十二カ所五十七回ノ飛行モ皆天祐ナラザルハナカリキ 神ニ謝ス

大正五年十二月卅一、午後十一時 神ニ謝ス 然シテ又祈ル

◆◆391ページ◆◆ 補遺

大正5(1916)年1月8日(土)

(8ページから続く)

通過シタ 船橋ノ無線電信ハカスレテ先キダケガカスカニ見エタ 其内ニ江戸川尻が見エ出シタノデ沖ヘ沖ヘト出タ スグ行徳ノ町迄見エテ來タ。處ガ此辺ヨリブツ、、ト發動機ガ切レダシタノデ心配ニナツテ一曾ノコト海岸ノ砂地ガ広イノデ降り様ト思ツタ ソシテ、スローニシテグート下ゲルト震動ガナクナツテ同時ニ音モヨクナツタ 再ビ一パイ出シテ見ルト切レソーニモナカッタ 其内機ハ左右ニユレ出シタ 然シコ、デユラレル事ハ初メカラ予期シテ居タノデ驚カナカッタ。ソシテ、タエズ發動機ニ注意シタ 又バラ、、時々切レ出シタ 然シ止ル様ナコトハナイト思テ居ルノデヤツテ見ルト進ンダ 行徳ノ町ハ青イ帶ヲ敷イタ江戸川ブチニ、一寸ツマンデ置イタ程ニシカ見エナカッタ。江戸川ヲ越エルト機ハ安定ヨクナツタ。自分ハ其頃カラバラ、ト切レルトスローニシテ、後又一パイ出シテ走シルコトニシタ 帰ル迄二十度位ヤツタダロー。江戸川ヲ過ギルトスグ深川ノ大煙突が見エ出シタ 東京ノ町ハ、サイゲンモナク、広タト見ユルシテ山ノ手ハ霞ンデ見エナカッタ サスガ東京ハ広イト思タ。深川区ノ上ヲ進デ居ル時正面ニ大キナ白イモノガ、カスミノ中ニ二キハ浮キ出シタ様ニ見エタ 多分三越ダロー。其内隅田川ノ上ニ出タ 赤イ永代ガスグ右

◆◆392ページ◆◆ 補遺

大正5(1916)年1月8日(土)

(391ページから続く)

下ニ見エタ 此辺デユラレルダロート思タガ一向ソシナコトハナカッタ 煙ハ皆北ノ方ヘ流レテ居タ 隅田川ヲ越ストスグ左回りシテ築地ノ上ヲ濱離宮ニ出デ左折シテ月島ノ端ヲカスメテ江戸川ヲ目標ニ帰途ニツイタ。ムネノ辺ガ寒クナツテ來タノデ目鏡ヲ拭イテカ

ラ、ビンヲ取出シ酒ヲノンデスグ捨テタ 行徳ノ上ヲ飛ビ越シテカラハヤット安心シタ
ソシテモ一十五分アレバ稲毛ニ帰レルノダト思フト嬉シカッタ モ一十分津田沼モ過ギ
タ モ一五分検見川ガ見エタ。舟ノ沢山ナノヲ越シタ 機ヲグン、下ゲタ 格納庫ガ
見エタ スグ着陸仕様ト思タガ一回リシテ帰ッタ

山縣ガ日ノ丸ノ旗ヲ持ツテ飛ンデ來タ ソシテ行ツテ來マシタカト聞イタ。行ツテ來タ
ト云ツテ飛ビ上ガッタ 萬歳ヲトナエタ 大勢ノ小供モ皆萬歳ト和シタ。スグ機ヲ格納
庫ニ入レ帰ル道々海氣館ノ女中ヤ何ニカ、皆御目出度々々ト云ツテ呉レタ。挨拶ヲ
シナガラ帰リスグ今日ハ悪イ玉ガ左ノ方へ行ツタノデ左ノ目ガ痛ンダカラスグ目薬ヲサ
シテ貰フ 駅長ガスグ這入ツテ來テビールヲ二本トミカンヲ呉レタ デ、祝宴ヲ開クコト
ニシタ 會スルモノハ大工ノ ■ト運送屋ノ主人ト駅長。尾崎氏ノ帝国ホテルニ於ケル祝
宴

▲▼393ページ▲▼ 補遺

大正5(1916)年5月28日(日)

(392および158ページから続く)

ニ勝ルコトコレデモ数等ト自分ダケデハ思ツタ

飛行ハ深川迄二十五分デ達シ往復五十五分デアッタ 鳥飼氏ニ打電シ河村白戸ニ、知
ラセテ貰フ。草道トイウ青年ガ矢野君ノ手紙ヲ持ツテヤツテ來タ 米國へ行クノダソ
ダガ一二ヶ月研究シタイト云フカラ見セテヤツテ呉レトノコト 費用ハ自分デ持ツ由。
其承知シタ旨ヲツゲ飛行機ヲ見セルト其男ハ十五六日頃カラ來マストテ、スグ帰ッタ
自分モ六時デ東京ニ行ク 河村サンニヨツテソレカラ鳥飼サンニ行ク。ヨク見エタトノコト。
御馳走ニナリ九時白戸ニ行ク ドコデモ皆ヨロコンデ呉レタ

此夜宴アリ サワガシクシテ、ツヒニ眠レナカッタ。稲毛ハ萬朝カラヤツテ來タ 東京デ
ハ鳥飼カラ皆知ラレルト、ヤツテ來タトノコト。千覽サンハ白戸ガ知ラセタ由

5/28

先ヅ無事ニ飛行ヲ終ッタ 此處デハ郡長、署長小學校長來 多数ノ出向ヒヲ受ケ機ノ
説明ヲナシ萬歳ヲ唱ヘラレタノデ自分モ郡ノ萬歳ヲ三唱シテ宿ニ帰り晝食 説明ヲ終
ル頃風ハ吹き出シ午後ハ随分吹イタ

▲▼394ページ▲▼ 補遺

大正5(1916)年7月3日(月)

(393および198ページから続く)

今朝モ十時頃ハ中々吹イテ居タソーダ ソースルトガソリンノ悪ルカッタ爲メ遅レタノモ
天祐デアッタ 丁度自分ガ着陸スル間ダケ風ガナカッタノデ奇ト云フガ幸運ナノガ
タビシハ神ノ容助ト云フノデアロー

六時五十五分ニテ長野ニ帰ル。機ハ稻荷山小學校ニ入レ展覽會ヲナスコトニ決ス 明日
一日ダケ。夜濱氏來 十一時過ギ床ニ入ル

百九十八頁七月三日ヨリ

群衆ハ盛シニ畑ノ中ニ這入ツテ來タ 大勢ノ人々ハスグ機ヲカルヅトカツキ上ゲテ河原
ニ運ンデクレタ 余ハ百姓衆ニワビヲシナガラツヒテ來タ ト一ヶ所ムチヲ手ニシタ一名ハ
ナントシテモ通行サセナイト云フ 余ハ少々シヤクニサワツタノデ他ノ畑ヲ廻ロートシタ
ガ、ツヒニ通ルコトニナツタ。 機ガ場内ニ入ルカ入ラナイ内ニ百姓ハ警官ニ畑ノ損害倍賞
(ママ)ヲ申込ンデ來タ 余ハ實ニ憤ガイニ堪エナカッ

◆◆395ページ◆◆ 補遺

大正5(1916)年7月5日(水)

(394および200ページから続く)

タ 各新聞記者連モ一厘モ支拂フ要ナシ 自分達ノ處ヘヨコセトカンデ居タガ小林ガ五
円ヤツタヨデアッタ。トニカク力ガ足りナイノデ一度分解シタク中止シテ貰フコトニシ
タ。スグ分解 四時頃バルブノ滑ヲ合セ中自分ハ駐在所ニ寄り帰ル 二人ハ松屋ニトメル
コトニシタ。

帰宅 入浴 打電中濱氏來 共ニ夕食中小山氏來ル 十時半迄談話 ホールスカットノ
話バカリデ床ニツク 大平ヲ越シテ來タ由

七月五日 二百頁ヨリ

坐光寺村ヲ通ル頃カラ上ゲ舵ガグン、聞イテ來タ ヤハリ追風デ押下ゲラレテ居タノ
ダ 場上デ傾ケタリ両手ハナシタガ下ノ人ニ六分カルマイ 一廻リシテ下リタガセマイノ
デオリニクカッタト同時ニ石ガ大キイデゴムガノビテ櫓ノ下ガゴツ、アタル 身体ヲハネ
上ゲラレル位デアッタ ヤット止ツタノデスグ下リテ見タガワイヤーガ五六本ユルンデ居
タガ別ニコワレタ處モナカッタ。シートノ板ガ折レテ居タ。後チノ話ニハキタイ上ノ柱取
付ノ處ガワレテ居タソーダ。

自分ハ伊藤君ニ金ノ請求ヲシテ居イタ 濱君ハ諸拂ヲスマシテ残リヲ僕ニ支拂

◆◆396ページ◆◆ 補遺

大正5(1916)年9月3日(日)

(395および264ページから続く)

テ呉レトノコトデアッタトノコト。少シ氣ニ障ッタガ其マ、帰ッタ。晝食ヲ喰フ 宿ノ人モ皆嬉(ママ)ンダ 其内新聞社ガ來タ 一寸話ス内講演會ノ迎ヘガ來タ 行ク 少憩後講ニ導カレタ 六年以上ノ學生ガ大部分デアッタ 校長ノ照會(ママ)ガアツテ自分ガ先キニ一寸挨拶ガワリニ安定問題ヲ一寸話シ、小山氏ハ二時間ニ渡テ話シタ 小供ヲアキサセナイ處ハ實ニナレタモノデアッタ。話ハ切抜ヲ見レバ大体ハカル 濱氏ヨリ○伊勢へ全部送ルトノコト打電アリタリ。夜クラクナツテ二人共帰ツテ來タ アス二人出發サセル爲小林君ニ廿四借リテ來タ 夜急ニ宴會ガ催サレルコトニナツテ、行ッタ 十時過ギカラ初マツテ十一時半帰宿ス

九月三日

ツタノデアッタガ残念デアッタ。晝食後修理ニ着手シタ マグネトハ一番ニ上陸スルトスグハツサレタノデ多分大丈夫トハ思フガ廻シテ見ル迄ハ安心

◆▼397ページ◆▼ 補遺

大正5(1916)年9月26日(火)

(396および286ページから続く)

出來ナイ 右下翼ダケハ出來上ガッタ テールヲヤ、丈夫ニシナケレバナラナイ 八時帰宅 着物ヲ着替ル間モナク三池郡醫師會長村尾信雄ト云フ人ガ尋ネテ呉レタ 佐々木カラ電報デ見舞ガ來テ居タ。宅カラモ來タ 返事ヲ出ス 稲毛ニモシラス。食後九州日報ガ來タ。

後アンマヲ取ル 久シ振リデ働イタノデ大変クタブレタ

287九月廿六日

夜岡野ト云フ刑事ガ來タ 飛バナケレバ入場料ヲ返ヘスニシテモ一應ハ取シラベナケレバナラナイトノコトデアッタ 其時丁度藤枝ガマダ居タガ一寸スルト前記ノ証書ヲ入レテ帰ッタノデ鳥飼ニ其説明ヲサセタ處酒ニヨツテ舌ガ廻ラズ、云フコトガトンチンカンデ、ソバデハラ、シタ

◆▼398ページ◆▼ 補遺

大正5(1916)年10月1日(日)

(294ページから続く)

十月一日

爲メカムガ働カナクナッタノデアッタ スグ修理ハ出来タノデ試運轉ヲヤッタ 頗ル工合ガ宜イノデ五時過ギ再ビヤッタ。ナンダカ止マリソーナ氣ガシテ仕方ガナカッタ ヤハリキレタ。スグ降りヨウト思タガ場ノ上ニ帰ッタ時丁度工合ガヨクナツテ來タノデ二ツ三ツ廻ツテ降り様ト思ヒスデニ小センカイモ終リ降ルベク港沖ノ方ヘ向ツタ時又バラヽトヤリ出シタ。スグ降ル處ハトサガシタガ海ト小サナ松ノアル島バカリデアッタ ヒヨイト下ヲ見ルト、洲ガ一ツ見エタノデソレニヤロートグツト下ゲタ 今迄ニ初メテノ急角度デアッタ。シリガフィット浮ヒテアブナクホリ出サレソーニナッタ。トテモソコハマリ近スギデダメラシイノデ此上ハ仕方ガナイカラナルベク海岸ノ方ヘト思ツテヤッタ 或ル島ノ手前デツヒニ水ニフレテシマッタ スグシヅミ初メタノデ、浅イダロート思タカラ、マグネトヲ助ケルツモリデスグテールノ上ニ昇ッタ。ハタシテ

◆◆399ページ◆◆ 補遺

(398ページから続く)

頭部ハ持ち上ガツテマグネトハ水面ニ浮ンダ ベタト思フ内今度ハ全体ガシヅミ初メテ上翼迄達シタ モーアキラメテシマッタ 三百円ナキ分レダ タコヲ釣ツテ居タ船ガ來タノデソレニ乗セテ貰ヒ前ニ廻ツテ、中央ノ柱ニ先ヅロップヲツナイダ 先ツ一安心ダガ益々シヅムノデ聞イテ見ルト十五尋アルトノコト ソレハトテモダメダ 他ノ舟ガ來タノデ、太イ、ロップトムスビ替ヘタ 其内來タワヽヽ無数ノ舟ガヤツテ來タ。掛ノ人々モヤツテ來タ。

引船シテ陸ニ近ヅイタガ潮流ガハゲシイノト急傾斜トデ大分手間取ツテ上ガッタノガモ眞暗デアッタ。ソレゾレ手傳手ニ酒ヤニギリメシヲ出シテ自分ハ八時頃帰ッタ 南風楼カラ盛ニ呼ビニ來ルノデ湯ニ入ルトスグ九時頃鳥飼氏ト行テ十時過ギ帰ッタ。今日ハ操縦術ノ上ニ大ナル利益ガアッタ

◆◆400ページ◆◆ 補遺

大正5(1916)年10月3日(火)

(296および308ページから続く)

十月三日

ソレニ以上ノ如ク自分ガマダヤルトモ何ントモ決定シナイ内ニ鳥飼ハ貨車ヲ注文シテアッタ。晝場ニ行ク途中人夫ニ會ツテ今夜ノ夜番ヲタノムト汽車ニツムカラ夜番ハイラナイトノコトデアッタト何等ノ想談モナイ 実ニ不都合千万 無理ヤリニ長崎伊田ヲヤラセテシマオートスル計畫デアッタコトヲサトツタガ、カクナレバ仕方ガナイ 運命吾ヲ今ダ見捨ザレバ命ダケハ残ルデアロー。

夜皆ト宿デタ食ヲ一所ニ仕様トヤリ初メタ處ヘ有志ノ宴會ガアルトノコトデ平野屋ヘ一人ヨバレタ。挨拶モヤ、ウマクヤレタ 九時頃歸リ食後床ニツク

十月十六日

思タコトハ僅カニ三四分ノ飛行中五度バカリアツタ 着陸ハ飛行中随分心配シタガ幸ニ無事デアツタ 主催者ノ三淵ハオイ、泣イテ僕ニ謝シタ 余モ幸ニ無事ナルヲ得タノデ涙ハ思ワズムセテ言葉ガ一寸出ナカッタ 降タ時山縣ハ有難々々トコレモ涙声デアツタ 時間ハミジカ、ツタガアノ状態ヲ見テ皆満足シテ歸ッタ スグ機ヲ分解ス

高野氏昨日ノコトヲ大ニワビテ居タ 夕食ヲ御馳走ニナッタ 中島本宅ニ行キ男子出生祝ノカード数ブン出來ナカタコトヲ謝シ子僧ヲダイテ歸ッタ 八時五十分發 十時半飯塚着 十二時床ニ入ル

400～410 ページ

知人名簿

住所	電話	氏名	関係
東京府下雑司ヶ谷金山三一四		矢野周一	
々巢鴨町一一九二		太田祐雄	
柏崎島町		田村清五郎	
々々		罇栄五郎	
長岡文治町山川楼		長谷川トモ	
成都小珠内刀子巷 31		志賀潔	
大坂市南区西円手町一〇一二		竹島工場	
東京市本郷区元町一ノ三		東京割烹講習会	
磐城国平町字紺屋町	一五九	住吉屋青天目政ノ助	
大坂市東区船越町二ノ五		藤井靖造	
401 ページ			
千葉県香取郡佐原町関戸		田中要吉	
南品川一一三		都築鉄二	
牛込区若松町五八		松木富之助	
浅草区七軒町四番地梶山勝蔵方		中沢長太郎	
小石川区原町十番地		志賀潔	
深川区佐賀町二丁目	本所一九六八	杉浦商店 草道本	
山形市四日町		草道精米所	
東京府下荏原郡入新井村望翠楼ホテル隣		吉永振作	
神田区表猿楽町四 萬重善七方		朱晴波	

東京府下豊玉郡巢鴨町庚申塚六〇	番町二六九三	利根次生	
広島市京橋町八九番邸		山縣百太郎	
403 ページ			
松本市上ヶ土町實業ノ信州社		小林臨作	
広島市河原町萬春園		吉村カツ	
三重県四日市々江田町		玉井豊太郎	
近衛歩兵二ノ四		玉井藤一郎	
大坂西区松崎町二丁目四 秋田商店		伊藤五二郎	
大坂市南区恵美須町二ノ八三		大野徳太郎	
麴町四番町十番地		国民飛行會	
東京府下豊多摩郡渋谷町下渋谷六一四		渡辺一英	
麴町区飯田町五ノ三六東洋館		宗里悦太郎	
京橋区八丁堀		旭商会	バーナー アセチリン
深川		桑原ヤスリヤ	ハガネ イモノ
東京市麴町区土手三番町一〇		小野正三	
404 ページ			
佐賀県東松浦郡相知村大字千束		小松徳次	自稱發明家
匝瑳郡椿海村		宮内臣	血書
大連市信濃町一一一吉林方		伊藤四良平	
北海道夕張郡登川村字清水沢		栗山仁三郎	夕張飛行
神田区西小川町二ノ一		大日本航空學會	一ヶ月 60 五ヶ月
岡山県御津郡石井村島田		坪田宇一	

信州岡谷 シナノタイムス		濱惣重	
々平ノ村字小口		高橋政義	
旭川二六ノ七		武田豊吉	
芝田町一ノ十二		白戸榮之助	
有楽町一ノ一 金属鉱業研究所	本局一八〇四	志賀潔	
405 ページ			
南品川三ノ三二		都築鉄二	
松本市上土町		白鳥恭男	
旅順市月見町満州飛行研究会		木田扣	
大坂北区曽根崎町中二丁目 平井館			
京都七條駅前 山ツル旅館		山県政夫	
台北士林園藝試験場内		荒瀬匡人	
巖手県盛岡市内丸		巖手日報	禿氏岳山
山形市停車場前 国民支局		堀田	
神戸市下山手通り七ノ三六六		田中幾太郎	
久留米市日吉町 富松金太郎方		鳥飼繁三郎	
東京京橋区湊山町四	新橋一三〇	朝日新聞	
赤坂霊南坂十番地		阿部康蔵	
406 ページ			
山田氏外宮前宇仁館本店ニテ		小山黒天風	
東京芝区桜田伏見町十二	新三〇二八	清水商店	油屋
日本橋筋五丁目四十四番地		松谷吉二郎	

東区博労町一丁目		酒井庄太郎	
小石川区音羽町六ノ弐七	南四九六〇	宗里悦太郎	
下伊那松尾村		松下弥津吉	
南区貝柄町		佐々木商店	
恵美須町三		植田儀三郎	
新世界中ノ町		ヤヨヒ	
貝柄町		金沢テル	
宮崎町広瀬旅館		田中幾太郎	
407 ページ			
久留米市荘島町		北村剛介	
麻布区竹谷町五 小林方		白戸榮之助	
西区三軒家東紡泉尾社宅内八十三		志垣スミ恵方 公恵	
福岡県戸畑鋳物株式会			鋳物屋
神戸海岸通り二丁目二八	(プロペラ)	東亜書院 高橋重吉	
麻布新網町一ノ一二		伊藤	
西ノ宮浜久保		小山保夫	
福岡市外春吉三番丁七三九	博多毎日五九五	中島秀雄	
神田鍛冶町九番地		須原幸	
下谷区上野町一丁目十七 石田和三郎方		布施ナホ	
東区釣鐘町二 加藤方		佐野清三郎	
長崎西浜町八十五番地		岡本為吉	長崎 受負師
408 ページ			

長崎榎津町		田口梅太郎	長崎 主催者
福岡市外春吉町三番丁ノ七三九		中島秀雄	
長崎要塞司令官		川田大佐	
長崎中川町		西島助義	男爵
長崎桜馬場町		黒田嘉六	
嘉穂郡穂波村		中島広業所	
々		楠林徳次郎	
々		高野喜六	
々		田中正身	
々		中島清	
409 ページ			
松本市下馬出し 高瀬館		小林臨作	
別府町町役場		清水信太	
別府町		日名子太郎	
々町長		磯沖菊蔵	
々警察署長		小野七郎	
々		岡野定治	
々		武田綾太郎	
々		山田耕平	
々		矢野亀太郎	
佐渡島商店		土井正ノ助	
大坂上福島中四丁目二一七 今村栄次方		上野政次郎	

南区難波新川停留所北		大西スプリング製作所	
410 ページ			
武州浦和町田村屋		加藤保夫	

収入録

月日	摘要	金額
	繰越金	35.000
15	加藤	5.000
14	白戸	2.000
25	河村母サンヨリ借	5.000
	合計	49.000
2/1	白戸ヨリ	35.000
2/17	々	1.500
2/22	々	5.000
	々 店祝	2.500
	々 ガソリン	15.000
	々 大口	2.500
	々	5.000
	合計	66.500
3/6	白戸ヨリ	10.000
3/10	同	5.000
3/18	宗里君ヨリ	100.000
23	切手巻紙、紙 合計	115.330
	残高	13.000
4/12	白戸ヨリ	8.000
4/15	鳥飼氏ヨリ栃木契約金	150.000
4/6	河村氏ニテ借り	15.000

416～

支出録

月日	摘要	金額
1/元	成田参詣大口本郷二君ト	3.500
2	千葉行 千字文.46 繪ノ具.05 牛肉.56	1.070
4	東京往復.65 牛肉 2.29 紙手帳ブック其他 2.13 車.15	5.500
5	切手.15 繪葉書 12 雜記帳.05	.320
6	アルバム 1.10 定木.04 台紙.9 散髪.30 晝食 2.65 茶碗.37	4.550
々	チューブ 8 エナメル 30. テープ.35 ゴムノリ.24 二個 豊サン.50	9.390
8	ガソリン二ガロン	1.500
9/11	ハガキ切手.30 東京行.70 電車.45 電報.30	
	ハガキブック.80 加藤年玉.20 車.15	2.900
12	千葉行大口ト二人 ハガキ 10 枚	1.900
15	大口 1. 豊サン.50	1.500
13/14	東京往復	2.000
17	紙.09 東京行 1. 河村写真 1. 鉄板 1.45	3.600
20/22	東京行キ	2.000
23	散髪雑誌葉	.600
24/27	大口ト東京往復 ハカギ.15 印旛沼 1.25 ビン 15	3.500
29	松一鉢	.300
30	新聞代ト雑誌代	.780
	不明	2.090
	合計	47.000
2/1	上總屋拂十二月迄皆済	34.830
2/8 迄	石鹼ハガキハミカキ其他	1.000
2/16	草賀へ	1.000
417 ページ		
2/21 迄	タビハガキ十枚紙葉等	.600
2/22	大口へ見舞二円 タイヤ代二円	4.000
々	白戸へ草賀タバコ代	.500
27	上總屋祝	1.700
28	ガソリン二箱	15.000
々	大口香料	2.500
々	炭カン手金其他	5.000

	合計	66.130
3/6	千葉行見舞 1.43 お吉 1.	2.430
3/8	香料 1.50 山形方同.50	2.000
3/10	千葉行キハガキ切手紙其他雑	1.500
3/11	河村氏返金 5.0 名刺手金 1	6.000
3/19	店	25.000
々	大口	15.000
々	スダレ	5.000
々	石鹼ト植木	.200
20	各納庫木材 3.00 名刺判	5.440
21	洋服ユール	9.000
々	東京行写真 1. エハガキ.10 手帖.30 パン.48	2.610
々	キリヌキ 1.5 イナリサン.08	2.300
23	巻紙、紙、切手	.330
418 ページ		
25	タビ、格納庫用釘ワイヤ	.720
27	格納庫手間賃	2.800
々	頭馳走 8.5 お吉 1. 店.50 汽車ハミガキ墨汁ゴムタビ散髪	11.150
28	千葉行、下駄一足花等	1.700
31	東京行汽車.91 夕食 1.25 電車.18 雑誌.20 クギ、テープ.75	3.290
々	山形東京行	1.500
々	下駄、講義録、健胃団腹丸	.700
々	ヒモ(ロープ)	.460
	不明	2.870
	合計	102.000
4/3	ソース、ハンコ、ヘット、クスリ	.900
5/6	千葉東京行	7.150
6/9	藤枝往復スミス見學助手共	14.800
4/12/13	汽車.70 電車.45 食事二.80 ナラハラ.70	2.650
々	モービル 1.85 ナット三十.60 ホーサン.05	
	本トエハカキ.47 ペンキ.10 薬.20	3.070
15	東京往復 千葉往復	1.800
々	河村氏へ返金	15.000
々	東京行豊サン.66 電報 1	1.660